Title	十九世紀末のセデック語資料『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』: 百余年後の言語学的考察
Author(s)	落合, いずみ
Citation	1-140
Issue Date	2020-11-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/79811
Туре	research report
File Information	On a Seediq glossary recorded in 1898.pdf



Instructions for use

十九世紀末のセデック語資料『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』

一百余年後の言語学的考察-

On a Seediq glossary recorded in 1898: Linguistic investigation after one hundred years and more

落合いずみ

北海道大学アイヌ・先住民研究センター アイヌ・先住民族言語アーカイヴプロジェクト報告書2020

十九世紀末のセデック語資料『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』 一百余年後の言語学的考察一*

On a Seediq glossary recorded in 1898: Linguistic investigation after one hundred years and more

落合いずみ Izumi Ochiai

This paper concerns 'A glossary of Horisha-Atayal' a manuscript written by a Japanese officer Arao Eima in 1898, which is after three years of Japanese colonization. The language Horisha-Atayal coincides with the Paran dialect of Seedig. In the preface of his glossary, Arao explained that the language data was provided by a Sinicized Formosan man stationed in Puli governmental office as an interpreter of Seediq. This preface suggested that the informant's mother was of Seedig origin, and his father was Pazih origin. This glossary is one of the earliest document of Paran Seediq. It also contains more than 500 vocabularies which was considerably larger than the other glossaries at the same age. The aim of this paper is to present Arao's glossary with annotation by modern Paran Seediq and to compare the Paran Seedig in two different times from grammatical viewpoints (phonology, morphology, lexicon, and syntax). In his writing, Arao used some diacritical marks on vowels. It turned out that he used these marks to indicate the position of the stress and the difference of the vowel quality. As the analysis of the glossary showed, the informant's Seedig was mostly accurate on the word-level but it was less accurate on the phrase-/clause-level. It also became clear that the glossary mistakenly contained some words from Truku Seediq, Atayal, Pazih and Southern-Hokkien. Arao's glossary was wrongly cited by Naoyoshi Ogawa in his A Comparative Vocabulary of Formosan Languages. This vocabulary book contains Seediq data provided by 'Arai'. This paper identifies the data 'Arai' with Arao's glossary by extracting and listing their overlapping items. The comparison of the two datasets made it clear that Ogawa added some modifications to Arao's writing probably based on his own knowledge of Seediq. One of the modifications was to delete Arao's diacritical marks on the vowels, which was counterproductive since some vowels became indistinguishable.

キーワード: 台湾オーストロネシア諸語 セデック語 アタヤル語 パゼッヘ語 語彙集 Keywords: Formosan languages, Seediq, Atayal, Pazih, glossary

^{*} 本稿は2016年3月21日に言語記述研究会第70回例会(京都大学)において行った発表を基に発展させたものである。本例会に参加されていた方々には、荒尾(1898)の手稿中の項目における注釈の判読にご協力いただいた。例えば、吉岡乾氏の機転により手稿の項目395にある果物名「いくり(郁李)」を判読することができた。千田俊太郎氏にも判読にご協力いただき、有益な助言もをいただくことができた。荒尾による端書の判読に当たっては、平子達也氏を始めとした日本語を専門にされる方々の協力を得ることができた。月田尚美氏には本稿全般に渡り、さらに特にセデック語トゥルク方言の視点からも多くのご指摘をいただいた。また草稿の段階の本稿をお読みいただき、改善のためのアドバイスをしていただいた方々など本稿に関わったすべての方に感謝申し上げる。ただし本稿の不備は筆者のみに責任がある。なお本稿は北海道大学アイヌ・先住民研究センターにおけるアイヌ・先住民言語アーカイヴプロジェクト(代表:丹菊逸治・北原モコットゥナシ)にご賛助いただき発行に至ったものである。

目次

1.	はじめに	4
2	現代セデック語パラン方言の文法概略	8
3	『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』と現代セデック語パラン方言	11
	3.1 方針	11
	3.2 端書	. 12
	33 語彙集	. 13
4.	母音	. 44
	4.1 現代パラン方言における a	. 45
	4.1.1 語末音節	. 45
	4.1.2 次末音節	. 46
	4.2 現代パラン方言における i	. 48
	4.2.1 語末音節	. 48
	4.2.2 次末音節	. 49
	4.3 現代パラン方言における u	. 51
	4.3.1 語末音節	. 51
	4.3.2 次末音節	. 53
	4.4 現代パラン方言における e	. 55
	4.4.1 語末音節	. 55
	4.4.2 次末音節	. 55
	4.5 現代パラン方言における o	. 58
	4.5.1 語末音節	. 58
	4.5.2 次末音節	. 58
	4.6 現代パラン方言における uy	. 59
	4.7 現代パラン方言の母音と荒尾の表記の対応のまとめ	. 59
	4.8 荒尾の表記に見られる前次末音節母音について	. 61
	4.8.1 母音から始まる場合:音韻規則の未適用	. 61
	4.8.2 子音から始まる場合:歴史的な音素の保存	. 61
5.	子音	. 65
	5.1 現代パラン方言の y	. 65
	5.1 現代パラン方言の w	. 67
	5.3 現代パラン方言の p	. 68
	5.4 現代パラン方言の b	. 69
	5.5 現代パラン方言の t	. 70
	5.6 現代パラン方言の c	. 72

	5.7 現代パラン方言の d	73
	5.8 現代パラン方言の k	75
	5.9 現代パラン方言の g	77
	5.10 現代パラン方言の q	78
	5.11 現代パラン方言の s	80
	5.12 現代パラン方言の x	81
	5.13 現代パラン方言の h	83
	5.14 現代パラン方言の r	85
	5.15 現代パラン方言の1	87
	5.16 現代パラン方言の m	89
	5.17 現代パラン方言の n	91
	5.18 現代パラン方言の ŋ	94
	5.19 現代パラン方言の子音と荒尾の表記の対応	96
6.	語彙的考察	97
	6.1 セデック語トゥルク方言の混入	97
	6.2 アタヤル語の混入	98
	6.3 パゼッへ語の混入	99
	6.4 閩南語の混入	. 100
	6.5 語頭・語中における分節音の無表記	. 100
	6.6 現代パラン方言では廃れた指示詞	. 101
	6.7 細分化された語彙の未使用	. 102
7.	形態的考察	. 104
	7.1 非動作主態の形態の違い	. 104
	7.2 命令形の違い	. 104
	7.3 否定辞後の形式の違い	. 106
	7.4 時制の違い	. 106
	7.5 動詞連続における後部動詞の形式の違い	. 107
	7.6 代名詞の形態の違い	. 107
8.	意味的考察	111
	8.1 二人称と三人称の用法の違い	111
	8.2 疑問詞「いつ」の用法の違い	. 112
	8.3 否定辞の用法の違い	. 113
	8.4 指示詞の用法の違い	. 113
	8.5 egu の用法の違い	. 115
	8.6 kuxun の用法の違い	. 115
9.	統語的考察	. 116

9.1 修飾関係の語順の違い	116
9.2 主語の語順の違い	118
9.3 疑問詞の語順の違い	120
9.4 時を表す表現の語順の違い	120
9.5 数詞・数量詞の語順の違い	121
10. 『臺灣蕃語蒐録』の「23a(荒井)」と『埔里社撫墾署管轄北番語集』	123
10.1 小川と荒尾の対照表	124
10.2 セデック語パラン方言以外の語彙を挙げた項目の一致	133
10.3 小川が加えた「23a 荒井」への変更	134
11. おわりに	136
参考文献	137

1. はじめに

三尾 (2009:167) には、日本統治時代 (1895-1945) の台湾において、台湾原住民諸語(台湾オーストロネシア諸語)を編纂する調査研究が計画されたことが記されている。これらの言語採集に際しての模範となったのが「蕃語編纂方針」という冊子だったと言う¹。そしてこの方針をもとにいくつかの言語の語彙集が作られた。その中のひとつが、台湾大学図書館に現存する荒尾 (1898) という文献、すなわち『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』だと述べている。

筆者は2015年9月に台湾大学図書館の特別所蔵区を訪れた。そこに保管されている伊能文庫(伊能嘉矩氏による執筆作品および収集資料を収蔵)に興味があったためである。伊能文庫のおびただしい資料の中から、背表紙に『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』と印字された書物を偶然に手に取ってみたところ、この資料がセデック語パラン方言(オーストロネシア語族・アタヤル語群)を記録したものであることに気がついた次第である。

『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』荒尾 (1898) にまつわる背景を簡単に説明する。「埔里社」とは台湾中央に位置する地名である。「社」という名称は、台湾先住民の集落に当てられる。これに対し漢民族の集落は「庄」という字を用いる。19世紀末の埔里社は、台湾西部から移住した平埔族 (パゼッへ族、バブザ族、タオカス族、パポラ族、ホアニア族) が暮らす集落群であった。撫懇署とは、台湾が清朝の統治を受けていた時代に設けられた管理局である。この制度は、日本統治時代 (1895 年から 1945年) の初期まで引き継がれた。現在の行政区画では埔里鎮と言う。以下では地名として埔里を用いる。

台湾の地理的中心部とされる埔里は盆地である。周囲を山で囲まれ、近辺の山々には山間部の先住 民族が控え、北はアタヤル族(アタヤル語群)、東はセデック族(アタヤル語群)、南はブヌン族、サ オ族の勢力範囲である。アタヤル族とセデック族はこの時代、共に「北蕃」(台湾北部の先住民族) と呼ばれた。北蕃(アタヤル族・セデック族)の勢力範囲は図1において影をつけた部分に当たる。

¹ 本冊子の書誌詳細については三尾 (2009) を参照されたい。

^{2「}蕃」とは、漢民族が台湾先住民族に対して用いる名称(蔑称)である。

³ この図は森 (1917) を参照し著者が作成した。

四角で囲った6つの集落がセデック族に属する。それ以外はアタヤル族の集落である。

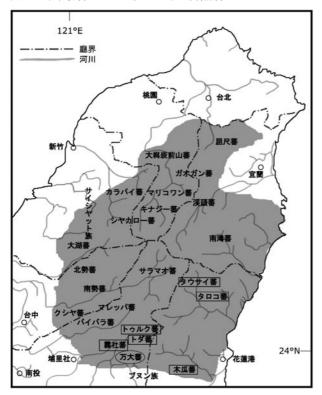


図1 20世紀初頭のアタヤル族・セデック族集落分

セデック語はオーストロネシア語族アタヤル語群に属する。アタヤル語群はアタヤル語とセデック語の2言語を含み、両者は諸方言に分かれる。セデック語は、パラン方言とトダ・トゥルク方言群の2方言群に分かれ、後者はさらに、トダ方言(タウサイ方言は同じ方言に属す)、トゥルク方言(タロコ方言は同じ方言に属す)に分岐し、両方言はそれぞれ別個に集落をなしている(小川・浅井1935)。

本資料に現れる集落名は、埔里社の東に位置し、中央山脈の西に位置する3つのセデック集落(霧社蕃・トダ蕃・トゥルク蕃)である。ただし本資料においてトダ蕃はタウツア蕃、トゥルク蕃はトロック蕃と記されている。もう一つ登場する地名が、霧社蕃の南に位置するアタヤル集落、万大蕃である。

本資料の端書において、霧社蕃の言語と万大蕃の言語を「大同小異と見て可ならん」と述べられている (3.2 節)。 確かにどちらもアタヤル語族に属する言語だが、前者はセデック語、後者はアタヤル

語であり、両言語間での意思疎通は困難であったと考えられる。図1からわかるように、アタヤル集落はセデック集落の北側に位置するが、万大蕃(図では楕円で囲んでいる)だけ例外的に、セデック集落の霧社蕃の南に位置する。そのため当初、セデック族の一派と見なされていたようである。しかし鳥居(1901a)は万大社の言語が霧社系の言語ではないことを、語彙の比較により示している。

『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』の端書では、埔里社撫墾署の管轄下にあった霧社蕃の北蕃語であると特定していることから、これが現代で言うところのセデック語パラン方言であることがわかる。「霧社」は埔里から眉渓という河を東に遡った山奥の地名であり、セデック族パラン支族の勢力範囲の中心地であった。セデック族でのこの地の呼び名はParan (パラン)である。

『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』の筆者は荒尾英馬という人物である。三尾 (2009: 155) によると、「蕃語編纂方針」の下で言語調査を行ったのは当地の警察官や官吏であったというから、恐らく荒尾もそうであったと想像される。荒尾が本手稿中の「端書」に記した日付は明治31 年 (西暦 1898 年) 5 月である。そしてこの手稿の執筆直後だと思われるが、荒尾は明治31 年 5 月 31 日付けで台湾南部に位置する淡水税関の職員となったことが國史館臺灣文獻館における資料「淡水安平打狗税関任免報告書」に見て取れる4。ただしこの職以前の足取りは掴めず、どのような経緯で埔里へ赴き、セデック語を調査することになったのかは不明である。

荒尾は本資料の端書において、この語集を執筆した経緯について語っている(3.2 節)。この端書をもとに筆者が推察する本資料の背景を述べると以下のようになる。恐らく、山地先住民の言語を探求するという政策上の命を受けて、埔里に来た荒尾だが、日本統治から日の浅い頃のことであり、山地先住民集落の霧社に入るのは極めて危険であった。セデック族には首狩の風習あり、見知らぬ人が勢力範囲に入ことを拒んできた。そのため、荒尾は埔里にとどまり、まずは漢民族のもとで閩南語を学んだ後、セデック語・アタヤル語と閩南語の通訳をしている、埔里在住の平埔族の青年からセデック語パラン方言の語彙を収集したという。この青年の名は李阿輝といい、父が平埔族、母が山地先住民だったという。恐らく、李の父はパゼッへ族、母は、セデック族パラン支族(霧社蕃)だったと推察される。埔里にはいくつかの平埔族集落があったが、その中でもセデック族パラン支族の勢力範囲に最も近い集落はパゼッへ族が築いた集落である。また、伊能(1996: 198)の翻訳者の楊南郡による脚注にはセデック族(恐らく万大蕃のアタヤル族も含む)の女性がパゼッへ族へ嫁ぐことがしばしばあったという記述が見える。さらに李から収集した語彙の中には数語、パゼッへ語の単語が混入している(6.3 節)。

⁴ この資料は「國史館臺灣文獻館館藏史料査詢系統」で閲覧可能である(ds3.th.gov.tw/ds3/index.php,所蔵番号00000261057 スキャン番号0240)。因みに荒尾が高知県の出身であることもこのデータベースから知りえた。

⁵ この図の出典は「臺灣大學深化臺灣研究核心典藏數位計畫」(dtrap.lib.ntu.edu.tw) である。本資料の全文が公開されているとの情報を伊能文庫編集査定員よりご教示いただいた。

図2 『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』4 枚目5

埔里社機學	F 48
±£	蓝 語 新西西
OROBUE	オッル 単画図機
LowaHai	日本,, 商品鐵品
KUMUZOHO	南西海
MATARA HALE	PREW: 1 M. BAN 11 . E.
AOA HALE	単のか早りまり 土 新たKAKKIN
IYA .	本東 ± 85 · MUTAN
EGU. PARU	By大 土部 KATTO4
Nakka	死, 对高鬼
MARO	着or美 or ALL Right or tを 一酸1.若1.辛1.洪1.春成1
MANGEFUI OF MANGEFUIWA	一般,苦几草仁游儿,纳
MASITU & MASIKITU	· 在变 1

次に『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』の体裁について簡単に紹介する(図 2)。本手稿は 1898 年に記 したことが端書の日付からわかる。また、縦書き用の原稿用紙に記され原稿用紙の中央に、「臺灣總督 府民政局」と公的機関の印がある。中央から右、左両方に13行ある。この左右をそれぞれ1頁(枚) と数えている。まず、題目から始まる。原稿用紙1枚の右ページに、筆での筆跡で『埔里社撫懇署管 轄 北蕃語集』とある。次の用紙は、端書である。左右の2頁を用いている。そして、4枚目の用紙 右側からが語集の内容になる。第3頁目、第1行目には「埔里社撫懇署管轄」、第2行目には「北蕃語 集」と記し、第3行目から1語目が始まる。ここからは縦書きの用紙を回転させ、横向きにして記入 している。1行1語(1句,1文)を収め、1行中にセデック語パラン方言のローマ字表記と日本語の 訳を載せている。二語以上の項目の場合、セデック語ローマ字表記の上方には、赤でグロスがつけら れていることがある。また時折、閩南語の訳も付している。荒尾が李との調査において、閩南語を用 いていたことが窺える。 荒尾は閩南語を十語(地元の言葉)と呼んでいる。 本資料は総枚数 46、総項 目 547 である。また、荒尾の調査協力者の李阿輝は、埔里撫懇署の通事として、セデック語パラン方 言 (霧社蕃・トダ蕃・トゥルク蕃) のみならず、セデック語トダ方言、セデック語トゥルク方言を話 す人々とも関わっていたようである。また、霧社の南に位置する万大集落のアタヤル族の言語にも多 少通じていたようで、本語集には、トダ方言、トゥルク方言、アタヤル語万大方言などの語彙も少数 収められている。

荒尾の手稿には『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』という題目の横に「故伊能嘉矩氏蒐集」と「臺灣帝國大學圖書印」という2つの判が押されている。荒尾の手稿が日本統治時代(1895年から1945年)に台北帝国大学(現國立臺灣大學)に収められ、その際に押されたと考えられる。大学設立準備段階で「臺灣帝國大學」であった大学名は「臺北帝國大學」に改められ、1928年に創立となった(李2007:50)が、判は何故か採用されなかった大学名「臺灣帝國大學」のままである。荒尾の手稿の所蔵者であった伊能氏は1925年に他界し、伊能氏の残した台湾関連の資料は伊能文庫として3年ほど後の1928年に移川子之蔵氏によって大学に収められたということである(淵脇 1938:190)。恐らく、創立直前の大学準備期に収められたため「臺灣帝國大學」の印鑑が押されたのではないか。

三尾 (2009: 167) によると、本資料は「蕃語編纂方針」に基づいて作成されたものであるが、この方針によって作成された語彙集は5つのみである。このうちの2つはアタヤル語方言を扱ったものである。そのため語彙集が作られたのは、20 数言語を数える台湾オーストロネシア諸語のうち4言語

(アタヤル語, セデック語, ブヌン語, サアロア語) のみということになる。これら少数の言語資料の中に、 荒尾 (1898) のセデック語が含まれている。

本資料は三尾(2009:167)に言及はあるものの、恐らくこれまで約120年間、ほとんど研究者の目に触れることなく保管されていたと想像される。三尾の他に荒尾を引用している文献として、小川(2006)が挙げられる。小川は様々な文献から語彙項目を収集し、独自の語彙対照表を作成しているが、その中に「荒井」という筆者の文献から収められたものもある。実はこれは荒尾の『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』に相当するものであり、小川は氏名の表記を誤っている。少なくとも小川は荒尾(1898)またはその抄本を目にしていたことになる。このように少数の引用はあるものの、荒尾(1898)がほとんど利用されてこなかった理由の一つとして、本手稿が明治時代の日本語で、しかも手書きで記されていることが挙げられるだろう(図2参照)。恐らく日本語とセデック語両言語の基礎知識がなければ解読も困難であると思われる。

本資料はセデック語を記録したものしては早期のものに属する。最も古い資料は台湾における清朝末期の資料 Bullock (1874)であり、ここにはセデック語パラン方言の語彙164項目が収録されている。 荒尾 (1898) はその24年後、日本統治下の資料である。しかも荒尾 (1898)の語彙数は547もあり、当時の語彙集としてはかなり多い方である。これらは当時のパラン方言と現代パラン方言とを比べ、通時的な考察を加える上で貴重な資料と言える。そこで本稿は、荒尾 (1898)の全項目を解読・再現することを目的とする。一世紀あまり経った現在のセデック語パラン方言を注釈として付し、本方言の通時的研究につながる資料を提供する。また、『臺灣蕃語蒐録』(小川 2006)に収録された資料番号23aは筆者が「荒井」と記されているが、この資料番号23aは荒尾 (1898)に相違ないことも示す。

2 現代セデック語パラン方言の文法概略

本稿における現代セデック語パラン方言は、筆者のフィールド調査の資料に基づく (2015 年に調査)。 これらの調査における主要な協力者は、南投縣仁愛郷互助村清流集落在住でセデック語パラン方言を 母語とする女性一名(調査時 74 歳)と男性一名(調査時 78 歳)である⁷。

荒尾の語彙集に現れる語彙の理解に必要となる、セデック語パラン方言の音韻・形態統語論を簡単に説明する。

現代パラン方言の表記は音素には単母音五つ [a, e, i, o, u], 二重母音一つ [ui], 子音 18 個 [p, b, t, ts, d, k, g, q, m, n, n, l, r, s, x, h, w, y] がある。表記としては、基本的に同様の記号を用いるが、 [ui] はuy, [r] はr, [j] はy, [ts] はc で表記することにする。二重母音uy は語末にのみ現れる。

音声的な変化として、s と c は前舌母音の前で口蓋化する(例 sino [eino]「酒」、cida [trida]「枝」)。 また、語末の h または g の直前の u は o に変化する(例 bumuh ['bu.noh]「帽子」、perug ['pe.roq]「破

6 なお、本稿における荒尾 (1898) の掲載については、この文献が収められている台湾大学図書館特別所蔵区・伊能文庫の編集査定員に連絡を取り、全文を引用することに差し障りのないことを確認済みである。

 $^{^{7}}$ 互助村にはふたつのセデック族パラン支族の集落があり、ひとつは清流集落、もう一つは中原集落である。

れた」)。同様にこれらの子音の直前のiは渡り母音の挿入された [i](さらには[i])に変化する(例 seedig [人,他人」[se.'e.di[q])。

音節は開音節を基本とするが、語末音節は開音節と閉音節の両方が現れる。例外的に、前次末音節に成節鼻音を許す場合がある。この場合は表記上、子音が連続して現れる(例 nbuyas [n. 'buyas] 「腹」、mpitu [m. 'pi.tu] 「七」など)。 前部子音は成節子音であり、後部子音は閉鎖音である。

次に強勢と母音弱化との関連について説明する。強勢は次末音節にある。強勢位置にあたる次末音節より前の音節の母音は弱化する。例えば語根 qita 「見る」に、命令の接尾辞 -i が付いた場合、qita -i が予想される形式だが、前次末音節に当たる i はu に弱化するため、実際は quta -i 「見ろ」となる。この弱化母音は早期には-a であったと予想されるが現代では-a になる。この母音弱化の音韻規則は、荒尾の表記にはほとんどの場合、適用されていないようである(少なくとも弱化を示すための母音を体系的に使っているわけではない)。そのためこの時代には母音弱化は起こっていなかった(あるいは起こり始めた)ようである。

母音の弱化が見られない場合もある。そのひとつが、同一の母音連続し、前部は前次末音節に、後部は次末音節に属する場合である(seediq「人、他人」など)。この場合、前次末音節はuで現れない。次末音節が強勢を持つため、これらの母音は強勢の有無で区別される。その上、これらの母音の間に声門閉鎖音が挿入される音韻規則があるが(例 seediq)、この規則は随意的である。

もうひとつ母音の弱化が見られないのは、強勢のある次末音節のオンセットがhである場合である。 その場合、hの直前の母音に当たる、前次末音節の母音はhの直後の母音に当たる、強勢を持つ母音 と同じになる。例えばpehepah「花」において、前次末音節の母音はhの直後の母音eと同じである。

次は現代セデック語パラン方言の文法である。態には四種類ある(表 1)。動作主態、対象態、場所態、状況態である⁸。落合(2016a)によると、これらの態の区別を示す動詞は、動詞全体の中でも他動性の高いものに限られる。そしてこれら多動性の高い動詞は態を示す屈折が、同時に時制の情報も含んでいる。多動性の低い動詞に付加する接辞にも特徴があり、例えば静態動詞は接頭辞 mu-で特徴づけられる(例 mu-tilux 「熱い・暑い」、mu-sekuy 「寒い」)。これら動詞が否定辞の後に来ると、接頭辞が ku-に置き換わる(例 mi ku-tilux 「熱くない」)。また、非意志動詞と呼ばれる類は接頭辞 uu-で特徴づけられる(例 tu-leeuu 「冷たい」、tu-leuy 「座る」⁹)。これら低他動性の動詞は、態の分類の枠組みにおいて、どの態にも属さない。しかもこれらの動詞は時制による形式の区別がない。

動作主態は接中辞 <um>,接頭辞 mu- またはゼロ接辞で特徴づけられる。対象態は接尾辞 -um で、場所は接尾辞 -um で表される。命令形について、動作主態の場合は語根、非動作主態の対象態・場所態の場合は接尾辞 -i の付いた形式となり、非動作主態の状況態の場合は接尾辞-ani の付いた形式となる。これらの態を帯びた動詞が否定辞 ini (動詞否定) または jya (禁止) の後に現れる場合、命令形を用いなければならないという決まりもある。対象態と場所態は現在形、過去形 (対象態は接中辞 <um>,場所能は接中辞 <um>と接尾辞 -am を用いる) において形式上の区別こそあるが用法的な差異は見ら

がより古い形式であると考えられる。

⁸ ただし荒尾の語彙集において状況態を用いた例文はない。

っただしが毛が発来にあいてれた肌を用いた例えばない。 9 この語については、母音連続euがooに変わった形式tu-loonのほうがよく聞かれる。母音連続euのほう

れない。対象態と場所態の命令形は同一形式である。

表 1 セデック語パラン方言の態10

	動作主態	対象態	場所態	状況態
現在11	<um></um>	-un	-an	su-/-an-un
過去	<um><un></un></um>	<un></un>	<un>an</un>	
未来	ти-/ти-ри-	-		
命令	ø		-i	-an-i
勧誘		-(о, -е	-an-e

現代パラン方言の語順は述部―主部である。動詞が文頭、主語が文末の語順が基本である。現代パラン方言には主語の前に置かれ主語を表示する標識 ka があるが、これは自然発話において頻繁に脱落する。そこで本稿では一貫してこの主語標識を示していない。また荒尾 (1898) の例文にこの主語標識が現れる箇所は一つも無い。

態の別を表す例を以下に示す。動作主は「猫」、動作の受け手は「鼠」、動作は「咬む」である。例(1) は動作主態、(2) は対象態を示す。以下本稿では「=」を接語の前に付ける。

- (1) q<um>iguc qolic ŋiyo AV.bite mouse cat 「猫は鼠を咬す」
- (2) qugut-un =na niyo qolic bite-UVP =3SG.GEN cat mouse 「その鼠は猫に咬まれた」

これらの例を否定文にするとそれぞれ以下のようになる。例 (3) は動作主態,例 (4) は対象・場所態である。

- (3) ini qiguc qolic ŋiyo NEG AV.IMP.bite mouse cat 「猫は鼠を咬まない」
- (4) ini qugut-i =na ŋiyo qolic
 NEG bite-UVP/UVL.IMP =3SG.GEN cat mouse
 「その鼠は猫に咬まれない。」「その鼠は猫に咬まれなかった。」

¹⁰ 本表は落合 (2016a: 74) を参照した。

¹¹ 訳注において AV, UVP などに時制の指定がない場合は現在形であることを表す。

また、例えば猫が人の言葉を理解すると仮定して、猫に対して鼠を咬めと命令するには以下のように言う。例 (5) は動作主態、例 (6) は対象態である。

(5) qiguc qolic AV.IMP.bitemouse 「鼠を咬め」

(6) qugut-i qolic bite-UVP/UVL.IMP mouse 「その鼠を咬め」

このほか代名詞については7.6節で紹介する。

3『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』と現代セデック語パラン方言

本節では荒尾 (1898) における語彙項目とその注釈を再現し、それぞれの項目を現代セデック方言 の表記で示す。荒尾の手稿を転記するに際しての提示方針を 3.1 節で説明してから、3.2 節で荒尾が語彙集に添えた「端書」を再現する。そして 3.3 節で荒尾の語彙集を示す。

3.1 方針

- i. 左列は荒尾が挙げた語彙項目の表記と荒尾の語釈である。中央列は荒尾の表記を基に、それを本稿筆者の解釈により音韻表記にの転記したものを示す。右列は荒尾の語彙に形式的に対応する現代パラン方言の表現、それに対する注釈である。なお荒尾は項目に通し番号をつけていないが、本稿では通し番号を振った。
- ii. 筆者による音韻表記への転記について、現代パラン方言の形式に照らし合わせた場合、荒尾の表記に誤りがあると考えられる箇所については、現代パラン方言の形式に沿うように変更している。また、現代パラン方言には見られないが、荒尾の調査時代には見られた歴史的子音の ð について、荒尾の表記はさまざまであるが(5.1 節)、音韻表記では ð に統一している。
- iii. 前次末音節の母音は、現代パラン方言では弱化するが、荒尾の表記では本来の母音が保たれている例が多いと考えられる。その一方で恣意的に母音を用いていると考えられる例も見受けられるが、本稿の方針として、前次末音節の母音の転記については荒尾の表記に従うことにした。
- iv.
 荒尾の表記において子音連続が見られる箇所には、それらの間に曖昧母音を挿入した。
- v. 荒尾の語彙に対応する現代方言の形式が見つからない場合は -- と記す。
- vi. 荒尾は大文字のローマ字でセデック語を表記しているが、頭文字は他の文字に比べ多少大き

- い。本稿では頭文字も小文字で表記する。
- vii.

 荒尾は補足として閩南語の語釈を加えていることもあるがこれらは削除した。
- viii. 荒尾は軟口蓋鼻音の表記として、Nを小さく下方に書き、次にGを続けている。このNを、本稿では小文字nにし、上付きにしている。
- x. 荒尾が書き損じた箇所に二重線を引き、書き直している部分は書き直した表記のみを示す。
- xii. 荒尾自身が、セデック語パラン方言以外の形式を挙げていると書き込んでいる項目がある。 そのような項目には項目番号の後に「#」を付した。このほか、セデック語パラン方言以外 の言語・方言(セデック語トゥルク方言 6.1 節、アタヤル語 6.2 節、パゼッへ語 6.3 節、閩南 語 6.4 節)を誤って掲げていると筆者が判断した項目にも「#」を付した。
- xiii. 荒尾の項目が句や節を成す場合がある。語順をそのまま現代パラン方言に置き換えた場合、 文法的に誤っていることが多い。この場合は項目番号の後に「*」を付す。対応する現代パラン方言の形式が見つからないため、右列には一を記して、脚注で現代パラン方言での表現 を示す¹²。
- xiv. 現代パラン方言の注釈に用いた略号は以下の通りである。AV: actor voice 動作主態、CAUS: causative 使役、CONJ: conjunction 接続詞、DEN: denominal 脱名詞化、DES: desiderative 願望、EXIST: existential 存在、FUT: future 未来、GEN: genitive 所有格、HORT: hortative 勧誘、imp: impearative 命令、INCL: inclusive plural 包括形、INT: interjection 間投詞、NEG: negator 否定辞、NOM: nominative 主格、NONV: non-volitional 非意志、PL: plural 複数、PRON: free pronoun 人称代名詞独立形、PROH: prohibitive 禁止、 PART: particle 助辞、PST: past 過去、Q: question marker 疑問標識、RCPL: reciprocal 相互、RDP: reduplication 重複、SG: singular 単数、STAT: stative 状態、UVC: undergoer voice circumstance subject 非動作主態・状況主語、UVL: undergoer voice location subject 非動作主態・場所主語,UVP: undergoer voice patient subject 非動作主態・対象主語、1: first person 一人称、2: second person 二人称、3: third person 三人称

3.2 端書

はし書

言語の出処は埔里社撫墾署管内霧社蕃にして万社蕃タウツア蕃トロック蕃の三社の語も多少の相異は あれども概して類似の点多く要するに大同小異と見て可ならん

不肖英馬蕃語研究生の命を承けて埔里社に向かふや最初に同処国語傳習所傭員「談忠義」に就て土語 を学び此土語を以て撫墾署通事「李阿輝」に糺し以て蕃語を研究せり

 $^{^{12}}$ しかし,文化的背景の相違などから,忠実な訳出が困難な場合もあった。その際はできるだけ荒尾の意図に沿った訳出を心がけた。

阿輝は熟蕃の父と生蕃の母の間に生れ九歳の頃三ヶ月ばかり蕃社に在りし者にて略ぼ蕃語に通ずこれを以て不肖が同人に就て調べしこの蕃語集は全然誤謬なき者とは断言するを憚れども亦 Great Mistakes なしとは不肖の竊に信ずるところなり

阿輝は不肖と共に署長長野義虎に随行して北蕃霧大社巡廻中「ホーゴー」社に於て蕃人の惨殺する所となれり年歯僅に二十二歳

後の北蕃語集に對する者願くは阿輝の末路を想い軽々に看過するなくんば幸なり

明治卅一年五月

荒尾英馬

3.3 語彙集

	荒尾	荒尾の再建形	現代セデック語パラン方言
1	orobue 閉ツル	elebi	leb-i (close-UVP/UVL.IMP) 'shut the
			door'
2	lowahai 開ラク	ruwahay	ruwah-e (open-HORT) 'let's open it'
3	kumuzoho 雨,雨降ル	qитидих	q <um>uyux (<av>rain) 'it rains'</av></um>
4	matara häle 徐々二	matara hari	mu-tara hari (AV.FUT-wait a.little) 'wait
			for a little'
5	agoa häle 早ク,早ク来レ	aguh hari	aguh hari (come.here.INT a.little) 'come
			here!'
6	iya 不可	iya	iya (PROH)
7*	egu paru ヨリ大 ¹³	egu paru	-
8	nakka 悪,醜	naqah	naqah (bad.STAT) 'bad'
9	maro 善, 美, or all right, 快シ, So,	malu	malu (good.STAT) 'good'
	Yes		
10	mangēfui,mangēhuiwa 酸イ,苦イ,	maŋihur,	mu-ŋihun (wa) (STAT-bitter [PART])
	辛イ、渋イ、鹹イ	maŋihur wa	'it is bitter'
11#	masitu, masikitu 硬イ ¹⁴		6.2 節参照
12	kälau 静ニセヨ,黙レ	qaraw	qaro (be.quiet.INT) 'shut up'
13	sakenoho 臭イ	sakemıx	sukenux (STAT.stinky) 'stinky'
14	habalau 高イ ¹⁵	habaraw	hubaro (STAT.be.many.people) 'be
			many people'

¹³ 現代パラン方言では rumaban paru (best STAT.big) 「より大きい、最も大きい」と言う。

¹⁴ 現代パラン方言ではsaadux と言う。

 $^{^{15}}$ 現代パラン方言では bubaro と言う。荒尾の形式に対応する現代パラン方言の語は「人数が多い」と言う意味である。

15	rauka, dauka 軽イ	lawka, dawka	culokah (STAT.light) 'light (of weight)'
16	matsairin 重イ ¹⁶	macaylin	cehedin (STAT.heavy) 'heavy'
17	taeya 遠イ,長イ	taeya	te-heya (NONV-that) 'far'
18	därin,rārin 近イ,短イ	daliŋ, raliŋ	dalin (STAT.near) 'near'
19	chērun 池 (not artificial),	ciluŋ	guciluŋ 'pond'
	堀 (natural)		
20	dakahāyan 低小,地	daxeyan	deheran 'land'
21	chēkoaha 些少,小サキ	cikuh	tikuh (STAT.few) 'small in amount'
22	egu 澤山	egu	egu (STAT.many) 'many'
23	paru 大ナル	paru	paru (STAT.big) 'big'
24#	rábu 白イ ¹⁷		6.2 節参照
25	chēpo 褐色 ¹⁸		
26	tanna 赤イ,血	tanah	tanah, mu-tanah (STAT.red, STAT-red)
			'red'
27	masekui 寒イ	masekuy	mu-sekuy (STAT-cold) 'cold'
28	machēroho 熱イ,暑イ	macilux	mu-tilux (STAT-hot) 'hot'
29	ussa, mausa, maha 行ク	usa, mausa, maha	usa (go.AV.IMP) 'go'; m-osa (AV-go)
			'go' ; maha (AV.FUT.go) 'will go'
30	minäroho 痛イ,病気	minarux	munarux 'sickness'; mu-narux (STAT-
			sick) 'sick'
31	marengu 乾力	тагели	mu-deŋu (STAT-dry) 'dry'
32	mafuriya ^k 湿フ, 泥土	mahuriq	mu-huriq (STAT-wet) 'wet'
33	maebu, baebu 打ツ	maebu, baebu	beebu (AV.beat) 'beat'
34	heri 擴ゲル ¹⁹	_	
35	simalo タヽム (cloth etc.), 建テル	simalu	s <um>alu (<av>repair) 'repair, make'</av></um>
	(house), 修斉スル, ヨリ善クスル		
36	papuṛai 炊ク,煮ル ²⁰	papuray	pure , h <um>pure (cook.AV ,</um>
			<av>cook) 'cook'</av>

¹⁶ 荒尾の表記における語頭の ma は、静態動詞接頭辞と考えられるが現代パラン方言では現れない。

¹⁷ 現代パラン方言ではbehege「白い」と言う。

¹⁸ 現代パラン方言では *mugu-deheran* (similarto-ground) と言う。ちなみに、セデック語トゥルク方言に *hibuy* 「黄色」 (Rakaw 他(編) 2006: 290) という形式がある。荒尾が挙げた形式はこの形式を表そうとしたものかもしれない。

¹⁹ 現代ペラン方言の luhelah (AV.IMP.loose) 「緩む,緩める」に相当するのかもしれないが,音の対応が不規則である。

 $^{^{20}}$ 荒尾の形式は重複形または使役形を示している (pa-puray [RDP/CAUS-cook]) と考えられる。現代パラン方言では重複しない。

37	tareon 坐ル,屈ム	taleuŋ	tu-leug (NONV-sit) 'sit'
38	tuṭsui 醒メル, 立ツ	tucuy	tutuy (AV.get.up) 'to get up'
39	matake, take 眠ル	mataqi, taqi	mu-taqi, taqi (STAT-sleep, STAT.sleep)
			'sleep'
40	rērin, änan, ängan 取ル, 挙ゲル,	ririn, aŋan	didin (AV.IMP.bring) 'bring'; aŋan
	持ツ,握ル		(AV.IMP.take) 'take'
41	paane 背へ負フ	paani	paan-i (carry-UVP/UVL.IMP) 'carry on
			the back'
42	mapa 背へノセル	тара	m-apa (AV-carry) 'carry on the back'
43	ädasi 持テ来イ	adas	adis (AV.IMP.bring) 'bring'
44	pakusun 着ル	pakusun	pu-lukus-un (CAUS-clothes-UVP) 'wear'
45	maseyan 怒ル	maseyaŋ	mu-seyan (STAT-angry) 'angry'
46#	makaki 寄セル ²¹		6.2 節参照
47	parengau, parengau käle 話ス	parenaw, parenaw	pu-reŋo (kari) (RCPL-speak [word])
		kari	'speak to each other'
48	kēda maro 其レデヨイ	kiða malu	kiya malu (that STAT.good) 'It is okay'
49	mafulissi 喜ブ,笑フ	mahulis	mu-hulis (STAT-laugh) 'laugh'
50	karaun, makera, kera 知ル	kalaun, makela,	kula-un, mu-kela, kela (know-UVP,
		kela	AV-know, AV.IMP.know) 'know'
51	inni kera 不知	ini kela	$ini kela \ ({\tt NEG AV. IMP. know}) \ {\tt `one does}$
			not know'
52*	mausa habairau 上ル22	mausa habaraw	
53	kufun 愛スル, 好ム	kuxun	kuxum (like.UVP) 'like, be fond of'
54	pattashi 写ス,書ク,イレズミ	patas	patis (AV.IMP.draw) 'painting, draw a
			picture'
55	chi ⁿ bābu 打ツ	cimebu	c <um>ebu (<av>shoot) 'shoot'</av></um>
56	wassau 射ル23		
57#	7	_	6.4 節参照
	papeä 的		
58	chebu harun 発砲スル	cebu haluŋ	cebu haluŋ (shoot.AV.IMP gun) 'shoot!'
59	atak 鋏, ハサム, 番人ノ造リタル芋	atak	atak (AV.IMP.cut.with.scissor) 'scissor,

-

 $^{^{21}}$ 「誰かの家に立ち寄る」と解釈するならば(6.2 参照),現代パラン方言では teheyaq sapah(AV.play house)と言う。

²² 現代パラン方言では*m-osa baro* (AV-go up) と言う。荒尾の表記に対応する語 *hubaro* (STAT.many.people) は「人数が多い」という意味である。

²³ 現代ペラン方言において形式の上で一致する語に waso「葉」があるが、意味が合わない。

	ナドヲハサムニ用ル木製ノ者モ云		to cut'
	フ		
60	matakui 倒レル	matakur	mu-takun (AV-fall.down) 'to fall down'
61	urun 鹿角	นานๆ	uruŋ 'hom'
62	babāriak 嘘	baberiq	m-beriq (STAT-tell.lie) 'tell a lie'
63	bärai 真実	balay	bale'truth'
64#	makuri 盗厶 ²⁴	_	6.2 節参照
65	maitsu 恐レル	таіси	mi-icu (STAT-fear) 'to fear'
66	kana 皆の,凡テ	kana	kana 'all'
67	tsürin 焼ク	culiŋ	culin [AV.IMP.get.burned] 'to get
			burned'
68	matara 待テ	matara	mu-tara (AV.FUT-wait) 'to wait'
69	rita 帰ル	dita ²⁵	nita (let's.go.INT) 'Let's go'
70	makan 食フ,咬ム	mekan	m-ekan (AV-eat) 'to eat'
71	chebu 投ゲル ²⁶	cebu	cebu (AV.IMP.shoot) 'shoot'
72	kalabui, läbui 紙	kalabuy, labuy	kulabuy 'paper'
73	marawa 呼ブ,吠ル	malawa	mu-lawa (AV.FUT-call) 'will call'
74	lipak,pakkun 斬ル	lipaq ²⁷ , paqun	sipaq, paq-un (AV.IMP.destroy, destroy-
			UVP) 'to destroy'
75	bahan 合点スル	bahaŋ	qubahan (AV.IMP.hear) 'to hear'
76	brigun 交換スル ²⁸	bərigun	burig-un (exchange-UVP) 'to exchange,
			buy'
77	pira 銀貨,幾何	pila	pila 'money'
78	habagän 台湾銭	habaŋan	hubaŋan'money'
79	kinhaiyu アブナイ, take care	_	
80#	säpoa, sepōhan 掃ク ²⁹	sapuh, sepuhan	(sapuh, supuh-an [AV.IMP.cure, cure-
			UVL] 'to cure') 6.2 節参照
81	bekki 與ヘル	biqi	biq-i (give-UVP/UVL.IMP) 'give!'

²⁴ 現代パラン方言ではg<um>eeguy (<AV>steal) と言う。

²⁵ Asai (1953: 56) には荒尾の形式に相当する dita が記録されている。

²⁶ この荒尾の形式は項目 55 の語根である。

 $^{^{27}}$ 荒尾の形式では語頭が1であるが、現代ペラン方言ではsである。語頭子音が一致しないが、Asai (1953:70) では同一の語がs<im>ulipak と記されている (表記に多少修正を加えた)。現代では、Asai の記した形式から1が脱落したことになる。

²⁸ 荒尾の表記では前次末音節に当たる母音が記されていない。母音弱化を被る位置であることに起因するだろう。

²⁹ 現代パラン方言において「掃く」は sukesik (AV.sweep) と言う。

82	kaneepa 働ク、田ヲ作ル、畑	kaneepah	k <un>eepah</un>
02	Kalkepa (s)/ / H///// / A	кипеерип	(<uvp.pst>work.in.field) 'field, work</uvp.pst>
			in field'
83	sinaui、maho 洗フ	sinawi, mahu	sunag-i (wash.dish-UVP/UVL.IMP)
63	Sinaui, mano //L/	sinawi, manu	'wash dishes!'; m-ahu (AV-
			wash.cloth) 'wash clothes'
84	chineno 織ル ³⁰		wash.cloui/ wash cloules
85	tsäpan 蕃布	сараŋ	capaŋ 'cloth'
86	wada 走ル	wada	wada (leave.PST) 'gone'
87	okka 無イ	uka	uka (NEG.EXIST)
88	gäga 有ル		gaga 'that, be there'
		gaga	
89	agoa 来イ,来ル,来タ ³¹	aguh	aguh (come.here.INT) 'come here!'
90	kimita 見ル	qimita	q <um>ita (<av>see) 'to see'</av></um>
91	ish オマヘ, オマヘ等	isu	isu (2sg.pron)
92	hinni 此処,コレ,コレ等,此方	hini	hini 'here'
93	hish 其処,ソレ,ソレ等,其方	hisu	hisu 'there (archaic) '
94	ima 何, 性名ヲ問フ時ニ用イルガ如	ima	ima 'who'
	シ		
95	maanu 何,何故	таапи	maanu 'what'
96	inu 何処	inu	inu 'where'
97	kabu 熟蕃人	kabu	kahabu 'aborigines of the plains'
98	aran 生蕃人 ³²	alaŋ	alaŋ 'village'
99	pamukan, panimukan 台湾人	pamukan, panimuk	pulumukan 'Southern-Min people'
		an	
100	tarro 清国人	talu ³³	telu 'Chinese'
101	tana tsunuh 日本人, 赤キ頭トノ義	tanah cunux	tanah tumux (STAT.red head) 'Japanese'
	ニテ之ハ西洋人ニ的シタル名ナレ		
	ドモ日本人ノ風采西洋人二似タル		
	所ヨリ名ヅケタルガ如シ ³⁴		

³⁰ 現代パラン方言では*t<um>inum*(<AV>weave)と言う。

³¹ 項目 5 参照。

³² この語は「集落」という意味である。

 $^{^{33}}$ 中国語「大陸」の借用であると考えられる。荒尾の表記における次末音節の母音 a は現代セデック語パラン方言ではe である。なぜこのような違いが見られるかは分からない。

³⁴ 西洋人も日本人も洋服を身に着けていたという共通点はあったとしても,日本人の風采が西洋人に似ていたとの説明には少し無理がある。この表現は日本の軍人の帽子に赤い線が入っていたことに由来するらしい。

102	umukā 石ヲ埋メテ違約ナキヲ誓		
	フコト35		
103	pausa rineui 数ノ誤謬ヲ避ケンガ為	pausa rinewul	posa negun (put.AV rope) 'to put rope'
	ニ藁又ハ縄ヲ結ビテ記憶ニ便ニス		
104	puton マッチ	putuŋ	putun 'match'
105	danngā 朋友	daŋi	daŋi 'friend'
106	kimeki 踊リ,踊ル	kimeki	k <um>eeki (<av>dance) 'to dance'</av></um>
107	maowashi 唱歌,歌フ	mauwas	mu-uyas (STAT-sing) 'to sing'
108	papuṛin 猟 ³⁶	papuliŋ	pu-hulin (CAUS-dog) 'to hunt using
			dogs'
109	sikari 漁 ³⁷	sikadi	su-kadi (DEN-net) 'to search'
110	tairiak chika 遊戲	taiðaq cikuh	teheyaq tikuh (AV.play a.little) 'to play
			a little'
111	kafurisi 火炭 ³⁸	qabulis	qubulic 'ash, dust'
112	bäga 木炭	bagah	bagah 'charcoal'
113	habu 带,褌	habuk	habik 'belt' 39
114	tubu 嘴琴, 竹製ノ小楽器ニシテロ	tubu	tubu 'mouth harp'
	二宛テヽナラス		
115	kulų 機 ⁴⁰	kulu	kulu 'box'
116	marangan 槍	maraŋan	sunburaŋan 'lance'
117	simada 刀	simadat	sulumadac, hulumadac 'sword'
118#	kiyon pan 弓 ⁴¹		6.4 節参照
119#	kiyon chē 矢 ⁴²		6.4 節参照
120#	pinä 笛 ⁴³		6.4 節参照
121	umuki ツヽム	umuki	gumuk-i (lid-UVP/UVL.IMP) 'cover it'
122	tarashi 笠	tarasi	turasi 'hat'

³⁵ 現代パラン方言のgemuk「蓋をする」という動詞から派生された語かと考えられる。

 $^{^{56}}$ 語根は huliy 「大」に使役接頭辞 pa - を附加した派生語であるが,荒尾の表記では語根の語頭子音が p に変化している。しかし項目 269 「大」では語頭子音は f (母音 u の前における h の表記)で現れる。使役接頭辞中の p へ同化した形式かもしれない。

 $^{^{37}}$ 語根は kadi 「網」である。現代パラン方言において「網で魚を採る」ことを pu-kadi (CAUS-net) と言う。

³⁸ 現代パラン方言の第二音節の子音はbであるが、荒尾の表記ではfになっているため対応しない。

³⁹ 現代パラン方言において habuk という交替形もあるが、ほぼ使われない。

⁴⁰ 現代パラン方言において「機織りに用いる木製の筒」のことを ubun と言う。

⁴¹ 現代パラン方言では beheniq と言う。

⁴² 現代パラン方言ではbudi と言う。

⁴³ 現代パラン方言ではiyuk と言う。

123	bäri 銃丸 ⁴⁴	bali	bu-bali (RDP-bullet) 'bullet'
124	puṇiak 火,電	puniq	puniq 'fire'
125	yayū 剃頭刀,小刀	уауи	yayu 'knife'
126#	baruku 簸 ⁴⁵	_	6.2 節参照
127	刀 石 simada batsunuh 砥石 ⁴⁶	simadat bacunux	_
128	batsuṇuh 石	bacunux	butunux 'stone'
129	kumi針	qumi	qumi 'needle'
130	puru 斧	puru	puru 'ax'
131	shūpan 土瓶	supan	supih 'pot'
132	hita 柄杓 ⁴⁷		
133	kuru 箱 ⁴⁸	kulu	kulu 'box'
134#	rutsun 杵 ⁴⁹	_	6.3 節参照
135	rufun 臼	ruhuŋ	duhun 'mortar'
136	sagrau 甕,酒甕	salaw	salo 'container'
137	tumun 水甕	tumun	tumun (STAT.round) 'round'
138	shūpā 銅鍋,洗面器	supih	supih 'pot'
139	kauī 土鍋	kau	kayu 'urn'
140	ribau 鉄鍋	ribaw	riboʻwok'
141	tamako煙草	tamaku	tumaku 'tobacco'
142*	^{人レモノ} tamako rubui 煙草入レ ⁵⁰	tamaku lubuy	
143	pukan 煙管	puqan	puqan 'pipe'
144	pongara 茶碗	puŋerah	puŋerah 'bowl'
145	magäriak ワレル (茶碗ナド)	mageriq	mu-geriq (STAT-wind) 'to wind'
146	pausäpufu 頭骨并列所 ⁵¹		
147	rupi 蓆	rupi	rupi 'mat'
148	säpo 寝臺	sapo	sapo (AV.IMP.lay.mat) 'to lay a mat'

44

⁴⁴ 現代パラン方言では重複形のみを用いる。

⁴⁵ 現代パラン方言では butuku と言う。

⁴⁶ 現代パラン方言では *lupax-an* (whet-UVL)「砥石」と言う。

⁴⁷ 現代パラン方言では dahun と言う。

⁴⁸ 項目 115 と同一の語である。

⁴⁹ 現代パラン方言ではseru と言う。

⁵⁰ 現代パラン方言では *lubuy tumaku* (sack tobacco) と言う。

 $^{^{51}}$ 荒尾の表記における前半 pausatは現代パラン方言の posa「置く」に相当するだろうが(項目 103 参照),後半 pufu は不明。

149*	コ、 säpa hinni 家ノ内 ⁵²	sapah hini	_
150*	ソコ säpa hish 家ノ外 ⁵³	sapah hisu	
151*	鷄 raudoho säpa 鷄小屋 ⁵⁴	rawdux sapah	
152*	bäbui säpa 豚小屋 ⁵⁵	babuy sapah	
153*	lappa säpa 牛小屋 ⁵⁶	lapa sapah	
154*	米 säpa pädai 穀小屋 ⁵⁷	sapah paðay	
155*	家 高 イ säpa habärau 屋根 ⁵⁸	sapah habaraw	
156	kumuchi 大便,放屁	qumuci	q <um>uti (<av>excrement) 'to</av></um>
			excrete'
157	säda 今日,今	saða	saya 'now, today'
158	tsaman 明日 ⁵⁹	caman	caman 'tomorrow'
159	makaha 明後日	makaxa	mukaxa 'the day after tomorrow'
160	chēga 昨日	ciga	ciga 'yesterday'
161	barebu, barebu hale	1 1 (1 :)	
	ourcou, ourcou naic	barebu (hari)	murebu (hari) (morning [a.little])
	barcou, barcou naic	barebu (nari)	murebu (hari) (morning [a.little]) 'morning'; 'it is almost morning'
162	arian 昼	alian	· ·
162	, 		'morning'; 'it is almost morning'
	arian 昼	alian	'morning'; 'it is almost morning' diyan 'day'
163	arian 昼 kaaman 夜 来ル 高 キ 水	alian kaaman	'morning'; 'it is almost morning' diyan 'day' keeman 'night'
163	arian 昼 kaaman 夜 来ル 高 キ 水 eda habärau sia 瀑布	alian kaaman eðah habaraw sia	'morning'; 'it is almost morning' diyan 'day' keeman 'night'
163 164* 165	arian 昼 kaaman 夜 来ル 高 キ 水 ed a habärau sia 瀑布 sēpau 川原	alian kaaman eðah habaraw sia sipaw	'morning'; 'it is almost morning' diyan 'day' keeman 'night' sipo 'the other side of a river'
163 164* 165	arian 昼 kaaman 夜 来ル 高 キ 水 ed a habärau sia 瀑布 sēpau 川原	alian kaaman eðah habaraw sia sipaw	'morning'; 'it is almost morning' diyan 'day' keeman 'night' sipo 'the other side of a river' yayun hunac (river downhill)

⁵² 現代パラン方言ではsapah と言う。

⁵³ 現代パラン方言では yayuc と言う。

⁵⁴ 現代パラン方言では kadu と言う。

⁵⁵ 現代パラン方言では tibu と言う。

⁵⁶ 現代パラン方言では q<un>alan dapa (<UVP.PST>enclose cow) と言う。

⁵⁷ 現代パラン方言では repun と言う。

⁵⁸ 現代パラン方言では*d*<*un>amux*(<*UVP.PST>thatch*)と言う。

⁵⁹ 古い形式として caman は存在するが、現在では saman 「明け方」に変化している (Ochiai 2019)。

⁶⁰ この語彙は本来「傾斜の上の方」という意味である。

168	mabuyan, babuyan Ц ⁶¹	mabuyan, babuyan	bubuyu 'forest'
169*	山頂	mabuyan habaraw	
	mabuyan habärau 山頂 ⁶²		
170	emu 路	elu	elu 'road'
171*	大 水	paru sia	
	paru sia 洪水 ⁶³		
172*	倒 水 死	matakur sia	
	matakui sia mafukin 溺死 ⁶⁴	mahuqin	
173	ēdasi 月	idas	idas 'moon'
174#	goagi ∃	gagi ⁶⁵	(gagi 'glass') 6.2 節参照
175*	熱 イ 水	matilux sia	
	matēroho sia 湯 ⁶⁶		
176	maurai 餓	mauray	mu-ure (STAT-hungry) 'hungry'
177*	maurai raboasi 腹ガヘル ⁶⁷	mauray rabuas	
178	matengi 飽ク	mateŋi	mu-teni (STAT-replete) 'to replete'
179	basukan 酔フ	basukan	busukan (STAT.drunk) 'drunk'
180	maro pukun 御馳走	malu puqun	malu puq-un (STAT.good eat-UVP)
			'tasty'
181	sinaruksi 守城份 (地名) 蕃人等守城	sinaw lukus	_
	份二来リテ洗濯ヲナス, 着物ヲ洗		
	フノ意ナリ ⁶⁸		
182	pokaraudoho 蜈蚣侖(地名)蕃人等	puqan rawdux	
	蜈蚣侖ニ来リテ鷄ヲ盗食ス,鷄ヲ		
	食フノ意ナリ [®]		

i1 :

⁶¹ 荒尾の表記では語末が an であるが、現代パラン方言では u である点が一致しない。

⁶² 現代パラン方言では dugiyaq 「山頂」と言う。

⁶³ 現代パラン方言では qusiya paru (water STAT.big) 「洪水」と言う。

⁶⁴ 現代パラン方言ではtu-guqegoq (NONV-drown)「溺れる」と言う。

⁶ 荒尾の形式に相当する語は現代パラン方言にもあり、gagi という形式であるが、これは意味が「ガラス」であり荒尾の挙げた意味と異なる。そのため、荒尾の形式は荒尾の挙げた意味と同じ意味をもつアタヤルの同源語を表したものだと判断した。セデック語パラン方言における「太陽」はhidoである。

⁶⁶ 現代パラン方言では qusiva mu-tilux (water STAT-hot) 「湯」と言う。

 $^{^{67}}$ 荒尾の表記の第二語は、現代ペラン方言の nbuyas 「腹」に相当する。現代ペラン方言では mu-ure(STAT-hungry)「腹がへる」の一語で表現するのが一般的である。

^{**} 現代パラン方言においてこの地名は失われているが、現代パラン方言に置き換えると sino lukus (AV.IMP.wash.dishes clothes)「衣服を洗う」であるが、この表現には難点がある。衣服を洗うの動詞は pahu でなければならないが、ここでは食器・道具を洗う際の sino を用いている。

⁶⁹ 現代パラン方言においてこの地名は失われているが、現代パラン方言に置き換えると puq-an rodux (eat-UVL chicken)「鶏を食べるところ」となる。

102		1	C
183	säpah gara 埔里社 埔里社八市街ナ	sapah ŋarah	Sapah puŋerah (house bowl) 'Puli
	リ即チ沢山道々ノ家ガアルトノ意		(place name) '
	ナリ		
184	äran batowan 大南庄(地名)バトワ	alaŋ batuwan	
	ンハ台湾人鉄器修覆ヲ生業トセリ		
	70		
185	äran rafuiya (地名) ラフイヤハホア	alaŋ rahuya	
	ヒー社長ノ弟ノ名ナリ ⁷¹		
186	puttinzakaizak 牛烟山(地名) ⁷²	putiŋ ðaqeðaq	
187	barābare 西港渓(地名) ⁷³	balebal	
188*	säpa waru 蜂ノ巣 ⁷⁴	sapah walu	
189	mangāfui 風,風吹ク	bagihur	bugihun 'wind'
190	bahānni 鳥	baheni	qubeheni, qubuheni 'bird'
191*	wada bahānni 鳥ガ飛ブ ⁷⁵	wada baheni	
192	daroho 脂肪,油	darux	darux, daruk 'oil'
193*	raudoho bärun 鷄卯 ⁷⁶	rawdux baluŋ	
194#	mayūmin 粥 ⁷⁷		6.2 節参照
195	kanciya 砂糖,甘蔗 ⁷⁸	kanciya	kunciya 'sugarcane'
196	chimo塩	cimu	timu 'salt'
197	sedan 肉	siðaŋ	siyaŋ 'pork'
198	raima 菜	damat	damac 'side dishes'
199	ēdau 飯	idaw	ido 'cooked rice'
200#	bāgaha 米	begax	(begax 'testicles') 6.1 節参照79

⁷⁰

⁷⁰ 現代パラン方言においてこの地名は失われているが、現代パラン方言に置き換えると *alay batuwan* (village Batuwan)「バトワン村」となりそうである。第二語は、恐らくパゼッへ語由来の固有名詞で、オーストロネシア祖語 *batu「石」に、場所を表寸接辞 -an が付加していると考えられる。

[&]quot; 現代パラン方言においてこの地名は失われているが、前半は alay 「集落」に相当する。さらに、伊能 (1908: 365) にもこの地名が aran-rāhoyal として記され、意味は「大なる部落」だと述べている。

⁷² 現代ペラン方言においてこの地名は失われているが、現代ペラン方言に置き換えると putin yuqeyaq (edge paddy.field)「水田の端」となる。

⁷³ 現代パラン方言においてこの地名は失われているが、現代パラン方言に置き換えると bulebun 「パナナ」となる(項目 365 参照)。この一帯は一時期パナナが特産であったとセデック族集落の年配者は話す。 荒尾の形式においてなぜ語末音節の母音が u ではなく a であるのかはわからない。

⁷⁴ 現代パラン方言では rudu walu (nest bee) と言う。

⁷⁵ 現代パラン方言では sukiya gubuheni (AV.fly bird) と言う。

⁷⁶ 現代パラン方言では balun rodux (egg chicken) と言う。

⁷⁷ 現代セデック語パラン方言で「粥」はido rumu(rice STAT.mushy)と言う。

⁷⁸ 閩南語「甘蔗」からの借用語である。

⁷⁹ 荒尾の形式に相当する語は現代ペラン方言にもあり begar であるが、これは意味が「睾丸」であり荒尾の挙げた意味と異なる。そのため、荒尾の形式は、荒尾の挙げた意味と同じ意味をもつセデック語トゥル

201*	朝飯	barebu idaw	
	barebu ēdau 朝飯 ⁸⁰		
202*	昼	alian idaw	
	arian ēdau 昼飯81		
203*	晚	kaaman idaw	
	kaaman ēdaw 晚飯 ⁸²		
204	mima 飲厶	mimah	m-imah (AV-drink) 'to drink'
205	pudi 金ノボタン		
206	chinemu(霧社ノ語)着物		83
207#	rukushi(万社ノ語)着物	_	
208#	baratan (タウツア社ノ語) 着物	_	
209#	sara(トロック社ノ語)着物	_	
210	ush 袖	usuk	usuk 'sleeve'
211*	有 袖 着 物 gäga ush chinemu 有袖衣 ⁸⁴	gaga usuk	
212*	無 袖 着 物 okka ush chinemu 無袖衣 ⁸⁵	uka usuk	
213	tsuki 酒瓶	cuki	cuki 'a cup made of bamboo'
214#	yami(万社ノ語)下駄,草履		
215	tarau 耳飾ノ総称 ⁸⁶		-
216	para, bukui para 方布ノ蕃衣ニテ胸	pala, bukuy pala	pala 'cloth'
	二掛ク但男児ノミ ⁸⁷		
217	lēmuk 指輪	limuk	
218	kanawa	qanawa? ⁸⁸	Qunawan 'bracelet'
219	tawak 頭二捲ク布 台湾人ノ者ナリ	tawak	Tahawak 'loincloth'
	蕃人ハ此ノ如キ者無キ様子ナリ		

ク方言の同源語を表したものだと判断した。

⁸⁰ 現代パラン方言では ido mugurebu (cooked.rice morning)「朝ごはん」と言う。

⁸¹ 現代パラン方言では ido ceka na ali (cooked.rice middle GEN day) 「昼ごはん」と言う。

⁸² 現代パラン方言では ido keeman (cooked.rice night) 「晩ごはん」と言う。

⁸³ 現代パラン方言にtundemu「服の一種」という形式があり、これが荒尾の形式に相当するかもしれないが、音の違いがやや大きい。

⁸⁴ 現代パラン方言では lukus nigan usuk (clothes have sleeve) 「袖のある服」と言う。

⁸⁵ 現代パラン方言では lukus uka usuk (clothes NEG.EXIST sleeve) 「袖のない服」と言う。

⁸⁶ 森 (1910b) にもパラン方言として「タラウ」という形式が挙げられている。おそらく taraw と表記できるだろう。しかし現代パラン方言では失われている。

⁸⁷ 現代パラン方言では pala bukuy (cloth back) 背中に使う布」に相当する。

⁸⁸ 現代パラン方言の語末のnが荒尾の表記には見られない。

	名称ノミ? 疑う可シ		
220#	tēoho 櫛 ⁹	_	6.1 節参照
221	maliku 女ノ耳ニ垂レタル者多ク角	bariku	buriku 'earrings'
	ニテ作ル		
222	bunnaha 帽子	bunuh	bunuh 'hat'
223	taukan 網袋	tawkan	tokan 'a basket carried on the back'
224	ōtsubiu 頚輪 ⁹⁰	biu	
225	ボタン marun ru ⁿ gai 内地製白ノ石ボタン	marun ruŋay	
	91		
226*	大 石 paru batsunuh 大石 ⁹²	paru bacunux	-
227	bairoaha 小豆	beloh	beluh 'bean'
228	gētsan 黒豆	gicaŋ	gican 'a kind of bean'
229	säma 白菜	sama	sama 'vegetables'
230	tsubura 餅米	cubula	tubula 'dry-paddy rice'
231	buna 蕃薯	buŋa	buŋa 'sweet potato'
232	uchiek 薑	ucik	ucik 'ginger'
233#	bannoan 梅,李 ⁹³	_	6.1 節参照
234	mudu 蜜柑	mudu	mudu 'orange'
235#	aidan 豆 ⁹⁴	_	6.3 節参照
236	tarabush 落花生	tarabus	turabus 'peanut'
237	batakan 竹	batakan	butakan 'bamboo'
238*	batakan tsunuh 竹ノ根ノ甲状ヲナス	batakan cunux	
	如195		
239	sụdu 稲, 藁, 葉	sudu	sudu 'grass'
240	pädai 稲, 穂, モミ	paðay	paye 'rice'
241	funni 薪	huni	quhuni 'wood'

⁸⁹ 現代パラン方言ではsulau と言う。

⁹⁰ 佐山 (1917:70) に、パラン方言として「ビョ」という語が「黒南京玉製の首飾り」という意味で記録されている。荒尾の表記の後半 biu に相当するだろう。

 $^{^{91}}$ 荒尾の一語目は、現代パラン方言では古形であるが、manuy「首飾りの一種」に相当し、二語目は現代パラン方言のnuye「猿」に相当する。この複合語は現代では失われている。

⁹² 現代パラン方言では butunux paru (stone STAT.big) と言う。

⁹³ 現代パラン方言では buruqawe と言う。

⁹⁴ 現代パラン方言では beluh と言う。

 $^{^{95}}$ 現代ペラン方言に置き換えると butakan tumux (bamboo head) となる。竹についての語だが、意味はよくわからない。

242	karun, kairun キクラゲ	qeluŋ ⁹⁶	qeluŋ 'Juda's ear'
243	waru 蜜,蜂蜜	walu	walu 'bee'
244	sasebush 甘い	sasibus	su-sibus 'sweet' (RDP-sugarcane)
245	rehi 筍	lexi	lexi 'bamboo shoot'
246	maburao 大麦 ⁹⁷	_	_
247*	木 皮 funni maina 樹皮 ⁹⁸	huni baynat	
248	banni 枝 ⁹⁹		
249*	säpa bahānni 鳥ノ巣 ¹⁰⁰	sapah bahani	
250	päpak raudoho 鶏足	papak rawdux	papak rodux (foot chicken) 'feet of a
			chicken'
251	tama raudoho 雄鷄	tama rawdux	tama rodux (father chicken) 'rooster'
252*	bahānni koak 嘴 ¹⁰¹	bahani quaq	_
253	da ⁿ gāgi 蟻 ¹⁰²	Raŋedi	Ruŋedi 'fly'
254	tamakui 蚤	tamaquy	tumaquy 'flea'
255	kuhin 虱	kuhiŋ	kuhiŋ 'louse on head'
256	tsumiyaka 南京虫	cumiq	cumiq 'tick'
257#	supuhu 油虫 ¹⁰³	supux	6.1 節参照
258#	dägau 蠅 ¹⁰⁴		6.3 節参照
259	padaushi 蜻蛉	padaus	pudaus 'dragonfly'
260	kui 蚊	kui	kui 'insects'
261	parabau 蛛鴫朱	parabaw	purobo 'spider'

[%] セデック語トゥルク方言の同源語がqoluyである。次末音節の母音は、荒尾の表記ではaiという二重母音のように書かれているのは恐らく直前の子音qが母音eをより低い調音位置に引き下げたためだろう。 第 荒尾の表記における語頭のmaを除いたbupaoの部分は、現代パラン方言のbupoに形式としては一致する。現代パラン方言においてこの語は「腐乱した」という意味であり、荒尾の語釈「大麦」と意味の上で繋がらない。現代パラン方言において「大麦」の形式は得られなかったが、関連した語として日本語から借用されたudopko「うどん粉」というのがある。

^{**} 赤間 (1933:67) にベーナッツ「毛皮」とある。この語と荒尾の表記を合わせると、baynat という形式であったことが予想される。筆者の調査協力者はbenac という語を耳にしたことがあり、動物の体のある部分を指すようだが、正確な意味は分からないという。現代パラン方言において「人間、動物の皮膚」はquraqin と言う。

⁹ 項目 326 にある bana 「骨」に類似しているが、それらの関連は不明である。現代パラン方言において「枝」は cida と言う。

¹⁰⁰ 現代パラン方言では rudu と言う。

¹⁰¹ 項目 333 と同一である。現代パラン方言において「くちばし」は *quwaq qubeheni*(mouth bird)と言う。

¹⁰² 現代パラン方言では qutahi と言う。

¹⁰³ 現代パラン方言では pucupux と言う。

¹⁰⁴ 項目 253 参照。

262	pātui 蛙	patur	qupatun 'frog'
263	iru 蛇 ¹⁰⁵		
264	tsuruh 魚類ノ総名,蟹	tsurux	qucurux 'fish'
265*	魚子 tsuruh laqi 魚ノ子 ¹⁰⁶	tsurux laqi	
266#	kuzun 蝦 ¹⁰⁷		6.3 節参照
267	bäbui 豚	babuy	babuy 'pig'
268	niau 猫	njaw	niyo 'cat'
269	fugrin 犬	huliŋ	huliŋ 'dog'
270	medishi 羊,山羊	miris	miric 'goat'
271	lappa 牛,水牛	lapa	dapa 'cow'
272*	子 lappa lakki 子牛 ¹⁰⁸	lapa laqi	
273*	父 lappa tama 牡牛 ¹⁰⁹	lapa tama	
274*	母 lappa bubu 牝牛 ¹¹⁰	lapa bubu	
275	lappa tana 赤牛	lapa tanah	dapa tanah (cow STAT.red) 'a cow with reddish skin'
276	ōlishi 鼠	qolis	qolic 'mouse'
277	runai 猿	ruŋay	ruge 'monkey'
278	kannoho, kakannoho 鹿 ¹¹¹	qəmix, qaqemix	ruqenux 'deer'
279	bauzak 豚	bawðak	boyak 'boar'
280	sumai 熊	sumay	sume 'bear'
281	dakaidisi 豹	rakaydis	rukelic 'leopard'
282	maina dakaidisi 豹皮	baynat dakaydis	_
283	masolai 叔父	basuran	qubusuran 'elder sibling'
284	makairin 妻,婦人	maqayrin	muqedin 'woman'
285	sānau 夫,男	senaw	seno 'husband'

.

¹⁰⁵ 現代パラン方言のquyu「蛇」に相当するかもしれないが、音の違いがやや大きい。

¹⁰⁶ 現代パラン方言では wawa qucurux (baby fish) と言う。

¹⁰⁷ 現代パラン方言では bolun と言う。

¹⁰⁸ 現代パラン方言では wawa dapa (baby cow) と言う。

¹⁰⁹ 現代パラン方言では tama dapa 「牡牛」と言う。

¹¹⁰ 現代パラン方言では bubu dapa 「牝牛」と言う。

 $^{^{111}}$ 現代パラン方言の語頭 n は荒尾の表記において対応する部分が見あたらないが、音節の数は同じよう

で、荒尾の形式では語頭が重複された音節のようにも見える。

286	ama 婿	ama	ama 'son-in-law'
287	innä 花嫁	ina	ina 'daughter-in-law'
288	siārek 他人	sieliq	seediq 'person, other person'
289	dangā 友人112	daŋi	daŋi 'friend'
290	daudan 老人	rawdan	rudan 'old people'
291	waewa 女児	waewa	weewa 'girl'
292	lēsau 男児,蕃丁	risaw	riso 'boy'
293	lakki 小児	laqi	laqi 'child'
294	soazi 妹,弟	suaði	suwai 'younger sibling'
295	masolan 姉,兄,酋長	basuran	qubusuran 'elder sibling'
296	bubu 母	bubu	bubu 'mother'
297	tama 父	tama	tama 'father'
298	mädan 親戚	madan	hulumadan 'sibling of opposite sex'
299	tamuk 才辞ギ	tamuk	tuhumuku 'to bow'
300#	uttashi, bāro 睾丸 ¹¹³		6.1 節参照
301	痛腹	minarux raboas	mu-narux nbuyas (STAT-sick belly) 'to
	minäroho raboashi 腹痛		have a stomachache'
302*	mahukishi siārek 死人 ¹¹⁴	mahuqis sieliq	_
303	minäroho bukui 胸痛	minarux bukuy	mu-narux bukuy (STAT-sick back) 'to
			have a pain in one's back'
304*	kumutak tanna 吐血 ¹¹⁵	kumutaq tanah	
305	sinunoho 頭髮	sinunux	sununux 'hair'
306*	okka sinunoho ハゲ ¹¹⁶	uka sinunux	
307*	matēroho minäroho 熱病 ¹¹⁷	mutilux munarux	
308	minäroho daudeak 目病	minarux dawriq	mu-narux doriq (STAT-sick eye) 'to have
		_	a pain in one's eyes'

¹¹²

¹¹² 荒尾の表記は項目 105 と同一の語を表していると思われる。

¹¹³ 現代パラン方言ではbegax と言う。

¹¹⁴ 現代パラン方言において $seedig\ nu-hiqin\ (person\ PST-die)\ と言う。荒尾の表記において「死ぬ」に相当する語は <math>mahy$ kishi c あり,語未子音はs であると考られるが,この語は荒尾の項目 $484\ maho$ kin,項目 $172\ mah$ ukin と同一の語であり,本来の語末はn である。なぜこの語において語末をs shi で表記したかはわからないが,月田尚美(私信)ではトゥルク方言においてl は有声歯茎側面摩擦音 $[t_g]$ で,これが無声化して [l] と発音されることがあると指摘する。荒尾の調査当時のパラン方言にもこのような傾向があったとすれば、[l] を[s] として聞き取った可能性もある。

¹¹⁵ 現代パラン方言において *pu-berih dara*(CAUS-return blood)と言う。

¹¹⁶ 現代パラン方言では buyuh と言う。

¹¹⁷ 現代パラン方言では munarux mutilux (sickness STAT-hot) と言う。

309	howä 歯グキ ¹¹⁸		
310	rupun 歯	rupun	rupun 'tooth'
311*	ripun minäroho 歯痛 ¹¹⁹	ripun minarux	_
312	minäroho tsunuh 頭痛	minaurx cunux	mu-narux tumux (STAT-sick head) 'to
			have a headache'
313	okka päpak 足ナシ	uka papak	uka papaq (NEG foot) 'there is no foot'
314#	mahikan 瘠セル ¹²⁰		6.2 節参照
315	egu hāzi 肥ヘル121	egu heði	
316	mangēroho 腫物	bakiluh	bukiluh (scab)
317	ma ⁿ gäga 啞,聾,吃り	таŋаŋаһ	mu-ŋaŋah (STAT-dumb) 'to be dumb,
			to be stupid'
318*	okka daudeak 盲目 ¹²²	uka dawriq	_
319	pika 跋腳	pika	pika 123 (STAT.shuffle.one's.feet) 'to
			shuffle one's feet'
320	barebu 小便 ¹²⁴	barebu	rebu 'urine'
321	tsuri 男根	curi	curi 'penis (of a child) '
322	pipi 陰門	pipi	pipi 'vulva'
323	maina 皮膚 ¹²⁵	baynat	
324	nunoho 乳汁,乳房	mınıh	nunuh 'breast'
325	päpak 足	papak	papak, papaq 'foot'
326#	banā 骨 ¹²⁶	_	6.2 節参照
327	bäga 手	baga	baga 'hand'
328	raboashi 腹	rabuas	nbuyas 'belly'

...

¹¹⁸ 秋谷裕幸氏(私信)によると、「歯茎」を表す閩南語には「歯岸」という言い方があり、後半の「岸huar」が、荒尾の形式と類似しているとのことであった。この項目はもしかしたら閩南語の形式を挙げているのかもしれない。

¹¹⁹ 現代パラン方言では munarux rupum(STAT-sick tooth)と言う。項目 310 における荒尾の「歯」の形式は、現代パラン方言の nupum と同様、次末音節の母音が u、(u に相当)である。なぜこの項目において、次末音節の母音が i になっているのかはわからない。項目 331 にも再度現れるが、ここでも次末音節の母音は i となっている。

¹²⁰ 現代パラン方言では kuure (STAT.gaunt) と言う。

¹²¹ 荒尾の表記を現代パラン方言に置き換えると egu hei (many.STAT flesh)「実が多い」となる。現代パラン方言において「(脂肪分が多く) 肥えた」は mu-siyang と言う (STAT-pork)。

 $^{^{122}}$ 荒尾の表記を現代ペラン方言に置き換えると $uka\ doriq$ (NEG.EXIST eye) 「目が無い」となる。「盲目」は現代パラン方言でm-budu (STAT-blind) と言う。

¹²³ *mu-pika* (stat-shuffle.one's.feet) とも言う。

 $^{^{124}}$ 荒尾の表記では語頭に ba があるが,現代ペラン方言はこの分節音を除いた形式になる。 ちなみにこの 荒尾の表記は,項目 161 「朝」と同様である。

¹²⁵ 項目 247 参照。

¹²⁶ 現代パラン方言では bunc 「骨、果物の種」と言う。

329	bukui 胸	bukuy	bukuy 'back, backside'
330	bērasi	biras	birac 'ear'
331	ripun 歯 ¹²⁷	ripun	rupun'tooth'
332	mēdin 眉 ¹²⁸		
333	koak 🏻	quaq	quwaq 'mouth'
334	tsuṇuh 頭	cunux	tunux 'head'
335	dahean 顔		
336	muḥin 鼻	muhiŋ	muhin 'nose'
337*	鼻 孔 muhin bailin 鼻孔 ¹²⁹	muhiŋ bayliŋ	_
338	win 1 130	uin	
339	daha 2	daha	daha 'two'
340	tel 3	teru	teru 'three'
341	seppa 4	sepat	sepats 'four'
342	rinma 5	rima	rima 'five'
343	matel 6 131	materu	mumuteru 'six'
344	mapit 7	mapitu	mpitu 'seven'
345	maseppa 8	masepat	mumusepats 'eight'
346	magari 9	maŋari	muŋari 'nine'
347	mahal 10	maxal	maxan 'ten'
348	mahan ke 1 1 1 132	maxan ke	maxan kiŋan 'eleven'
349	maposan 20	mapusan	mpusan 'twenty'
350	mateln 3 0	materun	muterun 'thirty'
351	masipad 40	masepatəl	musupatun 'forty'
352	marinma 5 0	marima	muriman 'fifty'
353	matel makaten 6 0 133	materu maxadan	mumuteru kumuxalan 'sixty'

¹²⁷ 項目 310 と同一の語である。

¹²⁸ 現代パラン方言では uban dorig (body.hair eye) 「眉」と言う。

¹²⁹ 現代パラン方言では belin muhin (hole nose)「鼻孔」と言う。

¹³⁰ 現代パラン方言では失われた語だが、1910 年代に調査された佐山 (1917: 125) の語彙集にもパラン方言の形式としてウインケンガリ「一」とある。この形式は uin kiyal と転写されうる。当時は uin 「一」が使われていたことがわかる。

¹³¹ 荒尾の形式では接頭辞は *ma*- であるが、現代パラン方言ではこの形式は重複され、さらに母音は弱化を被り *mumu*-となる。この接頭辞は数詞 3 と 4 に付いて、それぞれ倍数の 6 と 8 を表す(項目 345 も参照)。

 $^{^{12}}$ 現代パラン方言では maxan kiyan と言う。荒尾の表記では一語目が対応する。二語目は現代パラン方言の第二音節が脱落したような形式を示している。

¹³³ 荒尾の形式の makaten は項目 354、項目 355、項目 356 に現れる mahadan と同一の語と思われるが、形

354	mapit mahadan 70	mapitu maxadan	mpitu kumuxalan 'seventy'
355	maseppa mahadan 80	masepat maxadan	mumusepat kumuxalan 'eighty'
356	magari mahadan 90	maŋari maxadan	muŋari kumuxalan 'ninety'
357	kekka bakkui 1 0 0 134	keka bekuy	kiŋan kubekuy 'a hundred'
358	karai網袋,taukanトハッシク其形ヲ	keray	kere 'bag for carrying root crops'
	異ニス135		
359	gāpok 竹ニテ造リタル飯入レ	gepuk	gepuk 'lunch box'
360*	煙管 bactak pukan 煙管ヲ掃除スル金ノ	betaq puqan	_
	針36		
361*	putun rubui 磁石ナドノ入レ物 ¹³⁷	putuŋ rubuy	
362*	陰門 chimitsuk pipi交合 ¹³⁸	cimicuq pipi	
363	tēbu 霧社蕃 ¹³⁹	tibu	tibu 'pig pen'
364	pangawan 万大蕃	paŋawan	pulunawan 'Atayal of the Plngawan village'
365	bunebun 芭蕉/實	bunebun	bulebun 'banana'
366	kaduruk 額	kaduruk	kuduruk 'front (of face) '
367	hae ⁿ ma 舌	hema	hema 'tongue'
368	dakairashi 頬	daqeras	duqeras 'face'
369	ngudus 髯	ŋudus	nudus 'beard'
370	bakki 祖孝,祖父	baki	baki 'grandfather, father-in-law, old man'
371	padahau 唇 ¹⁴⁰	padahuŋ	pudahuŋ 'lips'
372	makeyan siarek 捕虜	bakeyan sieliq	bukey-an seediq (bind-UVL person) 'to

式が異なる。なぜここだけ異なる形式なのかはわからない。子音xが調音点の同じkに聞こえ,子音lが調音点の同じtと聞こえ,母音aがeに聞こえたということなのだろうか。

¹³⁴ 現代パラン方言では kinan kubekuy (one bundle) と言う。荒尾の表記では一語目の第二音節が対応しない。あるいは荒尾の聞き誤り、書き損じかもしれない。

¹³⁵ 項目 223 に taukan (現代パラン方言 tokan) と同一の語が掲載されている。

¹³⁶ 荒尾の表記を現代パラン方言に置き換えると、betag(AV.IMP.stick)「刃物で刺す」と puqan「煙管」になる。現代パラン方言では失われた複合語である。

¹³⁷ 現代パラン方言では *lubuy putun* (pocket match) となる。

¹⁸⁸ 荒尾の第二語は現代パラン方言のpipi「陰門」に相当する。現代パラン方言では、荒尾の表記の一語目に相当するc
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c
c

¹³⁹ 現代パラン方言では paran と言う。

 $^{^{140}}$ 荒尾の表記では語末に二重母音が示されているように見受けられるが、現代パラン方言では語末子音は y である。これは荒尾が語末の分節音の表記として n と記録したのを後に u と見誤ったためとも考えられ る。

			bind a person'
373	sana 獺 ¹⁴¹	sanar	_
374	rakaibu 山猫	rakaybux	rukebux 'wild cat'
375	tsakushi 樟脳	cakus	cakus 'camphor'
376*	樟 樹 tsakushi funni 樟樹 ¹⁴²	cakus huni	_
377	fuda 雪	huda	huda 'snow'
378	hakauduf 虹 ¹⁴³	hakaw utux	hako utux 'rainbow'
379	rulun霧, モヤ, 雲 ¹⁴	ruluŋ	
380	karengun 烟	qareŋun	qureŋun 'smoke'
381*	mukarau sia 露 ¹⁴⁵	mukarau sia	
382	säma 香ノ物 ¹⁴⁶	sama	sama 'vegetable'
383	serun 赤キキレ	seluŋ	seluŋ 'red wool'
384	tongorau 鹿ノ毛角	tuŋuraw	tuguro 'deer hom'
385#	to ⁿ guui(万社蕃語)鹿ノ毛角		
386	mashia 旧丰 ¹⁴⁷	basiaq	busiyaq 'to pass a long time'
387	kuntäran 角力 ¹⁴⁸	kuntalaŋ	
388	sapishi 襪	sapis	sapic 'shoe'
389	baānuh 台湾 ¹⁴⁹	baemıx	bureenux 'plain (land) '
390	paai 祖母	pai	pai 'grandmother, mother-in-law, old
			woman'
391*	kakannoho bāgaha 鹿ノ睾丸 ¹⁵⁰	qaqenux begax	

¹⁴¹ 現代では失われた語であるがトゥルク方言 (Rakaw 他 (編) 2006:728) に同源語と考えられる *sanar* 「獺」がある。

¹⁴² 現代パラン方言では、荒尾の表記の第一語目に相当する cakus を用いるだけで「樟」を表す。

¹⁴³ 荒尾の表記では一語として綴られているが、早期パラン方言において hakaw utux (bridge god)「虹」と発音されていたと考えられる。現代パラン方言では hako utux と言う。

¹⁴ 現代パラン方言では失われた形式だが、荒尾より 24 年前にセデック語パラン方言の語彙を収集した Bullock (1874:41) にも、rulung 「雲」と記録がある。現代パラン方言では pulabu 「雲」と言う。

¹⁴⁵ 荒尾の表記の一語目は、現代パラン方言の mu-karo (STAT-cross) 「渡渉する」に相当する。現代パラン方言では dumerus 「露」と言う。

¹⁴⁶ 項目 229 と同一の語である。

¹⁴⁷ 現代パラン方言では cumucac 「物が古い」と言う。

¹⁴⁸ 現代パラン方言に置き換えてみると、kun-talan となりそうであるが、このような形式は現代パラン方言では用いられない。語根 talan は「試す、味見する」という意味である。

¹⁴⁹ この語は本来「平地」を意味する。

¹⁵⁰ 現代パラン方言では begax ruqeux (testicle deer)「鹿の睾丸」と言う。「鹿」に相当する語は荒尾の表記では kakannoho であり、語頭子音が現代パラン方言の ruqenux とは異なる。荒尾の表記は、語頭子音が重複しているようにも見える。

392	shiarake 雷管 ¹⁵¹	_	
393	okkokin 差支ナシ ¹⁵²	uqu	uqu =naq 'it does not matter' (mistake
			=EMPH)
394	buguṛaha 新シキ	bugurah	bugurah 'new'
395*	kutti 青キ「い久り」ノ実ノ如キ者	quti	quti 'feces'
	食用二供ス153		
396	wairoho 藤	warux	quwarux 'vine'
397	nukkaha 学	muqah	nuqah 'thread'
398	ash 木製飯入レ	asu	asu 'trough'
399	katina 南蕃人	katina	mukutina 'Bunun tribe'
400	tarahai 柚子	talahi	tulahi 'shaddock'
401	tsohan前日	cuxan	cuxan 'once in the past'
402	iyu 薬 ¹⁵⁴	iyu	iyu 'medicine'
403	barukui 柿	baluqur	buluqun 'persimmon'
404	魚 kabuo tsurof 竹製ノ漁具 ¹⁵⁵	kawbu curux	kobu 'basket for catching fish'
405	建テル家	simalu sapah	su-malu sapah (DEN-good house) 'to
	simaro säpa 家ヲ建テ或ハ修覆ス		build/repair a house'
	ル		
406*	gaga magaeda hini? コヽへ来タコト	gaga magaeda hini	
	ガアルカ ¹⁵⁶		
407	nākahan 再ビ ¹⁵⁷	nexan	
408*	来再坐コヽ	aguh nexan taleuŋ	
	ägoa nākahan tareon hinni マタオ	hini	
	イデナサイ ¹⁵⁸		

51

¹⁵¹ 現代パラン方言では *pedu*「雷管」と言う。

¹² 現代ペラン方言では*ugu=naq* (AV.IMP.mistake=self)「構わない、捨ておけ」と言う。荒尾の表記では前半が共通しているようだが、後半の kin の部分が合わない。これは調査協力者の李阿輝が、閩南語で「構わない」という表現「不要緊」の「緊」(kin) を誤って使ってしまったためではないか。

¹⁵³ 現代パラン方言では quti rodux (feces chicken) 「グアバ」と言う。

¹⁵⁴ 閩南語からの借用語である。

¹⁵⁵ 現代パラン方言では荒尾の表記の一語目に相当する kobu を用いるだけで「筌」を表す。

¹⁵⁶ 現代パラン方言では m<un>-eyah=su hini di (AV<PST>-come=2SG.NOM here PART) と言う。

¹⁵⁷ 現代パラン方言では texan na (once yet) と言う。 荒尾の挙げた形式も現代パラン方言にはあり, nexan という。 これは「(未来の) いつか, 今後」という意味である。

¹⁵⁸ 現代パラン方言では aguh teheyaq na (come.here.INT AV.visit yet) と言う。

409*	ドレ inu maro ドレガヨイカ ¹⁵⁹	inu malu	_
410*	何 汝ラ maanu gäzan yamu オマエ等ノ言 葉デ何ト云フ乎 ¹⁶⁰	maanu ŋaðan yamu	
411	太陽 goagi 望遠鏡 ¹⁶¹	gagi	gagi ʻglass'
412*	吾 家 yakko säpa 私ノ家 ¹⁶²	yaku sapah	
413*	汝 煙 管 ish pukan 汝ノ煙管 ¹⁶³	isu puqan	
414*	汝 者 ish kakaya 汝ノ者 ¹⁶⁴	isu qaqeya	
415*	走ル 鹿 wada kannoho 鹿ガ走ル ¹⁶⁵	wada qenux	-
416*	有 米 gäga bāgaha 米ガ有ル ¹⁶⁶	gaga begax	
417	okka senau 酒無シ	uka sinaw	uka sino (NEG.EXIST wine) 'there is no wine'
418*	投ゲル 石 chebu batsunuh 石ヲ投ゲル ¹⁶⁷	cebu batsunux	
419	洗 フ 着物 maho luksi 着物ヲ洗フ	mahu lukus	<i>m-ahu lukus</i> (AV-wash clothes) 'to wash clothes'
420*	伐ル 木 lēpak funni 木ヲ伐ル ¹⁶⁸	lipaq huni	
421	mākan ēdau 飯ヲ食フ	mekan idaw	m-ekan ido (AV-eat rice) 'to eat rice'
422	mima sia 水ヲ飲ム	mimah sia	m-imah qusiya (AV-drink water) 'to drink water'

¹⁵⁹ 現代パラン方言では kenu malu (which STAT.good) と言う。

¹⁶⁰ 現代パラン方言では maanu kari=namu (what word=2PL) と言う。

¹⁶¹ 現代パラン方言では hido という。

¹⁶² 現代パラン方言では sapah=mu(house=1sg.gen)と言う。

¹⁶³ 現代パラン方言では puqan=su (pipe=2sG.GEN) と言う。

¹⁶⁴ 現代パラン方言では quqeya=su(tool=2sg.GEN)と言う。

¹⁶⁵ 現代パラン方言では t<um>alan ruqenux (<AV>run deer) と言う。

¹⁶⁶ 現代パラン方言では niqan beras (have hulled.rice) と言う。

¹⁶⁷ 現代パラン方言では q<um>ada butunux (<AV>throw stone) と言う。

¹⁶⁸ 現代パラン方言では t<um>atak quhuni (<AV>cut tree) と言う。

423	食 肉 pukun sēdan 肉ヲ食フ	puqun siðaŋ	puq-un siyan (eat-UVP pork) 'to eat
	Parton Section 177 X		pork'
424*	mākan da 食シ了ル169	mekan da	
425*	オコス 火 pausa puniak 火ヲ燃ヤス ¹⁷⁰	pausa puniq	-
426*	ツクロウ 火 simaro puʻnniak 火ヲツクロヘ ¹⁷¹	simalu puniq	
427*	負フ 子供 paane lakki 子供ヲ負フ ¹⁷²	paani laqi	
428*	有 魚 泳グ 水 gäga tsuruh nākan sia 魚ハ水ヲ泳	gaga tsurux niqan sia	
	グ ¹⁷³		
429*	男 耕 ス sānau kaneepa 男ガ耕ス ¹⁷⁴	senaw kaneepah	
430*	女 縫 フ makairin chimaisi 女ガ縫フ ¹⁷⁵	maqailin cimais	
431	papurai ēdau 飯ヲ炊ク	papuray idaw	pure ido (AV.cook rice) 'to cook rice'
432*	病 好 minäroho maro 病癒ユ ¹⁷⁶	minarux malu	
433*	猫 カム 鼠 niau mākan ōrisi 猫ガ鼠ヲ咬ム ¹⁷⁷	njaw mekan olis	
434*	人 斬 犬 siālick lēpak fülin 人ガ犬ヲ殺ス ¹⁷⁸	sieliq lipaq huliŋ	_

¹⁶⁹ 現代パラン方言では m<un>-ekan da (AV<PST>-eat PART) と言う。

¹⁷⁰ 現代パラン方言では sulamag (AV.burn) と言う。

¹⁷¹ 現代パラン方言では putun-i (light-UVP/UVL.IMP) と言う。

¹⁷² 現代パラン方言では paan-un laqi (carry.on.back-UVP child) と言う。荒尾の挙げた動詞は現代パラン方言 では pa-ani (carry.on.back-UVC.IMP) または paan-i (carry.on.back-UVP/UVL.IMP) と分析される形式に相当す

¹⁷³ セデック語の感覚では、魚が水中にいるのは当然で、それを取り立てて「泳ぐ」と表現するのは奇妙で あるが、あえて現代パラン方言で表現するなら *I<um>amuy qusiya qucuru* (<AV>swim water fish) と言う。 恐らく、調査協力者も訳出に窮して「魚が水にいる」というような意味の表現をしたかったのではない か。

¹⁷⁴ 現代パラン方言ではk<um>eepah ruseno (<AV>work.in.field man) という。

¹⁷⁵ 現代パラン方言ではs<um>ais mugedin (<AV>sew woman) と言う。

¹⁷⁶ 現代パラン方言では malu munarux (STAT.good sickness) と言う。

¹⁷⁷ 現代パラン方言では q<um>iguc qolic niyo(<AV>bite mouse cat)と言う。

¹⁷⁸ 現代パラン方言では s<um>ipaq hulin seediq (<AV>kill dog person) と言う。

435*	焼 肉 tsurin sēdan 焼キタル肉 ¹⁷⁹	culiŋ siðaŋ	
436#	mangēlisi 泣ク180		6.2 節参照
437*	焼 紙 tsurin kaläbui 紙ヲ焼ク ¹⁸¹	culiŋ kalabuy	
438	着 ル 着物 pakusun luksi 着物ヲ着ル	pakusun lukus	pu-lukus-un lukus (CAUS-clothes-UVP clothes) 'to wear clothes'
439	ノム 酒 mima sēnau 酒ヲ飲メ ¹⁸²	mimah sinaw	
440	ツケル アカリ pausa pumiak アカリヲツケヨ	pausa puniq	
441	幾何 銭 pia habägan 幾銭乎 ¹⁸³	pia habaŋan	piya hubaŋan (how.many coin) 'how much does it cost?'
442*	汝 ima gäzan ish? 名ハ何ト云フ乎 ¹⁸⁴	ima ŋaðan isu	-
443*	raudoho bärun 鶏ノ卵 ¹⁸⁵	rawdux baluŋ	
444*	竹 葉 batakan sudu 竹ノ葉 ¹⁸⁶	batakan sudu	
445*	竹 枝 batakan banni 竹ノ枝 ¹⁸⁷	batakan	
446*	来リ ägoa pre ⁿ gaukäle来リ話セ ¹⁸⁸	aguh pəreŋaw kari	
447*	来リ 見 ägoa kimita 来リ見ヨ ¹⁸⁹	aguh qimita	
448*	karau iya egu koa ^k 黙レ ヤカマシク 云フナ ¹⁹⁰	qaraw iya egu quwaq	

¹⁷⁹ 現代パラン方言では siyan nu-duh-an (meat PST-roast-UVL) と言う。

¹⁸⁰ 現代パラン方言では *l<um>inis* (<AV>cry) と言う。

¹⁸¹ 現代パラン方言では sulamaq kulabuy (AV.bum paper) と言う。

¹⁸² 現代パラン方言では mah-i sino (drink-UVP/UVL.IMP wine) と言う。

¹⁸³ 現代パラン方言では piya pila (how.many money) または piya nedaŋ (how.many price) と聞くのが一般的である。因みに nedaŋ 「値段」は日本語からの借用語である。

¹⁸⁴ 現代パラン方言では ima nayan=su (who name=2sg.gen) と言う。

¹⁸⁵ 現代パラン方言では balun rodux (egg chicken) と言う。 荒尾の表記では項目 193 に同じ表現がある。

¹⁸⁶ 現代パラン方言では waso butakan (leaf bamboo) と言う。

¹⁸⁷ 現代パラン方言では butakan と言う。

¹⁸⁸ 現代パラン方言では aguh ma reyo (come.here.INT CONJ AV.IMP.speak) と言う。

¹⁸⁹ 現代パラン方言では aguh ma qita (come.here.INT CONJ AV.IMP.see) と言う。

¹⁹⁰ 現代パラン方言では garo, iya su-quwaq (be.quiet.INT PROH DEN-mouth) と言う。

449*	不 食フ 飯 inni mākan ēdau 飯ヲ食ハヌ ¹⁹¹	ini mekan idaw	
450	不⊠ 食フ 飯 ohai mākan ēdau 飯ハ嫌ダ ¹⁹²	uxay mekan idaw	uxe m-ekan ido (NEG AV-eat rice) 'he will not eat'
451*	何 働 ク maanu kaneepa? 何ヲスルカ ¹⁹³	таапи капеераһ	
452*	行 呼 ブ ussa marawa 行テ呼べ ¹⁹⁴	usa malawa	_
453*	吾 自ラ ハタラク yakko nänak kaneepa 自分ニスル 195	yaku nanaq kaneepah	_
454*	多ク 食フ egu ekkan 大食スル ¹⁹⁶	egu ekan	_
455*	呼 ベ 早ク marawa häle 早ク呼べ ¹⁹⁷	malawa hari	
456*	多ク 打 egu baebu 強ク打テ ¹⁹⁸	egu baebu	
457*	多ク 笑 フ egu mafulisi 大二笑フ ¹⁹⁹	egu mahulis	_
458*	好 太陽 maro goagi 好キ天気 ²⁰⁰	malu gagi	_
459*	tsuruf chēkoaha 小キ魚 ²⁰¹	curux cikuh	
460*	大 鳥 paru bahenni 大ナル鳥 ²⁰²	paru baheni	

¹⁹¹ 現代パラン方言では ini ekan ido (NEG AV.IMP.eat cooked.rice) と言う。

¹⁹² 荒尾のグロスの部分に用いた図は、筆者には判読できなかった文字を示す。

¹⁹³ 現代パラン方言では ga=su mu-miyak maanu (PROG=2SG.NOM STAT-do what) と言う。

¹⁹⁴ 現代パラン方言では usa l<um>awa (AV.IMP.go <AV>call) と言う。

¹⁹⁵ 現代パラン方言では yaku=nag(1SG.PRON=self)と言うだけで「(何らかの動作)を自分で行う(ので手助けは無用)」という意味を表す。

¹⁹⁶ 現代パラン方言では egu puq-an=na (STAT.many eat-UVL=3SG.GEN) と言う。

¹⁹⁷ 現代パラン方言では nahari hari l<um>awa (quick.INT more.or.less <AV>call) と言う。

¹⁹⁸ 現代ペラン方言では hunek-i (do.forcefully-UVP/UVL.IMP) または hunek-i beebu (do.forcefully-UVP/UVL-IMP AV.hit) と言う。

¹⁹⁹ 現代パラン方言では mu-hulis paru(STAT-laugh STAT.big)と言う。

²⁰⁰ 現代パラン方言では *malu karac*(STAT.good sky)と言う。

²⁰¹ 現代パラン方言では queurux biciq (fish STAT.small) と言う。 荒尾が用いる chēkoaha は現代パラン方言の tikuh に当たり「少ない」 を意味する。

²⁰² 現代パラン方言では *qubuheni paru* (bird STAT.big) と言う。

461*	赤 花 tanna paheppa 赤キ花 ²⁰³	tanah pahepah	_
462*	白 砂トオ labu kanchia 白キ砂糖 ²⁰⁴	labu kancia	_
463*	火 炭 punniak baga 炭 ²⁰⁵	puniq bagah	_
464*	山 高 mabuan habärau 山高シ ²⁰⁶	mabuan habaraw	_
465*	洗フ 米 sinaui bāgaha 洗ヒタル米 ²⁰⁷	sinawi begax	_
466*	白 米 labu bāgaha 白キ米 ²⁰⁸	labu begax	_
467*	イツ 好 太陽 sinoan maro goagi 何時好キ天気	sinuan malu gagi	_
	ニナラウ乎 ²⁰⁹		
468*	鶏 子 有 五 raudoho laki gäga linma 鶏ノ卵ガ	rawdux laqi gaga rima	
	五ツアル210		
469*	汝 食 乳 ish mākan nunoho 汝乳ヲ飲メ ²¹¹	isu mekan nunuh	_
470*	吾 ノム 熱 キ 水 yakko mima matēroho sia 吾ハ湯	yaku mimah matilux sia	
	ヲ飲ム212		
471*	今日 無シ 雨 säya okka kumuzoho 今日ハ雨ハ	saya uka qumuðux	_

²⁰³ 現代パラン方言では *pehepah mu-tanah* (flower STAT-red) と言う。

²⁰⁴ 項目 195 参照。

 $^{^{205}}$ 現代ペラン方言では bagah 「木炭」と言う。 荒尾のように火を表す語は特に付けない。 項目 112 と同の語。

²⁰⁶ 現代パラン方言では *bubaro dugiyaq*(STAT.tall mountain.top)と言う。この項目の荒尾の表現と全く同じ表現が項目 169 に挙げられているが、両者の訳出は異なる。

²⁰⁷ 現代パラン方言では beras s<un>ino (hulled.rice <UVP.PST>wash) と言う。

²⁰⁸ 現代パラン方言では beras と言う。

²⁰⁹ 現代パラン方言では kunuwan maha malu hari karac (when AV.FUT.go STAT.good more.or.less sky) と言う。

²¹⁰ 現代パラン方言では *niqan rima balun* (have five egg) と言う。

²¹¹ 現代パラン方言では *munuh-i* (breast-UVP/UVL.IMP) と言う。

²¹² 現代ペラン方言では*m-imah=ku oyu*(AV-drink=ISG.NOM hot.water)と言う。「湯」を表す*oyu* は日本語からの借用語である。

	降ラス²¹³		
472	煮ル 菜 papurai däma 菜ヲ煮ル	papuray damat	pure damac (cook.AV side.dishes) 'to cook side dishes'
473	煮ル 芋 papurai säli 芋ヲ煮ル	papuray sari	pure sari (cook.AV taro) 'to cook taro'
474*	汝 社 来ルコ、幾 yamu däya eda himni pira räbi 汝 等ノ蕃社カラコ、二来ル	yamu daya eðah hini pira rabi	
	二八幾日カヽル乎214		
475*	来ル コ 、 kenºgān läbi eda hinni 一晩寝テ来 ル ²¹⁵	kiŋan rabi eðah hini	
476*	泊ルコン 好 ken ⁿ gan läbi matake hinni maro 今	kiŋan rabi mataqi hini malu	
477*	晩一晩コヽニ泊ルガヨロシイ ²¹⁶ 	lipaq sieliq naqah	
478*	汝 皆 不可 斬 人 yamu kana i ya pakkun siārek 汝 等人ヲ殺す勿レ ²¹⁸	yamu kana iya paqun sieliq	-
479*	コ、川 話ス 何 hinni yayun pare ⁿ gau maanu? 此川 ノ名ハ何ト言フ乎 ²¹⁹	hini yayuŋ pareŋaw maanu	
480*	ソノ 山 話ス 何 hish bab <u>u</u> yan pare ⁿ gau maanu? ア ノ山ノ名ハ何ト言フ乎 ²²⁰	hisu babuyan pareŋaw maanu	-
481*	ソノ 社 話ス 何 hish däya pare ⁿ au maanu アノ蕃	hisu daya pareŋaw maanu	_

²¹³ 現代パラン方言では *ini quyux saya* (NEG rain now)「今日は雨が降らない」と言う。

²¹⁴ 現代ペラン方言では piya ali kundalax=su alaŋ m-eyah betaq hini (how.many day AV.from=2sg.NOM village AVcome until here) と言う。

²¹⁵ 現代パラン方言では taqi kinan rabi (AV.sleep one night) と言う。

²¹⁶ 現代パラン方言では taqi hini kiya keeman ha(AV.sleep here that night PART)と言う。

²¹⁷ 現代パラン方言では naqah s<um>ipaq seediq (STAT.bad <AV>kill person) と言う。

²¹⁸ 現代パラン方言では *iya paq-i seediq* (PROH kill-UVP/UVL.IMP person) と言う。

²¹⁹ 現代パラン方言では *maanu yayuŋ nii* (what river this) と言う。

²²⁰ 現代パラン方言では *maanu lumiqu gaga* (what mountain that) と言う。

	社ノ名ハ何ト言フ乎221		
482*	夜眠ル汝家	kaaman mataqi isu	_
	kaaman matake ish säpa 今夜汝ノ	sapah	
	家二泊ラン222		
483*	汝 病 快 ish minäroho maro? 汝ノ病気ハ快	isu minarux malu	
	キ乎223		
484*	イツ 彼 死 kinoan ish mahokin 彼ハ何時死セ	kinuan isu	
		mahuqin	
	シ乎 ²²⁴		
485*	ussa marawa tel soazi 行テ三人ノ蕃	usa malawa teru	
	丁ヲコヽヘ呼デ来イ225	suaði	
486*	来コ、	eðah hini ²²⁶	
	eda hinni		
487*	コヽ 道 汝 案内 吾 行ク	hini elu isu taiyaq	
	hinni erru ish taiyak yakko maha	yaku maha	
	此道ヲ案内セヨ ²²⁷		
488*	来イツ 日 本 人 社	eðah kinuan tanah	
	eda kinoan tana tsu"nuh däya	cunux daya yamu	
	汝		
	yamu? 何時日本人ガ汝等ノ社ニ至		
	リシャ228		
489*	コヽ 館長 皆 愛ス 汝	hini basuran kana	_
	hinni masoran kana kufun yamu	kuxun yamu	
	コヽノ大人等ハ皆汝等ヲ愛ス229		
490#	läbuy 白布	labuy	kulabuy 'paper'
491	lärisi 赤布		-

²²¹

²²¹ 現代パラン方言では *maanu alaŋ gaga* (what village that) と言う。

²²² 現代パラン方言では taqi=ku sapah=su kiya keeman (AV.sleep=1SG.NOM house=2SG.GEN that night)と言う。

²²³ 現代パラン方言では ye malu munarux=su di(Q STAT.good sickness=2SG.GEN PART)と言う。

²²⁴ 現代パラン方言では un-huqin su-kunuwan heya (PST-die PST-when 3SG) と言う。

²²⁵ 現代パラン方言では osa l<um>awa teru riso (AV.IMP.go <AV>call three male.youth) と言う。

²²⁶ 項目 510 と同一文である。現代パラン方言では aguh (come.here.INT) と言う。

²²⁷ 現代パラン方言では pugula-i=ku elu nii (guide-UVP/UVL.IMP=1SG.NOM this) と言う。

²²⁸ 現代ペラン方言では*m<un>-eyah su-kumwan tanah tumux alaŋ* (AV<PST>-come PST-when red.STAT head village) と言う。

²²⁹ 現代パラン方言では *kucum=namu=daha kana qubusuran nii*(like.UVP=2sg.NOM=3PL.GEN all elder this)と言う。

492#	lawa bärai 褐布	lawa balay	lawa bale (cotton true) 'really cotton-made'
	FE 1.220		made
493	lawa ukin 黒布 ²³⁰	lawa	
494	karabui 模様付布	kalabuy	kulabuy 'paper'
495*	吾 欲 見 yakko kufun kumita 吾レハ見タシ	yaku kuxun qumita	-
	231		
496*	見 吾 kimita yakko 吾二見セヨ ²³²	qimita yaku	
497*	汝 見 ish kimita 汝見ヨ ²³³	isu qimita	_
498*	貸ス taeta yakko 吾二貸セ ²³⁴	tai ta yaku	_
499*	知ル karaun yakko 吾ハ知ル ²³⁵	kalaun yaku	
500*	不 知 inni karaun ish 汝ハ知ラヌ ²³⁶	ini kalaun isu	
501*	泣 ク man ⁿ ērisi yakko 吾ハ泣ク ²³⁷	yaku	
502*	坐 ish tareon 汝坐セヨ ²³⁸	isu taleuŋ	
503*	欲 眠 kufun matake yakko 吾ハ子ムイ ²³⁹	kuxun mataqi yaku	-
504*	ish gäga 彼レハ有ル ²⁴⁰	isu gaga	
505*	okka yakko 吾レハ無シ ²⁴¹	uka yaku	
	, H /		

²³⁰ 荒尾の表記にある *ukin* は不明である。

²³¹ 現代パラン方言では muku=ku q<um>ita (DES=1SG.NOM <AV>see) と言う。

²³² 現代パラン方言では pu-quta-i=ku (CAUS-see-UVP/UVL.IMP=1SG.NOM) と言う。

²³³ 現代パラン方言では *quta-i* (see-UVP/UVL.IMP) と言う。

 $^{^{24}}$ 現代ペラン方言ではita (give.me.INT) と言う。因みに荒尾の表記の一語目は現代ペラン方言ではta-e=ta (see-UVL.HORT=IPL.GEN)「見てみよう」に対応する。

²³⁵ 現代パラン方言では kula-un=mu(know-UVP=1sG.GEN)と言う。

²³⁶ 現代パラン方言では *ini=su kula-i*(NEG=2sg.GEN know-UVP/UVL.IMP)と言う。

²³⁷ 現代パラン方言では *l<um>injis=ku*(<aV>cry=1sg.NoM)と言う。

²³⁸ 現代パラン方言では *tu-leug* (NONV-sit) と言う。

²³⁹ 現代パラン方言では mu-tuqeraŋ=ku(STAT-sleepy=1sG.NOM)と言う。

²⁴⁰ 現代パラン方言では gaga heya (that 3sG) と言う。

²⁴¹ 現代パラン方言では uka naku(NEG.EXIST 1SG.GEN.PRON)と言う。

506*	yakko mafulishi 吾レハ喜ブ ²⁴²	yaku mahulis	
507*	欲 来 yakko kufun eda 吾レハ来ラン ²⁴³	yaku kuxun eðah	_
508*	与フ bekki ish 汝二与ヘン ²⁴⁴	biqi isu	
509*	bekki yakko 吾レニ與ヘヨ ²⁴⁵	biqi yaku	
510*	来 コヽ eda himi コヽニ来レ ²⁴⁶	eðah hini	_
511*	汝来 ish eda sinoan? 汝ハ何時来ル乎 ²⁴⁷	isu eðah sinuan	_
512*	明日 来コ、 tsäman eda hinni 明日コヽへ来ル	caman eðah hini	_
	248		
513*	明後日 行 社 汝 makaha ussa däya ish 明後日汝ノ	makaxa usa daya isu	_
	社ニ往ク249		
514*	コレ 何 hinni maanu? コレハ何カ ²⁵⁰	hini maanu	
515*	コレ コレ 芋 himni mesi sari コレハ芋デス ²⁵¹	hini mesi sari	-
516*	行 ソコ ussa hish アソコへ行ケ ²⁵²	usa hisu	
517*	来 幾日 eda kinoan 幾日二来ル乎 ²⁵³	eðah kimuan	_
518*	往 ドコ 汝 maha inu ish 汝ハ何處へ行ク乎	maha inu isu	-

²⁴² 現代パラン方言では*mu-qaras=ku*(STAT-happy=1SG.NOM)と言う。

²⁴³ 現代パラン方言では*m-eyah=ku* (AV-come=1sG.NOM) と言う。

²⁴⁴ 現代パラン方言では biq-un=misu(give-UVP=1sG.GEN:2sG.NOM)と言う。

²⁴⁵ 現代パラン方言では biq-i=ku(give-UVP/UVL.IMP=1sG.NOM)と言う。

²⁴⁶ 現代パラン方言では aguh hini(come.here.INT her)と言う。

²⁴⁷ 現代パラン方言では *m-eyah=su kumuwan* (AV-come=2SG.NOM when) と言う。

²⁴⁸ 現代パラン方言では *m-eyah=ku hini kusun*(AV-come=1SG.NOM here tomorrow)と言う。

²⁴⁹ 現代パラン方言では *maha=ku alaŋ=su mukaxa*(go.FUT=1SG.NOM village=2SG.NOM day.after.tomorrow)と言う。動詞を *m-eyah*「来る」に変えてもいい。

²⁵⁰ 現代パラン方言では maanu nii (what this) と言う。

²⁵¹ 現代パラン方言では sari nii(taro this),または sari kes-un nii(taro say-UVP this)と言う。

²⁵² 現代パラン方言では osa hiya (AV.IMP.go there) 「あそこへ行け」と言う。

²⁵³ 現代パラン方言では m-eyah=su kumuwan (AV-come=2sg.NOM when) と言う。

	254		
519*	今日 アツイ säda matēroho 今日ハ暑イ ²⁵⁵	saða matilux	_
520*	今日 寒 イ säda masekui 今日ハ寒イ ²⁵⁶	saða masekuy	_
521*	ソレ 好 hish maro ソレハヨイ ²⁵⁷	hisu malu	_
522*	コレ 悪 himni nakka コレハ悪ルイ ²⁵⁸	hini naqah	_
523*	何故 笑フ 我 maanu mafulisi yakko ナゼ我ヲ笑	maanu mahulis yaku	_
	フカ ²⁵⁹		
524*	カレ 怒 ish maseyan 彼ハ怒テ居ル ²⁶⁰	isu maseyaŋ	_
525*	汝 maseyan ish? 汝ハ怒テ居ル乎 ²⁶¹	maseyaŋ isu	_
526*	呼 来 コヽ marawa eda hinni コヽヘ呼デ来イ	malawa eðah hini	_
	262		
527*	行 家 彼 話 ス maha säpa ish pare ⁿ gau kare 彼ノ	maha sapah isu pareŋaw kari	_
	家ニ行テオ話シナサイ ²⁶³		
528*	今日 好 太陽 säda maro goagi 今日ハ好天気デ	saða malu gagi	_
	ス ²⁶⁴		

²⁵⁴ 現代パラン方言では maha=su inu(AV.FUT.go=2sG.NOM where)と言う。

²⁵⁵ 現代パラン方言では mu-tilux saya (STAT-hot now) と言う。

²⁵⁶ 現代パラン方言では mu-sekuy saya (STAT-cold now) と言う。

²⁵⁷ 現代パラン方言では malu kiya (STAT.good that) と言う。

²⁵⁸ 現代パラン方言では *naqah nii* (STAT.bad this) と言う。

²⁵⁹ 現代パラン方言では malux=su mu-hulis yaku(why=2sg.NOM STAT-laugh 1sg.PRON)と言う。

²⁶⁰ 現代パラン方言では mu-seyan heya (STAT-angry 3SG.PRON) と言う。

²⁶¹ 現代パラン方言では ye=su mu-seyan (Q=2SG.NOM STAT-angry) と言う。

²⁶² 現代パラン方言では *luwan-i hini* (call-UVP/UVL.IMP here) と言う。

²⁶³ 現代パラン方言では osa teheyaq tikuh sapah=na (AV.IMP.go AV.play a.little house=3SG.GEN) または daiteheyaq sapah=na (pass-UVP/UVL.IMP play.AV house=3SG.GEN) と言う。現代パラン方言では「彼のところへ遊びに行きなさい」と表現した。

²⁶⁴ 現代パラン方言では malu karac saya (STAT.good sky now) と言う。

529*	今日 悪 太陽 sāda nakka goagi 今日ハ悪ヒ天気	saða naqah gagi	
	デス ²⁶⁵		
530*	喜 ブ yakko mafulisi 私ハ喜ヒマス ²⁶⁶	yaku mahulis	
531*	悲シム ish ma ⁿ gēlisi 彼ハ悲シミマス ²⁶⁷	isu	
532*	静ニスル ish kärau 汝等静ニセヨ ²⁶⁸	isu qaraw	
533*	腹ガヘル yakko maolai 私ハ腹ガヘリマ	yaku mauray	
	シタ ²⁶⁹		
534*	懲 眠 yakko kufun matake 私ハ眠クナリ	yaku kuxun mataqi	
	マシタ ²⁷⁰		
535*	欲 水 yakko kufun kasia 私ハ水ガ欲シ	yaku kuxun qasia	
	1 ²⁷¹		
536*	ish minäroho 彼ハ病気デス ²⁷²	isu minarux	
537*	死 ish mahukin 彼ハ死ニマシタ ²⁷³	isu mahuqin	-
538*	病 快 ish minäroho maro 彼ハ快キ方デ	isu minarux malu	
	ス ²⁷⁴		
539*	欲 何 kufun maanu ish アナタハ何ヲオ	kuxun maanu isu	

__

²⁶⁵ 現代パラン方言では *naqah karac saya*(STAT.bad sky now)と言う。

²⁶⁶ 項目 506 に同様の表現が載っている。

 $^{^{267}}$ 現代パラン方言では naqah kuxum=na(STAT.bad feeling=3sG.GEN)と言う。なお,荒尾の表記の二語目は項目 436 にも挙がった「泣く」と同じ語と考えられる。

²⁶⁸ 現代パラン方言では *qaro* (be.quiet.INT) と言う。

²⁶⁹ 現代パラン方言では mu-ure=ku (STAT-hungry=1SG.NOM) と言う。

²⁷⁰ 現代パラン方言では *mu-tuqeraŋ=ku di*(STAT-sleepy=1SG.NOM PART)と言う。

²⁷¹ 現代パラン方言では muku=ku m-imah qusiya(DES=1SG.NOMAV-drink water)と言う。

²⁷² 現代パラン方言では mu-narux heya(STAT-sick 3SG.PRON)と言う。

²⁷³ 現代パラン方言では *mu-huqin heya di* (PST-STAT.die 3SG.PRON PART) と言う。または *un-huqin* とも言う。

²⁷⁴ 現代パラン方言では malu munarux=na(STAT.good sickness=3sg.GEN)と言う。

	望ミデス ²⁷⁵		
540*	生蕃 汝 äran ima ish 汝ハ何社ノ者乎 ²⁷⁶	alaŋ ima isu	
541*	ドコ 家 汝 inu säpa ish? オマエノ家ハ何処	inu sapah isu	
	平277		
542*	与エヨ 熱 イ 水 pagesa yakko matēroho sia 私二湯	pagesa yaku matilux sia	
	ヲ下サイ ²⁷⁸		
543*	コノ 蕃人 吾人 酋 長 hinni äran yakko masolan 此蕃人	hini alaŋ yaku basuran	
	ハ私共ノ酋長デス ²⁷⁹		
544*	赤 頭 生蕃 汝 同シク tana tsunuh äran yamu matena	tanah cunuh alaŋ yamu matena daŋi	
	朋友 dange 日本人モ生蕃モ共二朋友ナ		
	IJ ²⁸⁰		
545*	bekki yakko 私ニ下サイ ²⁸¹	biqi yaku	
546*	カツテ 往 ク makera mausa ish? アナタハ往タ	makela mausa isu	
	コトガアリスカ ²⁸²		
547	magaeda 先ツ,初メニ	magaeda	mu-geela (STAT-lead) 'to guide'

4. 母音

現代パラン方言の母音を基準とし、荒尾がそれに対しどのような表記を用いているかを、語末音節 と次末音節に分けて考察する。荒尾の語彙の前にある番号は、語彙表の項目番号 (3.3 節) を示す。荒

²⁷⁵ 現代パラン方言では maanu kuxun=su (what like.UVP=2sG.GEN) と言う。

²⁸² 現代パラン方言では m<un>-osa=su (AV<PST>-go=2SG.NOM) と言う。

²⁷⁶ 現代パラン方言では inu alaŋ=su(where village=2sg.GEN),または p<un>eyah =su alaŋ inu (<pst>AV.come=2sg.NOM village where) と言う。

²⁷⁷ 現代パラン方言では *inu sapah=su*(where house=2sg.GEN)と言う。

²⁷⁸ 現代パラン方言ではbiq-i=ku oyu (give-UVP/UVL.IMP=1SG.NOM hot.water) と言う(項目 470 参照)。 荒尾の 表記の一語目は現代ペラン方言では pu-tugesa (CAUS-teach または FUT-teach) 「教えさせる, これから教え る」に相当すると考えられる。

²⁷⁹ 現代パラン方言では seediq nii qubusuran=nami alaŋ (person this elder=2PL.GEN village) と言う。

²⁸⁰ 現代パラン方言では musu-dayi tanah tunux daha seedeiq daya (RCPLAV-friend red.STAT head person uphill) と 言う。

²⁸¹ 項目 509 と同様の語釈。

尾の語彙のあとに、現代パラン方言の形式を括弧付きで示す。荒尾の資料には何度か重複して現れる 語があり、それぞれ表記が異なることもある。考察に関わる場合はいくつかの表記も分析の対象にす る。荒尾の語彙は非イタリック体で表示する。語彙中のひとつの文字を扱う場合も非イタリック体で 表示する。一方、現代パラン方言の語彙とそれを構成する分節音はイタリック体で表示する。また、 音素を表す場合もイタリック体で表示する。

語末子音としてのs, x, h の後に, 荒尾の表記では支え母音ともいえる母音が添えられていることがある (5.11 節, 5.12 節, 5.13 節)。これら, 荒尾によって聞き取られた支え母音は音声的な現象であり音素ではない。そのため本稿の考察からも省く。

セデック語パラン方言との比較のためセデック語トゥルク方言のデータを引用することがあるが、 注釈など特記の無い場合はすべて Rakaw 他 (編) (2006) からの引用であることを断っておく²⁸³。また、この文献を含め、先行研究から言語データを引用する際は表記に多少の変更を加えている。

4.1 現代パラン方言における a

4.1.1 語末音節

(7) に見られるように現代ペラン方言のaに対応する表記として、荒尾はa(太字で表記)を用いている。

(7) 現代パラン方言の語末音節の a と荒尾の a²⁸⁴

67 matara (mutara), 6 iya (iya), 17 taeya (teheya), 29 ussa (usa), 29 mausa (mosa), 29 maha (maha), 42 mapa (mapa), 48 kēda (kiya), 50 kera (kela), 59 atak (atak), 66 kana (kana), 69 rita (nita), 70 mākan (mekan), 73 marawa (mulawa), 75 bahan (qumbahan), 77 pira (piya), 78 habāgan (hubanan), 80 sepōhan (supuhan), 85 tsäpan (capan), 86 wada (wada), 87 okka (uka), 88 gäga (gaga), 90 kimita (qumita), 94 ima (ima), 98 aran (alan), 99 panimukan (pulumukan), 103 pausa (posa), 107 maowashi (muuyas), 116 marangan (sunburanan), 117 simada (hulumadac), 143 pukan (puqan), 153 lappa (dapa), 157 säya (saya), 158 tsäman (caman), 159 makaha (mukaxa), 160 chēga (ciga), 162 arian (diyan), 163 kaaman (keeman), 164 sia (qusiya), 166 funna (hunac), 167 däya (daya), 179 basukan (busukan), 198 räma (damac), 216 pira (pala), 218 kanawa (qunawan), 201 tawak (tahawak), 223 tuakan (tokan), 228 gētsan (gican), 229 säma (sama), 230 tsubura (tubula), 231 buna (buna), 237 batakan (butakan), 250 päpak (papak), 251 tama (tama), 279 bauzak (boyak), 286 ama (ama), 290 daudan (rudan), 291 waewa (weewa), 295 masolan (qubusuran), 298 mädan (hulumadan), 301 raboashi (nbuyas), 313 okka (uka), 319 pika (pika), 327 bäga (baga), 330 bērasi (birac), 339 daha (daha), 341 seppa (sepac), 342 rinma (rima), 347 mahal (maxan), 349 maposan (mpusan), 354 mahadan

** 現代パラン方言の語末 -aq (5.10 節), -ax (5.12 節), -ah (5.13 節) は荒尾の表記が多様なためそれぞれの子音の節で扱う。

²⁸³ Rakaw 他 (編) (2006) では、次末音節より前の音節は母音を表記しないが、本稿では曖昧母音を書き 入れるなど、表記上多少の変更を加えている。

(kumuxalan), 364 paⁿgawan (puluyawan), 367 haeⁿma (hema), 368 dakairashi (duqeras), 372 makeyan (bukeyan), 377 fuda (huda), 399 katina (mukutina), 401 tsōhan (cuxan), 406 magaeda (mugeela), 407 nākahan (nexan), 410 gäzan (ŋayan), 414 kakaya (quqeya), 423 sēdan (siyan), 453 nānak (nanaq), 476 kenⁿgan (kiŋan), 484 kinoan (kumuwan), 492 lawa (lawa), 524 maseyan (museyan), 542 pagesa (putugesa), 544 matena (muntena)

これ以外にも (8) に挙げたように、現代パラン方言のaに対して、荒尾が \ddot{a} と \ddot{a} を用いた例もひとつずつ見られた。項目 475 については、荒尾が語末母音をaで表記する例も項目 476 に ken^n gan として見られたため \ddot{a} とaの間に厳密な使い分けはなさそうである。

(8) 現代パラン方言の語末音節の a と荒尾の ä または ā 287 innā (ina), 475 ken¹gān (kiŋan)

4.1.2 次末音節

現代パラン方言における次末音節のaは(9)に挙げたようにaで表記される。

(9) 現代パラン方言の次末音節のaと荒尾のa

2 lowahai (ruwahe), 4 matara (mutara), 5 agoa (aguh), 7 paru (paru), 8 nakka (nagah), 9 maro (malu), 26 tanna (tanah), 27 maha (maha), 35 simaro (sumalu), 39 take (taqi), 41 paane (paani), 42 mapa (mapa), 50 karaun (kulaun), 54 pattashi (patis), 58 harun (halun), 59 atak (atak), 60 matakui (mutakun), 66 kana (kana), 73 marawa (mutawa), 74 pakkun (paqun), 75 bahan (qubahan), 83 sinaui (sunagi), 83 maho (mahu), 86 wada (wada), 95 maanu (maanu), 97 kabu (kahabu), 98 aran (alan), 105 danⁿgā (dani), 109 sikari (sukadi), 113 habu (habik), 116 marangan (sumburanan), 117 simada (sulumadac), 122 tarashi (turasi), 125 yayū (yayu), 139 kaū (kayu), 141 tamako (tumaku), 153 lappa (dappa), 159 makaha (mukaxa), 166 yayun (yayun), 188 waru (walu), 192 daroho (darux), 216 para (pala), 219 tawak (tahawak), 236 tarabush (turabus), 237 batakan (butakan), 243 waru (walu), 251 tama (tama), 254 tamakui (tumaquy), 259 padaushi (pudaus), 265 lakki (laqi), 286 ama (ama), 339 daha (daha), 346 magari (munari), 347 mahal (maxan), 354 mahadan (kumuxalan), 364 pangawan (pulunawan), 370 bakki (baki), 371 pudahau (pudahun), 376 tsakushi (cakus), 378 hakauduf (hako utux), 381 mukarau (*mukaro*), 388 sapishi (*sapic*), 390 paai (*pai*), 398 ash (*asu*), 400 tarahai (*tuhali*), 410 yamu (yamu), 412 yakko (yaku), 430 chimaisi (sumais), 463 baga (bagah), 492 lawa (lawa), 494 karabui (kulabuy), 515 sari (sari), 527 kare (kari)

このほか(10)に示したように、現代パラン方言のaに対応する表記として荒尾はäも用いている。

(10) 現代パラン方言の次末音節の a と荒尾の ä

67 häle (hari), 12 kälau (qaro), 14 habärau (hubaro), 18 därin (daliŋ), 30 ninäroho (munarux), 40 ärgan (aŋan), 43 ädasi (adis), 47 käle (kari), 72 kaläbui (kulabuy), 78 habägan (hubaŋan), 80 säpoa (sapuh), 85 tsäpan (capaŋ), 88 gäga (gaga), 112 bäga (bagah), 123 bäri (bubali), 136 särau (salo), 148 säpo (sapo), 149 säpa (sapah), 152 bäbui (babuy), 154 pädai (paye), 157 säda (saya), 158 tsäman (caman), 167 däya (daya), 184 äran (alaŋ), 193 bärun (baluŋ), 198 räma (damac), 229 säma (sama), 250 päpak (papak), 262 pätui (qupatun), 298 mädan (hulumadan), 317 margäga (muŋaŋah), 327 bäga (baga), 408 ägoa (aguh), 410 gäzan (ŋayan), 453 nänak (nanag), 473 säli (sari), 474 räbi (rabi), 492 bärai (bale)

荒尾の表記における a も \ddot{a} も,現代パラン方言の a に対応する。二種類の荒尾の表記にどのような使い分けがあったかは明らかでないが,(11) にあるように同一の語に対し二種類の表記とも用いていることがあり,二つの間に厳密な使い分けがあったわけではないことが推察される。

現代パラン方言の次末音節のaと荒尾のaまたはä

67 **a**goa, 408 **ä**goa (*aguh*)

463 baga, 112 bäga (bagah)

527 kare, 47 käle (kari)

さらに(12)にあるように、現代パラン方言のaに対応する表記として、荒尾がaiを用いる語が一例見られた。トゥルク方言における同源語はgewana「藤の一種」であるため、歴史的にみても次末音節の母音はaの可能性が高く、荒尾の表記は何らかの誤りだろう。

 (12)
 現代パラン方言の次末音節 a と荒尾の ai

396 wairoho (quwarux)

また (13) にあるように、現代パラン方言の a に対応する表記として、荒尾では oa を用いているのが項目 174 の goagi 「日」であるが、これは 6.2 節で見るようにアタヤル語の形式 wagi の影響を受けた可能性があり、[gwagi] のように発音されていたのかもしれない。それを goagi という表記で表そうとしたのだろうか。

(13) 現代パラン方言の次末音節 a と荒尾の oa 174 goagi (gagi)

4.2 現代パラン方言における i 4.2.1 語末音節

以下(14)にあるように現代パラン方言のiに対応する表記として, 荒尾はiを用いている285。

(14) 現代パラン方言の語末音節のiと荒尾のi

16 matsairin (chehedin), 18 därin (daliŋ), 49 mafulissi (muhulis), 51 inni (ini), 67 tsurin (culiŋ), 81 bekki (biqi), 83 sinaui (sunagi), 92 hinni (hini), 106 kimeki (kumeeki), 108 papurin (puhuliŋ), 109 sikari (sukadi), 111 kafurisi (qubulic), 121 umuki (gumuki), 122 tarashi (turasi), 123 bäri (bubari), 129 kumi (qumi), 147 rupi (rupi), 156 kumuchi (qumuti), 172 mafukin (muhuqin), 186 puttinzakaizak (putiŋ yuqeyaq), 190 bahānni (qubuheni), 213 tsuki (cuqi), 241 funni (quhuni), 245 rehi (lexi), 255 kuhin (kuhiŋ), 260 kui (kui), 265 lakki (laqi), 269 furin (huliŋ), 270 mēdishi (miric), 276 ōlishi (qolic), 281 dakaidisi (rukelic), 284 makairin (muqedin), 294 soazai (suwai), 315 hazi (hei), 321 tsuri (curi), 322 pipi (pipi), 337 muhin (muhiŋ), 337 bailin (beliŋ), 346 magari (muŋari), 370 bakki (baki), 386 mashia (busiyaq), 388 sapishi (sapic), 390 paai (pai), 395 kutti (quti), 411 goagi (gagi), 430 chimaisi (sumais), 436 magōlisi (liŋis), 473 säli (sari)

現代パラン方言におけるにi 対し、荒尾の表記ではe または \bar{a} (荒尾のe と \bar{a} は同一の音価)を用いている例をそれぞれ(15)と(16)に挙げる。(15)中の項目 39 に関しては、直前の子音q が母音の低下を引き起こしたと考えられる。

- (15) 現代ペラン方言の語末音節のiと荒尾のe67 häle (hari), 39 take (taqi), 47 käle (kari)
- (16) 現代ペラン方言の語末音節のiと荒尾のā105 danºgā (daṇi), 138 shūpā (supih)

また、それぞれ(17)と(18)に挙げたように、現代ペラン方言のiに対して、荒尾が二重母音のような表記 ue または ie を用いる例もひとつずつ見られた。

- 現代パラン方言の語末音節 i と荒尾の ue 1 orōbue (lebi)
- (18) 現代パラン方言の語末音節 i と荒尾の ie

^{**} 現代パラン方言の語末・jq (5.10 節) と -jh (5.13 節) に対し、荒尾は様々な表記を用いている。これらについては、語末に現れるそれぞれの子音についての節で取り上げる。

232 uchiek (ucik)

さらに (19) にあるように、現代パラン方言のi に対応する表記として、荒尾がa を用いる語が二 つ見られた。

(19) 現代パラン方言の語末音節のiと荒尾のa43 ädasi (adis), 54 pattashi (patis)

項目 54 について、同時代にパラン方言を調査した鳥居(1900: 104)においても patash と記録されている(Ochiai 2018: 126)。そののち語末音節の母音 a が i に変わる変化が起きたと言える。項目 43 も同様、トゥルク方言の同源語は adas と言うことから、パラン方言においても荒尾の調査時は語末母音が a であったが、そののち語末母音の a が i に変わる変化が起きたと言える。

さらに(20)と(21)にあるように、現代パラン方言のiに対応する表記として荒尾がu またはai を用いる例がそれぞれひとつずつ見られた。

- 現代パラン方言の i と荒尾の u113 habu (habik)
- 現代パラン方言の i と荒尾の ai400 tarahai (tulahi) ²⁸⁶

項目 113 について、荒尾からやや時代がくだった佐山 (1917) の調査において「ハビカ」(音韻的表記に転記すると habik) という形式が記録されており、この時代にも語末母音は i である。一方トゥルク方言の同源語は habuk と言い、荒尾の表記と同様語末母音が u である。そのため、この項目に関して荒尾はトゥルク方言の形式を記録したとも考えられる。項目 400 についてはトゥルク方言の同源語は talahi であり、現代パラン方言と同様語末母音は i である。そのため荒尾の表記に誤りがあると考えられる。

4.2.2 次末音節

- (22) にあるように現代パラン方言のiに対応する表記として荒尾はiを用いている。
- (22) 現代ペラン方言の次末音節の i と荒尾の i 6 iya (iya), 51 inni (ini), 65 maitsu (miicu), 69 rita (nita), 74 lipak (sipaq), 76 brigun (burigun), 77 pira (pila), 90 kimita (qumita), 91 ish (isu), 92 hinni (hini), 94 ima (ima), 96 inu (inu),

²⁶ 直前の子音 h の影響によって母音 a が挿入された可能性がある。

140 ribau (*ribo*), 162 arian (*diyan*), 171 sia (*qusiya*), 195 kanchia (*kamciya*), 196 chimo (*timu*), 204 mima (*mimah*), 221 maliku (*buriku*), 268 niau (*ŋiyo*), 287 innä (*ina*), 319 pika (*pika*), 322 pipi (*pipi*), 342 rinma (*rima*), 344 mapit (*mpitu*), 399 katina (*mukutina*), 402 iyu (*jyu*), 441 pia (*piya*)

以下 (23) に挙げたように、現代パラン方言のiに対応する表記として荒尾はēを用いている。

(23) 現代パラン方言の次末音節のiと荒尾のē

10 maⁿgēhui (*muŋihun*), 14 rērin (*didin*), 19 chērun (*gucihu*), 21 chēkoaha (*tikuh*), 28 machēroho (*mutihu*c), 48 kēda (*kiya*), 160 chēga (*ciga*), 165 sēpau (*sipo*), 173 ēdasi (*idas*), 197 sēdan (*siyaŋ*), 217 lēmuk (*limuk*), 228 gētsan (*gicaŋ*), 244 sasēbush (*susibus*), 270 mēdishi (*miric*), 292 lēsau (*riso*), 316 maⁿgēroho (*bukiluh*), 330 bērasi (*birac*), 363 tēbu (*tibu*), 417 sēnau (*sino*), 420 lēpak (*sipaq*), 421 ēdau (*ido*)

荒尾の次末音節 i と \bar{e} は両者とも現代パラン方言の i に対応するが、荒尾がどのように使い分けたかは明らかでなく、(24) のように両者の表記を用いた語も見られた。

現代パラン方言の次末音節のiと荒尾のi またはē74 lipak, 420 lēpak (sipaq)

荒尾の表記における \bar{a} は現代ペラン方言でeを表すものだが、(25) に挙げたのように、現代ペラン方言のiに対応する例が二語見られた。

現代ペラン方言の次末音節 i と荒尾の ā189 maṇgāfui (bugihun), 428 nākan (nigan)

上の項目 428 の場合,隣接する子音 q の影響で母音 i が音声的により低い位置の e に聞こえたため a を用いて表記したのかもしれない。

荒尾の表記における e は現代パラン方言で e を表すものだが、以下(26)のように例外的に i に対応する例が二語得られた。

(26) 現代ペラン方言の次末音節のi 荒尾のe81 bekki (biqi), 475 kenⁿgan (kiŋan)

項目 81 の場合、隣接する子音 q によって母音 i が引き下げられて、音声的に e に近くなった可能性が高い。項目 475 についてだが、母音 i を表すのに荒尾が用いた別の文字に \bar{e} がある。この文字を書

くつもりだったが。の上に符号を忘れたのかもしれない。

4.3 現代パラン方言における u 4.3.1 語末音節²⁸⁷

- (27) に見られるように、現代パラン方言のuに対応する表記として荒尾はuを用いている。
- 27) 現代ペラン方言の語末音節の u と荒尾の u
 19 chērum (guciluŋ), 22 egu (egu), 23 paru (paru), 31 marengu (mudenu), 33 baebu (beebu),
 44 pakusum (pulukusum), 50 karaum (kulaum), 53 kufum (kucum), 58 chebu (cebu), 58 harum
 (haluŋ), 60 matakui (mutakum), 61 urum (uruŋ), 65 maitsu (miicu), 74 pakkun (paqum),
 76 brigum (burigum), 95 maanu (maamu), 96 inu (inu), 97 kabu (kahabu), 103 rineui (negum),
 114 tubu (tubu), 135 ruhum (duhuŋ), 137 tumum (tumum), 161 barebu (murebu), 166 yayum
 (yayuŋ), 170 erru (elu), 172 matakui (mutakum), 180 pukum (puqum), 188 waru (walu),
 189 mangāfui (bugilum), 217 lēmuk (limuk), 221 maliku (buriku), 234 mudu (mudu), 236
 tarabush (turabus), 239 sudu (sudu), 242 kairum (qeluŋ), 244 sasēbush (susibus), 259 padaushi
 (pudaus), 262 pātui (qupatum), 274 bubu (bubu), 331 rupum (rupum), 361 putum (putuŋ),
 362 chimitsuk (cumucuq), 363 tēbu (tibu), 365 bunebum (bulebum), 366 kaduruk (kuduruk),
 369 ngudus (pudus), 375 tsakushi (cakus), 378 hakauduf (hako utax), 380 karengum (qurenum),
 402 iyu (iyu), 403 barukui (buluqum)
- (28) にあるように、現代パラン方言のuに対応する表記として荒尾がoを用いる例も見られた。
- (28) 現代ペラン方言の語末音節の u と荒尾の o 9 maro (malu), 35 simaro (sumalu), 37 tareon (tuleuŋ), 83 maho (mahu), 104 puton (putuŋ), 141 tamako (tumaku), 196 chimo (timu), 359 gāpok (gepuk), 412 yakko (yaku)

荒尾の調査時は、語末にoという音素はなかったと分析される。現代パラン方言では語末にoが見られるが、これは二重母音 aw に遡るものである。そのため荒尾の調査時において、語末音節おいて表記された母音 uと母音 oは対立を成すものではなく、どちらも音素 u を表したものである。

(29) にあるように、現代パラン方言のuに対して、荒尾の表記においてuとoの両方を用いた語も見られた。これらを明確み使い分けているわけではないようである。

 $^{^{37}}$ 現代パラン方言において語末が 1 1 かであるものは、荒尾は様々な表記を用いる。これについては、子音 1 1 6 についての 5.13 節で取り上げる。

(29) 現代パラン方言の語末音節の u と荒尾の u または o361 putun, 104 puton (putun)

このほか、現代パラン方言のuに対応する表記として、荒尾が \bar{o} ,u, \bar{u} を用いる語もそれぞれ(30)、(31)、(32)に挙げたように少数ながら見られた。

- (30) 現代ペラン方言の語末音節の u と荒尾の ō100 tamō (telu)
- (31) 現代ペラン方言の語末音節の u と荒尾の u115 kulu (kulu)
- (32) 現代ペラン方言の語末音節の u と荒尾の ū125 yayū (yayu), 139 kaū (kayu)

さらに、現代ペラン方言のuに対応する表記として、荒尾が二重母音のような表記 au、an、uo を用いる例も (33)、(34)、(35) に挙げたようにひとつずつ見られた。なぜこのような表記を用いたのかはわからない。

- 33) 現代パラン方言の語末音節の u と荒尾の au 371 pudahau (pudahan)
- 現代パラン方言の語末音節の u と荒尾の an 168 babuyan (bubuyu)
- (35) 現代パラン方言の語末音節の u と荒尾の uo404 kabuo (kobu)

次に (36) にあるように現代ペラン方言でのu (太字で示す) に対応する表記が、荒尾の表記では 抜けている例が見られた²⁸⁸。

(36) 現代パラン方言の語末音節の u と荒尾の無表記 91 ish (isu), 299 tamuk (tuhumuku), 340 tel (teru), 344 mapit (mpitu), 398 ash (asu)

 $^{^{88}}$ 次末音節のu が脱落している例も一つだが見られた。項目 181 luksi (現代パラン方言 lukss)である。トゥルク方言の同源語も lukss であるため,荒尾の表記に母音の書き落としが認められる。また,語末子音の直前の母音が抜け落ちた例も見られた。項目 350 mateln(現代パラン方言 mu-teru-n)である。この語は現代パラン方言のteru 「三」から派生されたものである。

これらはすべて、現代パラン方言において後続する子音を伴わない開音節である。これらはトゥルク方言の同源語においても、語末音節の母音にuが存在している。トゥルク方言は順にisu、tohomuku、tonu、pitu、asu となる。そのため荒尾の表記においてこの母音が抜け落ちたということができる。

4.3.2 次末音節

以下(37)に挙げたように現代パラン方言のuに対応する表記として荒尾はuを用いている。

32 mahuriya^k (*muhuriq*), 61 urun (*uruŋ*), 53 kufun (*kaxan*), 104 puton (*putuŋ*), 111 kafurisi (*qubulic*), 121 umuki (*gumuki*), 126 baruku (*butuku*), 129 kumi (*qumi*), 130 puru (*puru*), 135 rufun (*duhuŋ*), 156 kumuchi (*qumut*i), 166 funna (*hunac*), 172 mafukin (*muhuqin*), 176 maurai (*muwe*), 186 puttin (*putiŋ*), 210 ush (*usuk*), 213 tsuki (*cuqi*), 222 bumnaha (*bumuh*), 225 ruⁿgai (*ruŋe*), 230 tsubura (*nubula*), 231 buna (*buŋa*), 232 uchiek (*ucik*), 247 funni (*quhumi*), 255 kuhin (*kuhiŋ*), 300 uttashi (*utaq*), 304 kumutaq (*mutaq*), 360 pukan (*puqan*), 361 putun (*putuŋ*), 377 fuda (*huda*), 378 hakauduf (*hako utux*), 395 kutti (*quti*), 397 nukkaha (*muqah*), 403 barukui (*buluqum*), 452 ussa (*usa*)

以下 (38) に挙げたように、現代パラン方言の u に対応する表記として荒尾は u も用いている。

(38) 現代パラン方言の次末音節のuと荒尾のu

3 kumuzoyo (qumnqux), 36 papurai (pure), 38 tutsui (tutuy), 44 pakusun (puhukusun), 49 mafulissi (muhulis), 99 panimukan (puhumukan), 101 tsunux (tutux), 108 papurin (puhulin), 114 tubu (tubu), 124 puniak (puniq), 127 batsunuh (butumux), 137 tumun (tumun), 143 pukan (puqan), 147 rupi (rupi), 168 babuyan (bubuyu), 179 basukan (busukan), 180 pukun (puqun), 181 sinaruksi (sino lukus), 234 mudu (mudu), 239 sudu (sudu), 256 tsumiyaka (cumiq), 257 supuhu (pucupux), 260 kui (kui), 264 tsuruh (qucurux), 269 furin (hulin), 280 sumai (sume), 296 bubu (bubu), 302 mahukishi (muhuqin), 303 bukui (bukuy), 305 sinunoho (sumunux), 310 rupun (rupun), 321 tsuri (curi), 336 muhin (muhin), 361 rubui (lubuy), 366 kaduruk (kuduruk), 369 rugudus (pudus), 394 bugurah), 419 luksi (lukus), 435 tsurin (culin), 469 nunoho (munuh)

以下 (39) に挙げたように、現代パラン方言のuに対応する表記として荒尾はoも用いている。

(39) 荒尾の次末音節の o と現代パラン方言の u 87 okka (uka), 107 maowashi (muwas), 177 raboasi (nbwas), 182 pokaraudoho (puqan rodux), 252 koak (quwaq), 283 masolai (qubusuran), 294 soazi (suwai), 349 maposan (mpusan), 384 toⁿgrau (nungan), 450 ohai (uxe), 484 mahokin (muhuqin), 517 kinoan (kumuwan), 533 masolai (muure)

以上のように、荒尾の表記における \mathbf{u} と \mathbf{o} と \mathbf{u} はすべて現代パラン方言の \mathbf{u} に対応する。しかし、これらに使い分けがあったかどうかは不明である。(40) のように荒尾が \mathbf{o} と \mathbf{u} の両方を用いる語、(41) のように \mathbf{u} と \mathbf{u} の両方を用いる語が見られた。

- 現代パラン方言の次末音節の u と荒尾の o または u 533 maolai, 176 maurai (*muure*)
- 現代パラン方言の次末音節の u と荒尾の u または ü 360 pukan, 143 pukan (puqan)
- (42) 現代パラン方言の次末音節の u と荒尾の o または u または ü 484 mahokin, 172 mafukin, 302 mahukishi (*muhuqin*)

現代ペラン方言のuに対応する表記として、荒尾が $\bar{\mathbf{u}}$ を用いる例が (43) に挙げたように一例見られた。

現代ペラン方言の次末音節の u と荒尾の ū138 shūpā (supih)

また、現代ペラン方言のuに対応する表記として、荒尾が δ を用いる例が (44) に挙げたように一例見られた。

現代ペラン方言の次末音節の u と荒尾の ō 80 sepōhan (supuhan), 401 tsōhan (cuxan)

このほか、現代パラン方言のuに対応する表記として、(45) にあるように荒尾がiを用いる例も一つ見られた 289 。

(45) 現代パラン方言の次末音節の u と荒尾の i

²⁸⁹ 項目 331 ripun (現代パラン方言 *rupun*) もこの例外に含まれるが、同様の語が項目 310 では rupun として載っている。

362 chimitsuk (cumucuq)

この形式の語根は、現代パラン方言において cucuq である。これは cuq が本来の語根であり、この語頭子音と母音を重複して作られた形式が cucuq だと推測される。そうだとすれば、次末音節における母音はu だということになる。また、荒尾の表記では語頭子音がch であり、この表記は口蓋化していることを示すものである(5.5 節参照)。なぜ口蓋化したかはわからないが、この子音の口蓋化につられて母音もi のように聞こえた可能性もある。

さらに (46) にあるように、現代パラン方言のuが荒尾の表記において二重母音 au になる語が一例見られた。

(46) 現代ペラン方言の次末音節 *u* 荒尾の au 290 daudan (*rudan*)

この語については、トゥルク方言の形式も rudan であり、現代パラン方言と同一の形式である。そのため荒尾の表記が誤っていると考えられる。

4.4 現代パラン方言における e 4.4.1 語末音節

- (47) に挙げたように現代パラン方言のeに対応する表記として荒尾はaiを用いている。これは二 重母音avを表すと考えられる。
 - 現代パラン方言の語末音節の e と荒尾の ai 2 lowahai (ruwahe), 36 papurai (pure), 63 bärai (bale), 154 pädai (paye), 225 ruⁿgai (ruye), 280 sumai (sume), 358 karai (kere), 450 ohai (uxe), 533 maolai (muure)

また, (48) に挙げたように現代ペラン方言のe に対応する表記として, 荒尾がe を用いる語が一例見られた。これも二重母音のe0 を表していると考えられる。

現代パラン方言の語末音節の e と荒尾の ae41 paanae (paane)

4.4.2 次末音節

(49) に挙げたように現代パラン方言のeは、荒尾の表記でもeを用いている。

(49) 現代パラン方言の次末音節のeと荒尾のe

7 egu (egu), 3 sakenoho (sukenux), 17 taeya (teheya), 27 masekui (musekuy), 31 marengu (mudeŋu), 33 barebu (beebu), 37 tareon (tuleuŋ), 45 masekan (musekan), 47 parengau (pureŋo), 50 kera (kela), 71 chebu (cebu), 103 rineui (negun), 106 kimeki (kumeeki), 161 barebu (murebu), 161 eda (eyah), 170 erru (elu), 178 matengi (muteŋi), 245 rehi (lexi), 340 tel (teru), 341 seppa (sepac), 365 bunebun (bulebun), 360 karengun (qurenun), 406 magaeda (mugeela), 429 kaneepa (kumeepah), 454 ekkan (ekan), 460 bahenni (qubuheni), 461 paheppa (pehepah), 515 mesi (mesa), 542 pagesa (putugesa), 544 matena (muntena), 372 makeyan (bukeyan), 291 waewa (weewa)

現代パラン方言のeに対応する表記として、(50) に挙げたように荒尾はāも用いている。

(50) 現代パラン方言の次末音節のeと荒尾のā

20 dakahāyan (deheran), 62 babāriak (mberiq), 70 mākan (mekan), 187 barābare (bulebun), 190 bahānni (qubuheni), 200 bāgaha (begax), 285 sānau (seno), 288 siārek (seediq), 359 gāpok (gepuk), 389 baānuh (bureenux), 407 nākahan (nexan)

荒尾の表記の ā と e はどちらも現代パラン方言の e に対応する。以下 (51) のように二種類とも用いた語も見られたため、明確な使い分けをしているわけではないようである。

(51) 現代パラン方言の次末音節の e と荒尾の ā または e 187 barābare, 365 bunebun (bulebun)

また (52) にあるように現代パラン方言のeが、荒尾の表記ではaで現れる例が8語見られた290。

(52) 現代パラン方言の次末音節のeと荒尾のa

100 tarrō (telu), 144 pongara (punjerah), 163 kaaman (keeman), 278 kannoho (ruqenux), 315 hazi (hei), 357 bakkui (bekuy), 358 karai (kere), 414 kakaya (quqeva)

荒尾が e という音を表すのに用いた表記のうちのひとつが a である。そのため,これらの例は単に バーの書き忘れだったのかもしれない。または隣接する子音が q の場合,その影響で本来の e が音声 的により低い位置で現れたため,荒尾は a と表記した可能性もある。この可能性が疑われるのがの項目 278 と項目 414 である。項目 315 についても,隣接する h の影響で母音が引き下げられたのかもしれないが,そのほかについてはなぜ期待される e ではなく a として現れるかはわからない。

このほか、(53) に挙げたように現代パラン方言のeが、荒尾の表記でoとなる例が一例だけ見られ

²⁰⁰ パラン方言における次末音節のeはタロコ方言の同源語との比較により、セデック祖語の*aに遡る。

た。なぜこのような表記になったかはわからない。

現代ペラン方言の次末音節の e と荒尾の ō1 orābue (lebi)

次に、現代パラン方言の単母音eが荒井の表記において二重母音になる例を見る。(54) に挙げた例では、現代パラン方言のeが荒尾の表記ではaiに対応している。そのため荒尾の調査時代には次末音節二重母音ayが存在したが、現代パラン方言ではeに変わったことがわかる。

(54) 現代パラン方言の次末音節の e と荒尾の次末音節 ai²⁹¹ 16 matsairin (cehedin), 227 bairoaha (beluh), 242 kairun (geluŋ), 281 dakaidisi (rukelic), 284 makairin (mugedin), 368 dakairashi (dugeras), 374 rakaibu (rukebux)

このほか、(55) に挙げたように現代パラン方言の e に対応する表記として荒尾が ae を用いる語が 二例みられた。

(55) 現代パラン方言の次末音節の e と荒尾の ae 360 baetak (*betag*), 367 haeⁿma (*hema*) ²⁹²

項目 360 についてトゥルク方言における同言語は baytaq 「刺す」であることから、荒尾の調査時代のパラン方言は次末音節に二重母音 ay を有していたことがわかる。項目 367 についてトゥルク方言における同源語は hama 「舌」である。そのため次末音節の母音は二重母音 ay に遡らない。荒尾の表記として期待されるのは e であるが、ここでは a が挿入されている。これは語頭子音 h の影響で母音が低く発音され ae のように聞こえたためかもしれない。

²⁰² 直前の子音 h の影響で母音が低い位置で発音されたため a が挿入された可能性がある。

4.5 現代パラン方言における o

4.5.1 語末音節

(56) に挙げたように、現代パラン方言のoに対応する表記として荒尾はauを用いている。これは 二重母音 aw を表していると考えられる。

(56) 現代パラン方言の語末音節の o と荒尾の au

12 kälau (*qaro*), 14 habälau (*hubaro*), 136 särau (*salo*), 140 ribau (*ribo*), 165 sēpau (*sipo*), 199 ēdau (*ido*), 261 parabau (*purobo*), 268 niau (*ŋiyo*), 285 sānau (*seno*), 378 hakauduf (*hako* utux), 281 mukarau (*mukaro*), 384 toⁿgorau (*tumuro*), 417 sēnau (*sino*), 446 pareⁿgau (*pureno*)

ただし (57) に挙げたように、一例だけ現代パラン方言のoが荒尾の表記においてもoで現れる例が見られた。

(57) 現代ペラン方言の語末音節の o と荒尾の o 148 säpo (sapo)

4.5.2 次末音節

(58) にあるように現代パラン方言のoに対応する表記として荒尾はauを用いている。これは二重母音を表すと考えられる。このことから、荒尾の調査時代には次末音節二重母音 aw が存在していたが、現代パラン方言ではoに変わったことがわかる。

(58) 現代パラン方言の次末音節の o と 荒尾の au²⁹³

15 rauka (*culokah*), 29 mausa (*mosa*), 103 pausa (*posa*), 151 raudoho (*rodux*), 223 taukan (*tokan*), 308 daudeak (*doriq*)

また、現代パラン方言のoが荒尾の表記ではaで現れる例が (59) に挙げたように2語見られた。 なぜこのような表記を用いたかはわからない。

現代パラン方言の次末音節 o と荒尾の a261 parabau (purobo), 404 kabuo (kobu)

現代パラン方言の次末音節 o は二重母音 aw に遡るため、aw が期待される。そのため、aw であっ

 $^{^{23}}$ 項目 29 と項目 103 は歴史的に見て,それぞれ $^{ma-usa}$ ($^{star-go)}$ と $^{pa-usa}$ ($^{caus-go)}$ に遡る。そのため 語根 usa の第一音節に強勢があったはずであるがその後,直前の母音 a と一体化し,二重母音 aw となった と考えられる。

たがものが a と表記されたと考えられる。項目 404 の場合,トゥルク方言の同源語では kawbu (Pecoraro 1977: 108)「魚を採る容器」であり,次末音節が二重母音 aw として現れている。項目 261 については,トゥルク方言の同源語は karubaw である。次末音節は u である。これは恐らく,トゥルク方言の形式のように,早期のパラン方言でも次末音節母音は u であったが,語末音節の o に同化したのではないだろうか。

このほか、現代パラン方言のoが荒尾の表記では \bar{o} で現れる例が(60)に挙げたように1語見られた。

現代パラン方言の次末音節 o 荒尾の ō276 ōlishi (golic)

この語についてのトゥルク方言おける同源語は qawlit であり、次末音節は二重母音 aw である 204 。このことから、パラン方言の形式における次末音節も二重母音 aw に遡るはずである。実際に(50)では荒尾の表記に二重母音が用いられている。しかしこの例に限り、荒尾の表記にがo であることから、この荒尾の調査時にすでにo変わっていたことが予測される。しかも荒尾の表記では語頭子音 q が落ちている。

4.6 現代パラン方言における uy

現代パラン方言の語末音節における二重母音 uy は、荒尾の表記では(61)に挙げたように ui に対応する。

(61) 現代パラン方言の語末音節のwと荒尾のwi

27 masekui (*musekuy*), 38 tutsui (*tutuy*, 72 kaläbuy (*kulabuy*), 142 rubuy (*lubuy*), 216 bukuy (*bukuy*), 254 tamakui (*tumaquy*), 267 bäbui (*babuy*), 357 bakkui (*kubekuy*)

4.7 現代パラン方言の母音と荒尾の表記の対応のまとめ

ここまで次末音節並びに語末音節において、現代パラン方言に対応する荒尾の表記を検討してきた。 それらのまとめを表2に示す。[] 内の数字は当該表記の頻度を表す。

表 2 荒尾の母音表記と現代パラン方言の対応のまとめ

現代次末	荒尾	現代語末	荒尾
a	a [73], ä [38], oa [1], ai [1]	а	a [90], ä [1], ā [1]

 $^{^{294}}$ 正確に言えば、Rakaw 他(編)(2006)における表記は qowlit である。この字典に見られる、次末音節 ow は歴史的に aw に遡るものであることを確認している。そのためここでは qawlit という表記を提示している。

i	i [28], ē [21], ā [2], e [2]	i	i [48], e [3], ā [2], ue [i], ie [1],
			a [2], u [1], ai [1]
и	u [40], u [34], o [13], ō [2], i [2],	и	u [51], o [9], 無表記 [5], ō [1],
	ū [1], au [1]		$\mbox{\em u}$ [1], $\mbox{\em u}$ [2], au [1], an [1], uo
			[1]
e	e [32], ā [11], a [8], o [1] /ai [7],	e	ai [9], ae [1]
	ae [2]		
0	a [2], ō [1] /au [6]	0	o [1] /au [14]
		uy	ui [8]

現代パラン方言の次末音節のeとoに対する荒尾の表記は二種類に大別される。この二種類を表中ではスラッシュによって分別している。前者は単母音系列(eとoに相当)であり、後者は二重母音系列(ayとawに相当)である。現代パラン方言の語末音節のoにも二種類見られたが、単母音系列は一例のみであった。

現代パラン方言の次末音節のoに相当する荒尾の単母音系列の表記はaと \bar{o} があるものの,例は極めて少ない。しかもaを用いたものは荒尾の聞き損じまたは書き損じが疑われる。そのため,荒尾の調査時代において次末にoは見られず(一例の \bar{o} を除くが),awが見られると言える。

現代ペラン方言の次末音節のeに相当する荒尾の表記は単母音系列 (eに相当)と二重母音系列 (ayに相当)のどちらも見られる。単母音系列について歴史的な観点から言えば、曖昧母音に遡るものである (Ochiai 2018)。単母音系列として荒尾の表記ではeとaを多く用いているが、これらの音価については [e] を表すものなのか、それとも歴史的により古い音価の [a] 表すものなのかはよくわからない。

一方、現代パラン方言の語末のeとoでは、一例の例外を除き、荒尾の表記は二重母音系列のみ用いている。これらから、荒尾の調査時代には次末音節・語末音節ともに二重母音 ayとaw が見られたが、これらは現代パラン方言において次末音節・語末音節ともにそれぞれeとoに変わったことがわかる。

次に、荒尾の語彙に見られた発音区別符号について考える。発音区別符号の付いた文字は6種見られた(\ddot{a} , \ddot{a} , \ddot{c} , \ddot{o} , \dot{u} , \ddot{u})。これら発音区別符号を用いた文字は少数の例外を除き、次末音節に現れる。そのため符号文字の使用は次末音節に強勢があることに関わると考えられる。次末音節は他の音節に比べ明瞭に、音声的に強くまたは時間的に長く、発声されることが、音の多様な現れとしてとらえられ、母音の表記を多様にしたのではないか。ただ(62)にあるように語末音節にも少数ながら符号文字が使われていた。

(62) 語末音節に見られる荒尾の符号文字

287 innä (ina), 105 danⁿgā (dayi), 138 shūpā (supih), 475 kenⁿgān (kiyan), 100 tarrō (telu), 115 kulu (kulu), 125 yayū (yayu), 139 kaū (kayu)

4.8 荒尾の表記に見られる前次末音節母音について

現代パラン方言において、強勢が置かれる次末音節より前の音節における母音は弱化しuとして現れる。また、前次末音節が母音から始まる場合、この母音が脱落するという音韻規則がある。そのため、前次末音節の母音が本来は何であったかを知るのは難しいことが多い。しかし、荒尾の表記には前次末音節が未だ脱落していない形式、未だ弱化を受けていない形式を示していると思われるものが見受けられる。ここでは、前次末音節の歴史的母音について考察する。

4.8.1 母音から始まる場合:音韻規則の未適用

楊 (1976) は、1970 年代のパラン方言について音韻規則を考察した論文だが、それらの規則の一つに、前次末音節が母音から始まる語に関するものがある。このような音素配列はパラン方言では許容されないため、前次末音節の母音が削除されるという規則である。例えば、語根 iriq 「体で圧迫する」という語に対し、接尾辞 -i (2 節参照)を附加すると uriq-i となることが期待されるが、前次末音節が母音から始まるために、実際はこの母音が削除されて riq-i となる。しかし、荒尾の調査時期には、(63)にあるようにこの規則が適用されていなかったことを示す例が見られた。

(63) 前次末音節が母音始まりの語における荒尾の前次末母音の保存 1 orōbue (*lebi*, **ulebi), 202 arian (*divan*, **adiyan) ²⁹⁵

項目1であるが、現代パラン方言においてこの語根は eluk「閉める、閉まる」(接尾辞が付加する際は語末kがbに変化する)である。接尾辞 $\cdot i$ が付加した実際の形式は $leb\cdot i$ となる。しかし期待される形式は $uleb\cdot i$ である。荒尾の形式はこの期待される形式に近く、I の前に何等かの母音があったことを示している。項目 202 であるが、この形式は ali 「日、一日、日中、時間」という語根に接尾辞 $\cdot an$ を附加して作られている。荒尾の表記 arian では、語根がそのまま ari [ali] として残されており、この語の立ちとしての $ali\cdot an$ が明らかである。現代パラン方言では語頭子音が削除され lian となることが予想される。しかし時折 I と I と I と I を I を I を I を I を I を I を I を I を I を I ではなく I を I を I を I を I ではなく I を I を I で I を I で I を I を I で I を I を I で I で I を I で I で I を I で I で I を I で I を I で I を I で I を I で I を I を I で I を I で I を I で I を I を I で I を

4.8.2 子音から始まる場合: 歴史的な音素の保存

セデック語パラン方言において典型的な語根は二音節から成るため、前次末音節に当たる要素は前 置詞であることが多い。まず前置詞における荒尾の母音表記について見ていく。

オーストロネシア祖語には静態動詞を表す接頭辞に*ma- (Blust 2013: 376) が再建されている。この接頭辞は現代パラン方言では母音弱化を被るため mu-として現れる。荒尾の表記では ma として現れるため、この接頭辞は母音弱化を受けていないことがわかる。これらの例を (64) に示す。

²⁹⁵ 二重のアステリスクを付けた形式は、これらが実際には得られない形式であることを示す。

(64)荒尾の表記における静態接頭辞 ma-

67 mangēhui (mu-ηihun), 5 matsairin (cehedin²⁹⁶), 27 masekuy (mu-sekuy), 28 machēroho (mutilux), 31 marengu (mu-denu), 32 mafuriyak (mu-huriq), 39 mataqe (mu-taqi), 45 maseyan (mu-seyan), 49 mafulisi (mu-hulis), 60 matakui (mu-takun), 65 maitsu (mi-icu²⁹⁷), 107 maowashi (mu-uyas), 172 mafukin (mu-huqin), 176 maurai (mu-ure), 178 mateni (mu-teni), 317 mangaga (mu-nanah), 386 mashia (busiyaq²⁹⁸), 406 magaeda (mu-geela), 544 matena $(m < un > -tena^{299})$, 546 makera (mu-kela), 546 mausa (mosa)

また数詞に付く接頭辞にも同一音のものがあり、現代パラン方言では母音弱化を被り mu-になって いるが、 荒尾の表記では ma で現れる (65)。

(65)荒尾の表記における数詞に付く接頭辞 ma-

343 matel (*mu-mu-teru*), 344 mapit (*mu-pitu/m-pitu*), 345 maseppa (*mu-mu-sepac*), 346 magari (mu-nari), 349 maposan (m-pusa-n), 350 mateln (mu-teru-n), 351 masipad (mu-supat-un), 352 **ma**rinma (*mu-rima-n*), 354 **ma**hadan (*ku-muxal-an*)

さらに現代パラン方言では、他動詞(動作主態において接中辞<um>を取るもの)が未来を表す場 合、語根に対し接頭辞のmu-が付くが、この接頭辞に相当すると考えられるものが、(66) にあるよう に荒尾の表記ではma で現れる。

(66)荒尾の表記における他動詞接頭辞の ma-

67 **ma**tara (*mu-tara*), 73 **ma**lawa (*mu-lawa*)

このほか、現代パラン方言にはu-という非意志性を表す接頭辞があるが (落合 2016)、(67) にある ようにこの接頭辞は荒尾の表記ではtaで示される。

(67)荒尾の表記における非意志接頭辞の ta-

17 taeya (te-heya), 37 tareon (tu-leuŋ), 111 tairiak (te-heyag)

現代パラン方言には相互を表す接頭辞にpu-があるが、(68) にあるように荒尾の表記ではpaで現れ る。

²⁶ 現代パラン方言では接頭辞が付かない形式が用いられる。

 $^{^{20}}$ 接中辞の母音は弱化を受けたuが期待されるが、ここでは語根の語頭母音であると同時に強勢を受ける 母音であるiへ同化する。

²⁸ 現代パラン方言では接頭辞を取らない。

²⁹ 現代パラン方言では接中辞~un>が挿入された形式となる。この接中辞の本来の機能は過去を表すことで あるが、この語根と過去時制との関連は明確でない。

(68) 荒尾の表記における非意志接頭辞の pa-47 pareⁿgau (*pureno*)

現代パラン方言には使役を表す接頭辞 pu-があるが、(69) にあるように荒尾の表記では pa で現れる。

(69) 荒尾の表記における使役接頭辞の pa-103 pausa (posa), 108 papurin (pu-hulin)

現代ペラン方言には動詞を派生する接頭辞su-があるが、(70) にあるように荒尾の表記ではsi で現れる。

現代パラン方言には疑問詞「いつ」について過去を表す接頭辞 su-があるが、(71) にあるように荒尾の表記では si で現れる。

現代パラン方言には衣服等の着用を表す接頭辞として kun-があるが (例 kun-bunuh 「帽子をかぶる」), これと同音の接頭辞が (72) にあるように荒尾の表記に一例見られた (ただし衣服着用の意味でない)。

- (73) に挙げたように、語根の語頭子音を重複することで作られた形式において、重複された音節 の母音を a で記す語が見られた 301 。この語の語根はsibus「サトウキビ」であり派生語は「サトウキビ

300 現代パラン方言では sukunwan というのが一般的であり、これは荒尾の形式に対して ku という要素が語中に加わっているが、中原集落において 80 歳を超えた高齢者の発話を耳にしたところ、荒尾の挙げた形式 に一致する sumuwan という形式を用いていた。

³⁰¹ 現代ペラン方言には食物を表す名詞に付いてその食物のにおいや味がすることを意味する重複接頭辞 suCu-がある。重複子音は語頭子音を用いる(例 sutu-timu 「塩っぽい」)。(65)もこの派生の一種と考えられそうだが接頭辞はsu-に当たり,一音節しかない。語根がsu-から始まるため,本来なら接頭辞はsu-となるはずである。恐らく二音節ある接頭辞の一つが重音脱落によってなくなっている。

のような味がする、甘い」を意味する。

244 sasēbus (su-sibus)

現代パラン方言には動作主態を表す接中辞<um>がある。この接中辞が付く多くの語根は二音節であり、その場合接中辞の母音は前次末音節に当たる。以下(74)のように荒尾の表記においてこの接中辞の子音は、i または u で現れた。同一語根にこの揺れが見られる例もある(項目 90 と項目 445)。この揺れば、母音が曖昧母音であったことを示唆する。曖昧母音の表記に窮し、i や u で代用したのではないだろうか。

(74) 荒尾の表記における動作主態接中辞 <m>

55 chiⁿbābu (*c*<*um*>*ebu*), 90 kimita (*q*<*um*>*ita*), 445 kumita (*q*<*um*>*ita*), 106 kimeki (*k*<*um*>*eeki*), 156 kumuchi (*q*<*um*>*uti*), 362 chimitsuk (*c*<*um*>*ucuq*)

次に語根が三音節以上から成る語について、荒尾の前次末音節母音を考察する。荒尾の表記では前次末音節の母音がaで記されるもの (75), i で記されるもの (76), u またはo で記されるもの (77) が見られる。

(75) 荒尾の表記における前次末母音 a

39 minäroho (*munarux*), 99 panimukan (*pulumukan*), 117 simada (*hulumadac*), 305 sinunoho

(77) 荒尾の表記における前次末母音 u

144 poⁿgara (*punjerah*) ³⁰³, 294 soazi (*suwai*), 365 bunebun (*bulebun*), 371 pudahau (*pudahun*), 381 mukarau (*mukaro*), 384 toⁿgorau (*tunjuro*), 394 bugurah (*bugurah*)

ここまで荒尾の表記において前次末音節の母音が保存されていると考えられる語例を挙げてきた。 しかしながら、以下 (78) のように荒尾の表記には、語根に一音節から成る接尾辞が付いた形式において、前次末音節の母音が弱化していると考えられる例が見られる。

(78) 荒尾の表記における接尾辞付加後の前次末母音の弱化76 brigun (burig-un), 80 sepōhan (supuh-an)

これらの語根は barig「買う」と sapuh「医術を施す」である。これらにおいて次末音節にあたる母音の a が、 荒尾の形式では接尾辞付加後に脱落するか e に変化している。この表記は、 荒尾の調査時代においてすでに、 接尾辞付加後には次末音節より前の母音が弱化していたことを示すと考えられる。

5. 子音

子音は語頭、語中、語末に分けて現代パラン方言の音素と荒尾の表記の対応関係を考察する。5.19 節でまとめを述べる。

5.1 現代パラン方言の y

現代パラン方言のyは、荒尾の表記では語頭ではyまたはzに対応するが、語中ではy、d、z、r、w など様々な表記が見られる。また、現代では母音連続に挿入される渡り音yが荒尾では表記されないことがある。荒尾の表記における語頭のy とzをそれぞれ(79)と(80)に挙げる。

(79) 現代パラン方言の語頭のyと荒尾のy125 yayū (yayu), 166 yayun (yayun)

(80) 現代パラン方言の語頭のyと荒尾のz 186 putinzakaizak (putin yuqeyaq)

上の(71)における荒尾の表記yと(72)における荒尾の表記zは、それぞれ別々の音素を表して

 $^{^{102}}$ 小川 (1939:14) によるとこの形式は疑問詞 mu に接頭辞 kaと接尾辞 -am が付いたものである。そのため前次末音節の母音は荒尾が表記した i よりも曖昧母音の可能性が高い。

 $^{^{38}}$ この形式に関して,荒尾の表記では前次末音節の母音が $^{\circ}$ のもの(項目 144)と $^{\circ}$ a のもの(項目 183)が見られた。

いる。前者は音素 y を表す。一方後者については、早期パラン方言には音素 δ があったことが Asai (1953:3) に記されており、荒尾の表記 z はこの音素を表すものだと考えられる。Ochiai (2018:140–141) は、この音素が 1900 年におけるパラン方言の語彙 (鳥居 1900) では d, z, r, j などの表記を用いて示されていること,この音素が現代パラン方言ではy に変わったことを述べている。

現代パラン方言の語中yが荒尾の表記でもyで現れる例を(81)に挙げる。これは音素yを表したものである。

(81) 現代パラン方言の語中の y と荒尾の y 6 iya (*iya*), 45 maseyan (*museyaŋ*), 125 yayū (*yayu*), 166 yayun (*yayuŋ*), 167 daya (*daya*), 168 mabuyan (*bubuyu*), 402 iyu (*iyu*), 414 kakaya (*quqeya*), 487 taiyak (*teheyaq*)

次に、現代パラン方言のに語中におけるyが荒尾の表記においてd, z, r と表記される例をそれぞれ (82)、(83)、(84) に挙げる。これら荒尾の表記は、早期パラン方言における音素 δ を反映するものである。

- (82) 現代パラン方言の語中の y と荒尾の d 48 kēda (kiya), 164 eda (eyah), sēdan (siyaŋ), 240 pädai (paye), 519 säda (saya)
- (83) 現代ペラン方言の語中の y と荒尾の z 3 kumuzoho (qumuyux), 186 putinzakaizak (putinyuqeyaq), 279 bauzak (boyak), 410 gäzan (ŋayan)
- 現代パラン方言の語中のy と荒尾のr 110 tairiak (teheyaq), 474 pira (piya)

以下 (85) に挙げたように荒尾がrで表記した項目 110 は、同一の語においてyで表記されている例も見られた。荒尾の調査時代の音素 δ がyに変化しつつあったことが垣間見える。

(85) 現代パラン方言の語中の y と荒尾の r または y 487 taiyak, 110 tairiak³⁰⁴ (*teheyaq*)

歴史的な音素 ð は荒尾の表記においては前述のように z, d, r で記されているが, (86) にあるよう に無表記の例も見られる。括弧内には Asai (1935) などを参照に再建した早期パラン方言の形式も*を 付けて加えた。

(86) 歴史的 ð と荒尾の無表記

328 raboashi (*nbuyas* <*rabuðas), 441 pia (*piya* <*piða), 294 soazi (*suwai* <*suwaði), 315 hazi (*hei* <*həði)

上の項目 294 と項目 315 に共通しているのは δ の後続の母音がiである点で、現代パラン方言では δ の反映形であるv は母音i の前で消失する。

次に (87) のように一例だけだが現代パラン方言のyが荒尾の表記でwになる例があった。この語について、小川・浅井 (1935: 43) のパラン方言の当該語彙においても uwes 「歌」と表記され (荒尾の表記における語頭の ma は接頭辞)、w が認められることから、荒尾の調査時代ではw であった音素が現代では突発的にyに変化したと考えられる。

(87) 現代ペラン方言の語中のyと荒尾のw 107 maowashi (*munyas*)

現代パラン方言では前舌母音iまたはeに後舌母音が連続する場合、渡り音としてyが挿入される規則がある(楊 1976:625)。この渡り音は、(88)にあるように荒尾の表記においては見られなかった。

(88) 現代パラン方言の語中の渡り音y と荒尾の無表記 162 arian (*diyan*), 195 kanchia (*kunciya*), 168 niau (*niyo*)

また (89) のように、現代パラン方言に見られる語中の ν が荒尾の表記では見られない例もあった。

(89) 現代パラン方言の語中yと荒尾の無表記139 kaū (kayu)

現代パラン方言のこの語においてyが現れている環境は渡り音の挿入条件に当てはまらないことから、この語におけるyは渡り音として挿入されたものではない。そのため音素であると考えられるのだが、なぜ荒尾の表記ではyが見られないかはわからない。

5.1 現代パラン方言の w

現代ペラン方言のwは荒尾の表記でもwに相当する。荒尾の表記においてwは語頭と語中に見られる。語頭にwが見られる例を(90)に、語中に見られる例を(91)に挙げる。

- (90) 現代ペラン方言の語頭のwと荒尾のw 86 wada (wada), 188 waru (walu), 291 waewa (weewa)
- (91) 現代パラン方言の語中のwと荒尾のw

2 lowahai (ruwahi), 73 marawa (mulawa), 218 kanawa (qunawan), 210 tawak (tahawak), 291 waewa (weewa), 364 pangawan (pulunawan), 366 wairoho (quwarux), 492 lawa (lawa)

現代パラン方言ではua という母音連続の間に、渡り音のwが挿入される音韻規則がある(楊 1976: 625)。現代では音声的に挿入されるこの渡り音が、以下 (92) のように荒尾の表記には反映されていない。

(92) 現代パラン方言の渡り音wと荒尾の無表記 294 soazi (suwai), 333 koak (quwaq)

5.3 現代パラン方言の p

現代パラン方言における語頭のpは、以下 (93) にあるように荒尾の表記でもpで現れる。

93) 現代ペラン方言の語頭の p と荒尾の p
7 paru (paru), 41 paanae (paane), 47 parengau (pureno), 54 pattashi (patis), 74 pakkun (paqun),
77 pira (pila), panimukan (pulumukan), 103 pausa (posa), 104 puton (putun), 108 papurin
(puhulin), 124 puniak (pumiq), 130 puru (puru), 143 pukan (puqan), 144 pongara (pungerah),
154 pädai (paye), 180 pukun (puqun), 186 puttin (putin), 216 para (pala), 250 päpak (papak),
259 padaushi (pudaus), 261 parabau (purobo), 319 pika (pika), 322 pipi (pipi), 364 pangawan
(pulungawan), 371 pudahau (pudahun), 390 paai (pai), 438 pakusun (pulukusun), 441 pia (piya),
461 paheppa (pehepah), 542 pagesa (putugesa)

現代パラン方言における語中のpは、以下 (94) にあるように荒尾の表記でもpで現れる。

(94) 現代パラン方言の語中の p と荒尾の p 36 papurai (*Inupure*), 42 mapa (*mapa*), 74 lipak (*sipaq*), 80 säpoa (*sapuh*), 85 tsäpan (*capaŋ*), 138 shūpā (*supih*), 147 rupi (*rupi*), 148 säpo (*sapo*), 149 säpa (*sapah*), 250 päpak (*papak*), 257 süpuhu (*pucupux*), 263 pätui (*qupatun*), 310 rupun (*rupun*), 322 pipi (*pipi*), 359 gäpok (*gepuk*), 388 sapishi (*sapic*), 429 kaneepa (*kuneepah*)

また、現代パラン方言における語中のpは、以下 (95) にあるように荒尾は二重表記pp もを用いている。なお、セデック語において子音の長短は弁別的な音素ではない。ここでは次末子音に強勢の置かれることの音声的な表れとして子音が音声的に長く聞こえたため、このような表記を用いたのだろう。

(95) 現代パラン方言の語中のp と荒尾のpp

153 lappa (dapa), 341 seppa (sepac), 461 paheppa (pehepah)

5.4 現代パラン方言の b

現代パラン方言における語頭のbは、以下 (96) にあるように荒尾の表記でもbで現れる。

(96) 現代パラン方言の語頭の b と 荒尾の b

33 baebu (*beebu*), 63 bärai (*bale*), 76 brigun (*burigun*), 81 bekki (*biqi*), 112 bäga (*bagah*), 126 baruku (*butuku*), 128 batsunuh (*butumux*), 168 babuyan (*bubuyu*), 179 basukan (*busukan*), 187 barābare (*bulebun*), 193 bärun (*baluy*), 200 bāgaha (*begax*), 216 bukui (*bukuy*), 222 bunnaha (*bunuh*), 227 bairoha (*beluh*), 231 buna (*buna*), 237 batakan (*butakan*), 267 bäbui (*babuy*), 279 bauzak (*boyak*), 296 bubu (*bubu*), 327 bäga (*baga*), 330 bērasi (*birac*), 360 baetak (*betaq*), 370 bakki (*baki*), 389 baānuh (*bureenux*), 394 buguraha (*bugurah*), 403 barukui (*buluqun*)

この他、現代パラン方言における語頭のbが、荒尾の表記ではmで表記される例を(97)に挙げる。

(97) 現代パラン方言の語頭の b と荒尾の m 33 maebu (*beebu*), 168 mabuyan (*bubuyu*), 189 maⁿgāfui (*bugihun*), 221 maliku (*buriku*), 316 maⁿgēroho (*bukiluh*), 386 mashia (*busiyaq*)

以下 (98) にあるように現代パラン方言の語頭bが、荒尾の表記では語頭で \mathbf{m} と \mathbf{b} で揺れる項目も 2 例見られた。

(98) 現代パラン方言の語頭の b と荒尾の m または b 33 **b**aebu, 33 **m**aebu (*beebu*) 168 **b**abuyan, 168 **m**abuyan (*bubuyu*)

次に(99)に挙げたように現代パラン方言の語中におけるbは荒尾の表記でもbで現れる。

99) 現代パラン方言の語中の b と荒尾の b
1 orōbue (lebi), 14 habālau (hubaro), 33 baebu (beebu), 62 babāriak (mberiq), 71 chebu (cebu),
72 kalābui (kulabuy), 75 bahan (qubahaŋ), 78 habāgan (hubaŋan), 97 kabu (kahabu), 113
habu (habik), 114 tubu (tubu), 123 bāri (bubali), 140 rībau (ribo), 142 rubui (lubuy), 152
bābui (babuy), 161 barebu (murebu), 168 babuyan (bubuyu), 187 barābare (bulebun), 190
bahānni (qubuheni), 230 tsubura (tubula), 236 tarabushi (turabus), 244 sasēbush (susibus),
261 parabau (purobo), 274 bubu (bubu), 301 raboashi (nbuyas), 363 tēbu (tibu), 374 rakaibu (rukebux), 474 rābi (rabi)

また(100)のように現代パラン方言の語中におけるbが荒尾の表記ではfで現れる語が一例見られた。ただし、セデック語にはM、f/といった音素はない。この荒尾の表記は音素としてD/D/を表したものに相違ない。

(100) 現代パラン方言の語中 b と荒尾の f 111 kafurisi (*qubulic*)

上記 (97), (98) では語頭において現代パラン方言のbに対し荒尾がmを用いる例が見られたが, (101) にあるように語中においても同様の例が見られた。

(101) 現代ペラン方言の語中の b と荒尾の m 116 maraⁿgan (sunburaŋan)

(97)、(98)、(101) のように荒尾がbに対してmと表記しがちなのは、もしかしたら調査協力者の李阿輝氏の母語であったと考えられる閩南語が影響している可能性もある。Chappell (2018) によると、閩南語において音素としてbに立てられないが、[b]はm/の異音として現れるとあるa05。つまり、mとbは相補分布の関係にある。このことが、荒尾の調査協力者のセデック語の発音に影響を与え、mとbとを混同する傾向があるのではないだろうか。ここではbであるはずの分節音が荒尾ではmで表記する例を挙げたが、逆にmであるはずの分節音が荒尾ではa05.16 節)。

5.5 現代パラン方言の t

現代パラン方言における語頭のtは、以下(102)にあるように荒尾の表記でもtで現れる。

(102) 現代パラン方言の語頭の t と荒尾の t

17 taeya (teheya), 27 tanna (tanah), 37 tareon (tuleur), 38 tutsui (tutuy), 39 take (taqi), 100 tarrō (telu), 110 tairiak (teheyaq), 114 tubu (tubu), 122 tarashi (turasi), 137 tumun (tumun), 141 tamako (tumaku), 219 tawak (tahawak), 223 taukan (tokan), 236 tarabush (turabus), 251 tama (tama), 254 tamakui (tumaquy), 299 tamuk (tuhumuku), 340 tel (teru), 363 tēbu (tibu), 384 to²gorau (tumuro), 400 tulahai (tulahi)

現代パラン方言における語中のtは、以下(103)にあるように荒尾の表記でもtで現れる。

 $^{^{305}}$ 具体的に言うと、オンセットが m であり、ライムが鼻母音である場合、このオンセットは [b] に変わる。

(103) 現代パラン方言の語中の t と荒尾の t 67 matara (*mutara*), 39 matake (*mutaqi*), 59 atak (*atak*), 60 matakui (*mutakun*), 69 rita (*nita*), 90 kimita (*qumita*), 104 puton (*putuq*), 175 matēroho (*mutilux*), 178 matergi (*mutenj*i), 237

batakan (*butakan*), 262 pätui (*qupatun*), 304 kumutak (*mutaq*), 344 mapit (*mupitu*), 350 mateln (*muterun*), 360 baetak (*betaq*), 399 katina (*mukutina*)

一語だけ現代パラン方言における語中のt が、(104) のように荒尾の表記において d で現れることがあったが、これは無声音を有声音と聞き誤ったと考えられる。

(104) 現代パラン方言の語中の t と荒尾の d 378 hakauduf (hako utux)

このほか現代パラン方言における語中のtは、以下(105)にあるように荒尾の表記において二重表記tを用いる例も見られた。

(105) 現代パラン方言の語中の t と荒尾の tt 186 puttinzakaizak (putin yuqeyaq), 395 kutti (quti)

さらに現代パラン方言における語中のtは、以下(106)にあるように荒尾の表記においてtsを用いる例も見られた。なぜ荒尾がtsを用いたかはわからない。

(106) 現代パラン方言の語頭・語中 t と荒尾の ts 230 tsubula (tubula), 38 tutsui (tutuy), 128 batsunuh (butunux)

さらに語頭・語中とも後続母音 i の口蓋化により荒尾が ch と表記する語も(107)のように見られた。

(107) 現代ペラン方言の語頭・語中の t と荒尾の ch 21 chēkoaha (tikuh), 196 chimo (timu), 28 machēroho (mutilux), 156 kumuchi (qumuti)

一方で(108)のように後続母音がiであっても口蓋化せずに、tまたはttで表記される例もある。

(108) 現代ペラン方言の語頭・語中の t と荒尾の t または tt 363 tibu (tibu), 399 katina (mukutina), 186 puttinzakaizak (putin yuqeyaq), 395 kutti (quti)

荒尾の調査時代、母音 i の前の t が口蓋化するかしないかは揺れていたのかもしれない。 実際荒尾の

例にも(109)のように口蓋化した形式としない形式の対が見られる。項目 156 と項目 395 の対については、語根が同一である。現代パラン方言では母音 i の前の t は口蓋化しない。

(109) 現代パラン方言の語中の t と荒尾の ch または t (および tt) 28 machēroho, 542 matēroho (mutilux) 156 kumuchi (q<um>uti), 395 kutti (quti)

5.6 現代パラン方言の c

現代パラン方言における語頭のc [s] は、以下 (110) にあるように荒尾の表記ではts で現れる。

(110) 現代パラン方言の語中 c と荒尾の ts 67 tsurin (culin), 85 tsäpan (capan), 158 tsäman (caman), 213 tsuki (cuqi), 256 tsumiyaka

(cumiq), 264 tsuruh (qucurux), 321 tsuri (curi), 375 tsakushi (cakus), 401 tsōhan (cuxan)

現代パラン方言における語中のcも、以下(111)にあるように荒尾の表記ではtsで現れる。

(111) 現代パラン方言の語中の c と荒尾の ts 16 matsairin (cehedin), 65 maitsu (miicu), 228 gētsan (gican), 362 chimitsuk (cumucuq)

現代パラン方言の c [t] は,前舌母音 i または e の前で口蓋化し [tc] となる。この口蓋化は荒尾 の調査期にも見られたらしいことは,荒尾がこれらを書き分けていることからわかる。口蓋化しない 場合は ts を口蓋化した場合は ts を用いている。以下(t12)に語頭・語中ともに母音 t の前で口蓋化 したと考えられる表記 ts を用いる例を挙げる。

(112) 現代パラン方言の語頭・語中の c と荒尾の ch 19 **ch**ērun (*guciluŋ*), 58 **ch**ebu (*cebu*), 160 **ch**ēga (*ciga*), 362 **ch**imitsuk (*cumucuq*) ³⁰⁶, 195 kanchia (*kunciya*), 232 **uch**iek (*ucik*)

現代パラン方言において、c は語末にも見られる。現代パラン方言の語末 c にあたる分節音に対し用いられる荒尾の表記は二種類見られる。ひとつは(113)に挙げたように \sin または \sin もうひとつは(114)に挙げたように無表記である。

(113) 現代パラン方言の語末の c と荒尾の si または shi 111 kafurisi (qubulic), 281 dakaidisi (rukelic), 330 bērasi (birac), 270 mēdishi (miric), 276 ōlishi

36 この語は荒尾の表記では母音 i の前で口蓋化しているが、現代パラン方言では当該母音が u であるため口蓋化しない。

(golic), 388 sapishi (sapic)

(114) 現代パラン方言の語末 c と荒尾の無表記

117 simada (sulumadac), 166 funna (hunac), 198 räma (damac), 341 seppa (sepac)

(113) と (114) における荒尾の表記の違いが何によるものかはわからない 307 。ただ,現代ペラン方言の語末 c は に遡るものだという点はわかっている。現代ペラン方言の語末 c は,表 3 に示したようにトゥルク方言において t に対応する。ペラン方言でも早期には t であった語末が後に c に変わった。これは現代ペラン方言において後部に接尾辞が付く場合に語末 c が t に変わるという共時的音韻変化(例 damac 「おかず」,dumat- 「おかずとして食べろ」)にも見て取れる。

表 3 現代パラン方言の語末 c とそれに対応するトゥルク方言の t

荒尾の表記	パラン方言 (現代)	トゥルク方言
kafurisi	qubulic	qəbulit
dakaidisi	rukelic	rəkəlit
bērasi	birac	birat
mēdishi	miric	mirit
ōlishi	qolic	qowlit
sapishi	sapic	
simada	suhımadac/hulumadac	
funna	hunac	hunat
räma	damac	damat
seppa	sepac	səpat

5.7 現代パラン方言の d

現代パラン方言における語頭のdは、以下(115)にあるように荒尾の表記でもdで現れる。

(115) 現代パラン方言の語頭のdと荒尾のd

18 därin (daliy), 20 dakahāyan (deheran), 105 danⁿgā (dayi), 167 däya (daya), 192 daroho (darux), 308 daudeak (doriq), 339 daha (daha), 368 dakairashi (duqeras), 472 dama (damac)

現代パラン方言における語中のdは、以下(116)にあるように荒尾の表記でもdで現れる。

³⁰⁷ この表記の差はそれぞれの音素の異なりを表しているのかもしれない。(105) における語末子音は /ks/、(106) における語末子音は/kを表しているとも考えられる。さらに前者は*d に遡る可能性が高いのだがこの点については今後の課題とする。

(116) 現代パラン方言の語中の d と荒尾の d

43 ädasi (desi), 86 wada (wada), 117 simada (sulumadac), 151 raudoho (rodux), 173 ēdasi (idas), 199 ēdau (ido), 239 sudu (sudu), 259 padaushi (pudaus), 290 daudan (rudan), 298 mädan (hulumadan), 366 kaduruk (kuduruk), 369 ngudus (ngudus), 371 pudahau (pudahun), 377 fuda (huda)

このほか、現代ペラン方言における語頭のdが、以下(117)にあるように荒尾の表記においてrで現れる例も見られた。

(117) 現代ペラン方言の語頭の d と荒尾の r 40 rērin (didin), 18 rārin (dalin), 135 rufun (duhun), 198 rāma (damac)

同じく、現代ペラン方言における語中のdが、以下(118)にあるように荒尾の表記においてrで現れる例も見られた。

(118) 現代パラン方言の語中の d と荒尾の r 40 rērin (didin) ,31 marengu (mudeņu) ,109 sikari (sukadī) ,162 arian (diyan) ,284 makairin (muqedīn) ,288 siārek (seedīq)

また、現代パラン方言における語頭のdは、以下(119)にあるように荒尾の表記で1を用いることがある。

(119) 現代ペラン方言の語頭の d と荒尾1153 lappa (dapa)

同様に、現代ペラン方言における語中のdが、以下(120)にあるように荒尾の表記で1を用いることがある。

(120) 現代パラン方言の語中の d と荒尾の1434 siāliek (seediq)

さらに、(121) のように荒尾がdとrまたはrと1の両方で表記する語も見受けられた。

(121) 現代パラン方言の語頭・語中の d と荒尾の d または r または 118 därin, 18 rärin (dalin)

472 **d**äma, 198 **r**äma³⁰⁸ (*damac*) 288 siārek, 434 siāliek (*seediq*)

このように現代パラン方言の d は荒尾の表記では多くが d で表されているが、ところどころ r または 1 でも現れる。このように d が r で現れるのには、調査協力者のアタヤル語の知識が影響を及ぼしている可能性がある。例えば L i (1981:253) におけるセデック語とアタヤル語の同源語の対応、セデック語 pada、アタヤル語 para 「キョン」などに見られるようにセデック語の d に対応するアタヤル語の分節音が r である。セデック語で d を持つ単語について、アタヤル語の音韻的規則に影響されて、d をr にした形式を伝えたのではないだろうか。

現代パラン方言ではdである分節音が荒尾ではIと表記される例は、荒尾と同時期に出版された鳥居龍蔵によるパラン方言の語彙表(鳥居 1900)でも見られる (Ochiai 2018: 135)。そのため、d が I に音声的に近似していたとも考えられ、荒尾にとってはd が I のように聞こえた可能性もある。実際現代パラン方言でもd とI とで揺れる語が稀に見られる。例えば dedax と ledax ledax と leda

ただこのd とr, さらにd とl の混同については、調査協力者の母語である閩南語の影響という可能性も残されている。Chappell (2018) によると、閩南語において音素d/はない。その代わりl があり(ただし、n/の異音として現れる),これはは音声的にd に近似すると述べている 309 。このことが,荒尾の調査協力者の発音に影響を与え、d とl とを混同する傾向があるのではないだろうか。さらに言えば,荒尾自身の日本人母語話者としての特徴としてl とr を混同する傾向が見られる(5.14 節,5.15 節)。そのためd とr とl に対する荒尾の表記は入り乱れる。本節で見たようにd がr で書かれる,またはd がl で書かれることがある。また,5.14 節で挙げるようにr がd で書かれる 310 ,またはr がl で書かれることがある。

5.8 現代パラン方言の k

現代パラン方言における語頭のkは、以下(122)にあるように荒尾の表記でもkで現れる。

(122) 現代パラン方言の語頭の k と 荒尾の k

47 käle (*kari*), 48 kēda (*kiya*), 50 kera (*kela*), 53 kufun (*kacun*), 60 kana (*kana*), 72 kaläbui (*kalabuy*), 82 kaneepa (*kaneepah*), 97 kabu (*kahabu*), 106 kimeki (*kameeki*), 115 kulu (*kalu*), 139 kaū (*kayu*), 163 kaaman (*keeman*), 195 kamchia (*kanciya*), 255 kuhin (*kuhiŋ*), 260 kui

308 アタヤル語の形式は ra-ramats である (小川 1931:57)。

 $^{^{309}}$ さらに、Chappell(2018)の脱鼻音化の音韻変化の説明では、 1 /が破裂音 1 4の代替のように扱われている。オンセットの鼻音 1 m、 1 9、 1 9は鼻母音が続く場合に 1 9、 1 9、 1 9、 1 9、 1 9、このことからも 1 1と 1 8、 1 9、

³¹⁰ 現代パラン方言のrが荒尾でdと表記される語はふたつ見られたが、これは調査協力者の閩南語の影響 (lとdの混同) と言うよりも、セデック語のrがたたき音であり、音声的にdに近いため、そのような表記になったと考える。

(kui), 358 karai (kere), 399 katina (mukutina), 404 kabuo (kobu), 475 kenⁿgān (kiŋan), 484 kinoan (kunuwan)

現代パラン方言における語中のkは、以下 (123) にあるように荒尾の表記でもkで現れる。

(123) 現代パラン方言の語中の k と荒尾の k

13 sakenoho (sukenux), 15 rauka (culokah), 21 chēkoaha (tikuh), 27 masekui (musekuy), 44 pakusun (pulukusun), 50 makera (mukela), 60 matakui (mutakun), 70 mākan (mekan), 99 panimukan (pulumukan), 109 sikari (sukari), 121 umuki (gumuki), 141 tamako (tumaku), 159 makaha (mukaxa), 179 basukan (busukan), 216 bukui (bukuy), 221 maliku (buriku), 223 taukan (tokan), 238 batakan (butakan), 281 dakaidisi (rulekic), 299 tamuk (tuhumuku), 372 makeyan (bukeyan), 374 rakaibu (rukebux), 375 tsakushi (cakus), 378 hakauduf (hako utux), 419 luksi (lukus)

また、現代ペラン方言における語中のkは、以下(124)にあるように荒尾では二重表記kkを用いることもある。

(124) 現代パラン方言の語中の k と 荒尾の kk

87 okka (uka), 357 bakkui (bekuy), 370 bakki (baki), 454 ekkan (ekan), 470 yakko (yaku)

ひとつだけ、現代ペラン方言の語中における k が、(125) にあるように荒尾の表記で ${}^{n}g$ (g に相当する) として現れた、なぜこのような表記を用いたかはわからない。

(125) 現代ペラン方言の語中の k と荒尾の g316 mangeroho (bukiluh)

以下(126)にあるように、現代パラン方言の語末 kは、荒尾の表記においてもkで現れる。

(126) 現代パラン方言の語末の k と荒尾の k 59 atak (atak), 217 lēmuk (limuk), 219 tawak (tahawak), 232 ucihek (ucik), 250 päpak (papak³¹¹), 279 bauzak (boyak), 359 gäpok (gepuk), 366 kaduruk (kuduruk)

また、(127) にあるように現代パラン方言の語末kが荒尾の表記では抜け落ちる例も見られる。

現代パラン方言の語末 k と荒尾の無表記113 habu (habik), 210 ush (usuk)

76

³¹¹ 現代パラン方言ではpapaq とも言う。

5.9 現代パラン方言の g

現代パラン方言における語頭のgは、以下(128)にあるように荒尾の表記でもgで現れる。

(128) 現代パラン方言の語頭のg と荒尾のg 88 gäga (gaga), 174 goagi (gagi), 228 gētsan (gican), 359 gāpok (gepuk)

現代パラン方言における語中のgは、以下(129)にあるように荒尾の表記でもgで現れる。

(129) 現代パラン方言の語中のgと荒尾のg 67 agoa (aguh), 22 egu (egu), 76 brigun (burigun), 88 gäga (gaga), 112 bäga (bagah), 160 chēga (ciga), 174 goagi (gagi), 327 bäga (baga), 391 bāgaha (begax), 394 buguraha (bugurah), 460 magaeda (mugeela)

ほかに (130) のように現代パラン方言の語中gを荒尾がuで表記する語が一例見られた。これは半母音のwを示していると考えられる。この語について言えば、現代パラン方言においても、sunagiのほかにsunawiと発音する場合もある。後者の方が古い発音だった可能性がある。

(130) 現代パラン方言の語中のgと荒尾のu83 sinaui (sunagi)

また(131)のように、現代ペラン方言の語中gを荒尾がgと表記する例も見られた。これは誤って鼻音を加えてしまったと考えられる。

(131) 現代パラン方言の語中の g と荒尾の "g 189 ma"gāfui (*bugihun*)

さらに(132)のように現代ペラン方言のgが荒尾の表記に現れない例が語頭・語中にそれぞれひとつずつ得られた。

(132) 現代パラン方言の語頭・語中の g と荒尾の無表記 121 umuki (*gumuki*), 103 rineui (*negun*)

これらgが現れない例は後続の母音がともにuである。このような条件下でgが脱落しやすかったとも考えられるが,脱落していない例も(121)中の項目22,項目76,項目394に見受けられる。 一方で、項目121においてgが現れないのは、アタヤル語の影響の可能性も考えられる。アタヤル 語においてこの語は $\emph{am-umuk}$ 「蓋をする」と記録されている(小川 1931: 329)。セデック語(現代パラン方言)の同源語は $\emph{g}<\emph{um}>\emph{emuk}$ と言う。この語根はアタヤル語 \emph{umuk} に対しセデック語 \emph{gemuk} である。項目 121 は語根 \emph{umuk} の後に接尾辞の $\emph{-i}$ (命令形)が付いた形式であり,アタヤル語により近いと言える。項目 103 の荒尾の形式 \emph{rineui} において現代パラン方言の \emph{negun} 「紐」に対応するのは後部の \emph{neui} の部分である。因みにトゥルク方言では \emph{negul} と言い,このふたつから再建される祖形は $\emph{*negul}$ となる。荒尾の表記において \emph{g} が抜ける理由は見いだせない。ただ,現代パラン方言において,語根 \emph{negum} をもとに派生された動詞に $\emph{ul-um}$ 「縛られる」(対象態)があり,この派生形では \emph{g} が現れない点が,荒尾の表記に類似している。

5.10 現代パラン方言の q

現代パラン方言における語頭のqは、以下(133)にあるように荒尾の表記ではkで現れる。荒尾の表記にqは無い。その代わりにkを用いる。そのため音素/q/とk/は荒尾の表記では区別されず、ともにkで示される。

(133) 現代パラン方言の語頭の q と荒尾の k

3 kumuzoho (qumuyux), 12 käkau (qaro), 90 kimita (qumita), 111 kafurisi (qubulic), 129 kumi (qumi), 156 kumuchi (qumuti), 218 kanawa (qunawan), 242 kairun (qeluŋ), 278 kannoho (ruqenux), 333 koak (quwaq), 380 kare gun (qurenun), 395 kutti (quti), 414 kakaya (quqeya)

また、(134)にあるように現代パラン方言における語中の q が荒尾の表記に現れない例も見られた。

(134) 現代パラン方言の語頭の q と荒尾の無表記 276 ōlishi (*golic*)

現代パラン方言における語中のqは、以下(135)にあるように荒尾の表記ではkで現れる。

(135) 現代パラン方言の語中の q と荒尾の k

39 take (*taqi*), 180 pukun (*puqun*), 186 putinzakaizak (*putinyuqeyaq*), 213 tsuki (*cuqi*), 254 tamakui (*tumaquy*), 284 makairin (*muqedin*), 302 mahukishi (*muhuqin*), 360 pukan (*puqan*), 368 dakairashi (*duqeras*), 403 barukui (*buluqun*), 414 kakaya (*quqeya*), 428 nākan (*niqan*)

また、現代ペラン方言における語中の q は、以下(136)にあるように荒尾の表記では二重表記 kkでも現れる。

(136) 現代パラン方言の語中の q と荒尾の kk 8 nakka (nagah), 74 pakkun (pagun), 81 bekki (biqi), 397 nukkaha (nuqah) 次に(137)のように現代パラン方言の語末qは、直前の母音が後舌母音aまたはuである場合、荒尾の表記ではkで表記される。

(137) 現代パラン方言の語末の q と荒尾の k (後舌母音 a, u の直後) 74 lipak (sipaq), 110 tairiak (teheyaq), 186 puttinzakaizak (putinyuqeyaq), 252 koak (quwaq), 279 bauzak (boyaq), 304 kumutak (mutaq), 360 baetak (betaq), 362 chimitsuk (cumucuq), 453 nänak (nanaq)

また、(138) のように現代パラン方言の語末が、荒尾の表記には見られない例もあった。

現代パラン方言の語末の q と荒尾の無表記(後舌母音 a の直後)386 mashia (busiyaq)

語末子音 q の直前の母音が i である場合,この語末の iq に対し,荒尾は ick (139),ck (140),iak (141),iyak (142),cak (143) など様々な表記を用いる。現代パラン方言においてこの音連続は渡り音が挿入され $[i^*q]$ または $[i^*q]$ のように発音される。荒尾の表記はこの渡り音も表示していると言える。また(144)の iyaka というように語末子音のあとでさらに支え母音の a を添えた表記も見られた。

- (139) 現代パラン方言の語末のiq と荒尾のiek 434 siāliek (seediq)
- (140) 現代パラン方言の語末のiq と荒尾のek 288 siārek (seediq)
- (141) 現代パラン方言の語末の iq と荒尾の iak 62 babāriak (mberiq), 124 puniak (puniq)
- (142) 現代パラン方言の語末の iq と荒尾の iya^k 32 mafuriya^k (muhuriq)
- (143) 現代パラン方言の語末の iq と荒尾の eak 308 daudeak (dorig)
- (144) 現代パラン方言の語末の iq と荒尾の iyaka

256 tsum**iyaka** (*cumiq*)

5.11 現代パラン方言の s

現代パラン方言における語頭のsは、以下(145)にあるように荒尾の表記でもsで現れる。

(145) 現代パラン方言の語頭の s と荒尾の s

13 sakenoho (sukenux), 35 simaro (sumalu), 80 säpoa (sapuh), 80 sepõhan (supuhan), 83 sinaui (sunagi), 109 sikari (sukadi), 117 simada (suhumadac), 136 särau (salo), 148 säpo (sapo), 149 säpa (sapah), 157 säda (saya), 165 sēpau (sipo), 197 sēdan (siyaŋ), 229 säma (sama), 239 sudu (sudu), 244 sasēbush (susibus), 280 sumai (sume), 285 sānau (seno), 288 siārek (seediq), 294 soazi (suwai), 305 sinunoho (sumunux), 341 seppa (sepac), 388 sapishi (sapic), 417 sēnau (seno), 473 säli (sari)

このほか、現代パラン方言における語頭のsが、以下(146)にあるように荒尾の表記においてchで現れる例がひとつ見られた。これは、セデック語パラン方言に隣接する言語であるアタヤル語万大方言の影響が疑われる。アタヤル語万大方言における同源語はcuma ris(Li 1981: 292)であり、初頭子音がc [ts] である。

(146) 現代ペラン方言の語頭の s と荒尾の ch430 chimaisi (sumais)

現代パラン方言における語中のsは、以下(147)にあるように荒尾の表記でもsで現れる。

(147) 現代パラン方言の語中のsと荒尾のs

27 masekui (*musekuy*), 29 mausa (*mosa*), 44 pakusun (*pulukusun*), 45 maseyan (*museyay*), 103 pausa (*posa*), 179 basukan (*busukan*), 244 sasēbush (*susibus*), 283 masolai (*qubusuran*), 292 lēsau (*riso*), 345 maseppa (*mumusepac*), 349 maposan (*mupusan*), 351 masipad (*musupatun*), 435 kasia (*qusiya*), 542 pagesa (*putugesa*)

また、現代パラン方言における語中のs は、(148)にあるように荒尾の表記ではsh でも現れる。これはshの口蓋化を表した表記かと思われるが、セデック語においてshが口蓋化するかしないかは弁別的ではない。

(148) 現代パラン方言の語中の s と荒尾の sh 91 ish (isu), 210 ush (usuk), 298 ash (asu), 386 mashia (busiyaq) さらに、現代ペラン方言における語中のs が、以下(149)にあるように荒尾の表記において二重表記 ss で現れる例がひとつ見られた。

(149) 現代パラン方言の語中の s と荒尾の ss 29 ussa (usa)

現代パラン方言の語末 s にあたる表記として、荒尾は (150) と (151) にあるのように si または shi を用いる。

- (150) 現代パラン方言の語末の s と荒尾の si 43 ädasi (adis), 173 ēdasi (idas), 177 raboasi (nbuyas), 430 chimaisi (sumais), 438 luksi (lukus), 457 mafulisi (muhulis)
- (151) 現代パラン方言の語末の s と荒尾の shi 54 pattashi (patis), 107 maowashi (muuyas), 259 padaushi (pudaus), 301 raboashi (nbuyas), 368 dakairashi (duqeras), 375 tsakushi (cakus), 506 mafulishi (muhulis)

このほか、(152)、(153)、(154) にそれぞれ見られるのように現代パラン方言の語末 s に対する荒尾の表記として ssi、sh、s も見られた。

- (152) 現代パラン方言の語末 s と荒尾の ssi 49 mafulissi (muhulis)
- (153) 現代パラン方言の語末 s と荒尾の sh 236 tarabush (turabus), 224 sasēbush (susibus)
- (154) 現代ペラン方言の語末s と荒尾のs 369 ngudus (yudus)

語末のs について、荒尾の表記では(150)、(151)、(152)に見られるように、語末子音の後に頻繁にi を付すのが特徴である。このことから語末のs が口蓋化を伴っていたことが推察される。

また、現代パラン方言の *mulnulis* 「笑う」という語の語末子音に対し、荒尾は si (項目 457)、shi (項目 506)、ssi (項目 49) という多様な表記を用いている。

5.12 現代パラン方言の x

現代パラン方言のxを表す文字として、荒尾はhまたfが使われており、fの場合は母音uの前に現

れる。現代パラン方言においてxが語頭に現れることはない312。

現代ペラン方言における語中のxは、以下(155)と(156)にあるように荒尾の表記ではそれぞれ h または f で現れる。

- (155) 現代パラン方言の語中のxと荒尾のh 159 makaha (*mukaxa*), 347 mahal (*maxan*), 354 mahadan (*kumuxalan*), 401 tsōhan (*cuxan*), 450 ohai (*uxe*)
- (156) 現代パラン方言の語中のxと荒尾のf53 kufim (knrum)

現代パラン方言の語中のxが荒尾の表記ではkahに相当する例も (157) に挙げたように二例見つかった。これはxと同じ軟口蓋の調音位置をkで表し、xと同じ摩擦音という調音法をhで表しているように見受けられる。荒尾の表記ではこれら子音の間に,母音aが入りこんでいるが,なぜこの母音が入るかは分からない。

(157) 現代パラン方言の語中のxと荒尾のkah 20 dakahāyan (deheran), 407 nākahan (nexan)

上の項目 20 における現代パラン方言の形式では、語中の子音がxではなくhで現れている。セデック語トゥルク方言の同源語はdawagalであり、語中の子音はxである。そのため、早期パラン方言においても語中の子音はxであったと推測される。荒尾の調査時代の後、パラン方言においてこの語のxがhに変わったのだろう。

現代ペラン方言の語末におけるxは直前の母音がuの場合,語末のuxに対し荒尾はoho (158), uh (159), uf (160), of (161) など様々な表記を用いる。

- (158) 現代パラン方言の語末の ux と荒尾の oho 3 kumuz**oho** (qumuyux), 13 saken**oho** (sukemux), 28 machēr**oho** (mutihux), 30 minär**oho** (munarux), 192 dar**oho** (darux), 193 raud**oho** (rodux), 278 kann**oho** (ruqemux), 305 sinun**oho** (sumumux), 396 wair**oho** (quwarux)
- (159) 現代パラン方言の語末の ux と荒尾の uh 101 tsyn**uh** (tuncx), 127 batsyn**uh** (butunux), 264 tsyr**uh** (qucurux), 389 baān**uh** (bureenux)
- (160) 現代パラン方言の語末のux と荒尾のuf

82

³¹² ただし「鉄」に限り xiluv と言う。

378 hakaud**uf** (hako utux), 459 tsur**uf** (qucurux)

(161) 現代パラン方言の語末のux と荒尾の of404 tsurof (qucurux)

現代パラン方言の語末のxの直前の母音がaの例は一例だけ見られ,axを荒尾は (162) のように aha と記している。

現代パラン方言の語末の ax と荒尾の aha391 bāgaha (begax)

また現代パラン方言の語末のux において、(163) にあるように荒尾の表記では語末の子音が抜けている例も見られた。

(163) 現代パラン方言の語末のux と荒尾の無表記 374 rakaibu (rukebux)

なお、(164) に挙げたように現代パラン方言のqucurux「魚」という語の語末uxに対し、荒尾はuh、uf、of という多様な表記を用いていた。

(164) 現代パラン方言の語末の ux と荒尾の uh または uf または of264 tsuruh, 459 tsuruf, 404 tsurof (qucurux)

5.13 現代パラン方言の h

現代パラン方言における語頭のhは、以下(165)にあるように荒尾の表記でもhで現れる。

(165) 現代パラン方言の語頭の h と荒尾の h 67 häle (hari), 14 habälau (hubaro), 58 harun (haluŋ), 78 habägan (hubaŋan), 92 hinni (hini), 113 habu (habik), 315 hazi (hei), 367 hae³ma (hema), 378 hakauduf (hako utux)

現代パラン方言における語中のhは、以下(166)にあるように荒尾の表記でもhで現れる。

(166) 現代パラン方言の語中の h と荒尾の h 2 lowahai (ruwahe), 20 dakahāyan (deheran), 29 maha (maha), 75 bahan (qubahaŋ), 80 sepōhan (supuhan), 83 maho (mahu), 190 bahānni (qubuheni), 255 kuhin (kuhiŋ), 302 mahukishi (muhuqin), 336 muhin (muhiŋ), 339 daha (daha), 371 pudahau (pudahun), 400 tarahai (tulahi),

461 paheppa (puhepah)

ただし (167) にあるように、現代パラン方言における語頭hがuの前にある場合は、荒尾の表記ではfを用いている。

(167) 現代パラン方言の語頭の h と荒尾の f 166 funna (hunac), 269 furin (hulin), 377 fuda (huda), 241 funni (quhuni)

同じく、(168) にあるように、現代パラン方言における語中hがuの前にある場合は、荒尾の表記ではfを用いている。

(168) 現代パラン方言の語中の h と荒尾の f 10 maⁿgēfui *(muṇihun*), 32 mafuriya^k *(muhuriq*), 49 mafulissi *(muhulis*), 135 rufun *(duhuŋ*), 172 mafukin *(mufuqin*), 189 maⁿgāfui *(bugihun*)

また、現代パラン方言でのmuhuqin「死ぬ」における語中hに対し、その直後の母音がuであるため、(169) にあるように、fを用いる例が見られるのだが、hを用いる例も見られた。それらの使い分けがはっきりしているわけではないことを示している。

(169) 現代パラン方言の語中の h と荒尾の f または h 392 mahukishi, 172 mafukin (*muhuqin*)

以下 (170) のように語中において、現代パラン方言の語中 h が荒尾では無表記になっている例も見られた。

(170) 現代パラン方言の語中の h と荒尾の無表記 16 matsairin (*cehedin*), 17 taeya (*teheya*), 97 kabu (*kahabu*), 487 taiyak (*teheyaq*), 219 tawak (*tahawak*), 299 tamuk (*tuhumuku*)

これらについては、荒尾の調査時代に、これらの単語にはhが入っておらず、その後hが挿入されるようになったのか、それとも本来あったhが荒尾の表記では書かれなかったのかは今のところ不明である。

次に、現代ペラン方言の語末子音 h の直前の母音が a の場合、この語末の ah に対し、荒尾は a (171) または a ba (172) で記す。

(171) 現代パラン方言における語末のah と荒尾のa

8 nakka (naqah), 15 rauka (culokah), 101 tana (tanah), 112 bäga (bagah), 144 poⁿgara (puŋerah), 149 säpa (sapah), 204 mima (mimah), 317 maⁿgära (muŋaŋah), 41 kaneepa (kuneepah), 461 paheppa (puhepah), 471 eda (eyah)

(172) 現代パラン方言における語末の ah と荒尾の aha 394 buguraha (bugurah), 397 kukkaha (nuqah)

現代パラン方言の語末子音 h の直前の母音が u の場合, この語末 uh に対し、荒尾は oho (173), oha (174), aha (175), oa (176) など様々な表記を用いている。語末子音 h の前の母音として荒尾は o を多く用いているが、これは音声的な現れに即している。現代パラン方言において、語末の h の前の母音 u は、発音位置が引き下げられ、音声的に o に近くなる。これの音変化が荒尾の時代にも見られたことを示している。

- (173) 現代パラン方言における語末のuh と荒尾のoho 316 maºgēroho (bukiluh), 324 nunoho (nunuh)
- (174) 現代ペラン方言における語末の uh と荒尾の oaha 21 chēkoaha (tikuh), 227 bairoaha (beluh)
- (175) 現代パラン方言における語末の uh と荒尾の aha222 bunnaha (humuh)
- (176) 現代パラン方言における語末の uh と荒尾の oa67 agoa (aguh), 80 säpoa (sapuh)

さらに、(177)にあるように現代パラン方言の語末子音 h の直前の母音が i の例がひとつ見られたが、この例では現代パラン方言の語末の h が荒尾の表記では見られない。また、荒尾は直前の母音を \bar{a} で記している(この母音表記は現代パラン方言の e に相当する)。これは音声的現れに即している。 現代パラン方言において、語末の h の前の母音 i は、発音位置が引き下げられ、音声的に e に近くなる。これの音変化が荒尾の時代にも見られたことを示している。

(177) 現代パラン方言における語末のih と荒尾のā138 shūpā (supih)

5.14 現代パラン方言の r

現代パラン方言における語頭のrは、以下(178)にあるように荒尾の表記でもrで現れる。

(178) 現代パラン方言における語頭の r と荒尾の r 140 ribau (*ribo*), 147 rupi (*rupi*), 151 raudoho (*rodux*), 225 ruⁿgai (*ruŋe*), 310 rupun (*rupun*), 342 rinma (*rima*), 374 rakaibu (*rukebux*), 474 räbi (*rabi*)

現代パラン方言における語中のrは、以下(179)にあるように荒尾の表記でもrで現れる。

(179) 現代ペラン方言における語頭rと荒尾のr
67 matara (mutara), 7 paru (paru), 30 minäroho (munarux), 32 mafuriyak (muhuriq), 36 papurai (hupure), 47 parengau (pureno), 52 habärau (hubaro), 61 urun (urun), 62 babāriak (mberiq), 76 brigun (burigun), 116 marangan (sunburanan), 122 tarashi (turasi), 130 puru (puru), 144 pongara (punerah), 161 barebu (murebu), 176 maurai (muure), 192 daroho (darux), 236 tarabush (turabus), 261 parabau (purobo), 64 tsuruh (qucurux), 330 bērasi (birac), 346 magari (munari), 352 marinma (muriman), 358 karai (kere), 366 kaduruk (kuduruk), 368 dakairashi (duqeras),

380 kareⁿgun (*qureŋun*), 381 mukarau (*mukaro*), 384 toⁿgorau (*tuŋuro*), 394 buguraha (*bugurah*), 396 wairoho (*quwarux*), 448 kärau (*qaro*), 489 masoran (*qubusuran*), 515 sari (*sari*), 527 kare (*kari*)

また、現代パラン方言における語中のrは、以下(180)にあるように荒尾では1でも現れる。

(180) 現代パラン方言における語頭のrと荒尾の1
 2 Iowahai (ruwahe), 277 Iunai (ruye), 292 Iēsau (riso), 468 Iinma (rima), 475 Iäbi (rabi)
 同様に、現代パラン方言における語中のrは、以下(173)にあるように荒尾では1でも現れる。

(181) 現代ペラン方言における語中の r と荒尾の l 67 häle (hari), 12 kälau (qaro), 14 habälau (hubaro), 47 käle (kari), 221 maliku (buriku), 295 masolan (qubusuran), 340 tel (teru), 350 mateln (muterun), 473 säli (sari)

現代パラン方言のrに対して荒尾がrと1を混同している例が以下(182)である。このことから, 荒尾の表記におけるrと1にはっきりした区別があるのではなく,日本人母語話者の特徴としてrと1を聞き分けるのが困難であったことを示している。

(182) 現代パラン方言における語頭・語中の r と荒尾の r または1 342 rinma, 468 linma (*rima*) 225 ruⁿgai, 227 lunai (*rune*) 474 räbi, 475 läbi (rabi)

52 häba**r**au, 14 habä**l**au (*hubaro*)

448 kärau, 12 kälau (garo)

489 masoran, 295 masolan (qubusuran)

515 sari, säli (sari)

527 kare, käle (kari)

このほか (183) と (184) に挙げたように少数ではあるが、現代パラン方言の語頭・語中における rに対し、荒尾が d を用いる例もある。これは、現代パラン方言における r の音価がたたき音 [r] であることから、音声的に類似している [d] と混同されることがあったためと考えられる。

- (183) 現代パラン方言における語頭のrと荒尾のd 281 dakaidisi (rukelic), 290 daudan (rudan)
- (184) 現代パラン方言における語中のrと荒尾のd 168 mēdishi (miric), 318 daudeak (dorig)

また (185) の一例のみ語中において y を用いる例があった。これに関しては、語中に y を持つアタヤル語の同源語 *rhial* [rshiyal] (Egerod 1980: 155) の影響を受けた可能性が考えられる。

(185) 現代パラン方言における語中のrと荒尾のy 20 dakahāyan (deheran)

5.15 現代パラン方言の1

現代パラン方言における語頭の1は、以下(186)にあるように荒尾の表記でも1で現れる。

(186) 現代パラン方言における語頭の1と荒尾の1 217 lēmuk (*limuk*), 272 lakki (*laqi*), 419 luksi (*lukus*), 492 lawa (*lawa*)

現代パラン方言における語中の1は、以下(187)にあるように荒尾の表記でも1で現れる。

(187) 現代パラン方言における語中の1と荒尾の1 49 mafulissi (*muhulis*), 72 kaläbui (*kulabuy*), 115 kulu (*kulu*), 276 ōlishi (*qolic*), 337 bailin (*belin*), 434 fulin (*hulin*), 436 maⁿgōlisi (*linis*)

また、現代パラン方言における語頭の1は、以下(188)にあるように荒尾ではrでも現れる。

(188) 現代パラン方言における語中の1と荒尾のr 15 rauka (culokah), 181 sinaruksi (sino lukus), 245 rehi (lexi), 316 maⁿgēroho (*bukiluh*), 365 rubui (lubuy)

同様に、現代パラン方言における語中の1は、以下(189)にあるように荒尾ではrでも現れる。

(189) 現代パラン方言における語中の l と荒尾の r 1 orōbue (lebi), 9 maro (malu), 18 därin (daliŋ), 19 chērun (guciluŋ), 28 machēroho (mutilux), 35 simaro (sumalu), 37 tareon (tuleuŋ), 50 kera (kela), 63 bärai (bale), 67 tsurin (culiŋ), 73 marawa (mulawa), 77 pira (pila), 98 aran (alaŋ), 108 papurin (puhuliŋ), 111 kafurisi (qubulic), 133 kuru (kulu), 123 bäri (bubali), 136 särau (salo), 187 barābare (bulebun), 188 waru (walu), 193 bärun (baluŋ), 216 para (pala), 230 tsubura (tubula), 242 kairun (qeluŋ), 269 figrin (huliŋ), 400 taharai (tulahi), 403 barukui (buluqun), 433 ōrisi (qolic), 501 mangērisi (liŋis)

さらに,現代パラン方言における語中のIは,以下(190)にあるように荒尾では二重表記 π でも現れる。

(190) 現代パラン方言における語中の1と荒尾のrr100 tarrō (telu), 170 erru (elu)

5.14 節において現代パラン方言のrに対して荒尾がrと1 を混同していたように、現代パラン方言のIに対して荒尾がと1をr混同している例が以下(191)である。このことから、荒尾の表記1とrにはっきりした区別があるのではなく、日本人母語話者の特徴としてIとrを聞き分けるのが困難であったことを示している。

(191) 現代パラン方言における語頭・語中の1と荒尾の1またはr115 kulu, 133 kuru (kulu)276 ōlishi, 473 ōrisi (qolic)

419 luksi, 181 ruksi (lukus)

434 fulin, 269 furin (hulin)

436 mangēlisi, 501 mangērisi (liņis)

また、現代パラン方言の語頭・語中の1に対し、荒尾がdを用いる例(192)と(193)も見られた。 調査協力者の母語である閩南語の音韻が影響を与えた可能性がある(5.7節参照)。

- (192) 現代パラン方言における語頭の l と荒尾の d15 dauka (culokah)
- (193) 現代ペラン方言における語中の1と荒尾のd 281 dakaidisi (ruleic), 354 mahadan (kumuxalan), 406 magaeda (mugeela)

さらに (194) に挙げたように、現代パラン方言の語頭Iに対して、荒尾がrとdの両方を用いる語が見られた。

- (194) 現代パラン方言における語頭の1と荒尾のrまたはd 15 rauka, dauka (*culokah*)
- (192), (193), (194) のように、現代パラン方言のIの表記として荒尾ではdが見られる点については、現代パラン方言においてもdとIが自由交替する語(例 $dedax \sim ledax$ 「光」)が少数だが見受けられることに類似している。しかし、調査協力者の母語である閩南語の音韻が影響を与えた可能性もある (5.7 節参照)。

このほか (195) にあるように、現代パラン方言の語中Iに対し、荒尾がnを用いる語が二例みられた。その理由はよくわからないが、調査協力者の母語である閩南語が影響を与えた可能性もある。 Chappell (2018) によると、閩南語において音素としてのI/はないが、音素n/の異音として現れるのがIである。そのため、調査協力者がIとn を混同し、ここではIであるべき分節音をnと発音したのかもしれない。

(195) 現代パラン方言における語中の l と荒尾の n 99 panimukan (pulumukan), 365 bunebun (bulebun)

5.16 現代パラン方言の m

(196)

現代パラン方言における語頭のmは、以下 (196) にあるように荒尾の表記でもmで現れる。

現代ペラン方言における語頭の m と荒尾の m 67 matara (mutara), 9 maro (mahu), 10 maºgēhui (muŋihun), 27 masekui (musekay), 28 machēroho (mutilux), 29 mausa (mosa), 29 maha (maha), 30 minäroho (munarux), 31 mareºgu (mudeŋu), 32 mafuriyaʰ (muhuriq), 39 matake (mutaqi), 42 mapa (mapa), 45 maseyan (museyan), 49 mafulissi (muhulis), 60 matakui (mutakun), 65 maitsu (miicu), 70 mākan (mekan), 73 marawa (mulawa), 83 maho (mahu), 95 maanu (maamu), 107 maowashi (muayas), 145 magāriak (mugeriq), 159 makaha (mukaxa), 172 mafukin (muhuqin), 176 maurai (mume), 178 mateʰgi (muteŋi), 204 mima (mimah), 234 mudu (mudu), 270 mēdishi (miric), 284 makairin

(muqedin), 317 maⁿgäga (muqaqah), 336 muhin (muhin), 343 matel (mumuteru), 344 mapit (mupitu), 345 maseppa (mumusepac), 350 mateln (muterun), 351 masipad (musupatun), 352 marinma (muriman), 354 mahadan (kumuxalan), 406 magaeda (mugeela), 544 matena (muntena)

ただし、現代ペラン方言の語頭mに対して、(197) のように荒尾がbを用いる例も見られた。これも、5.4節で見たように調査協力者の母語であったと考えられる閩南語の影響かもしれない。

(197) 現代パラン方言における語頭の m と荒尾の b 62 babāriak (*muberiq*) ³¹³, 161 barebu (*murebu*)

現代パラン方言における語中のmは、以下(198)にあるように荒尾の表記でもmで現れる。

(198) 現代パラン方言における語中のmと荒尾のm

3 kumuzoho (qumuyux), 35 simaro (sumalu), 90 kimita (qumita), 94 ima (ima), 99 panimukan (pulumukan), 106 kimeki (kumeeki), 117 simada (sulumadac), 121 umuki (qumuki), 129 kumi (qumi), 137 tumun (tumun), 141 tamako (tumaku), 156 kumuchi (qumuti), 158 tsäman (caman), 198 räma (damac), 203 kaaman (keeman), 204 mima (mimah), 229 säma (sama), 251 tama (tama), 254 tamakui (tumaquy), 256 tsumiyaka (cumiq), 280 sumai (sume), 286 ama (ama), 299 tamuk (tuhumuka), 304 kumutak (mutaq), 362 chimitsuk (cumucuq), 410 yamu (yamu), 430 chimaisi (sumais)

また (199) のように、現代パラン方言の語中mにおいて、荒尾が二重表記の様相を示すnmやnmという表記を用いることもあった。

(199) 現代パラン方言における語中の m と荒尾の nm ならびに m342 rinma (rima), 367 hae ma (hema)

さらに (200) にあるように、現代パラン方言の語中mにおいて、荒尾がbを用いる例も一語見られた。荒尾がmの代わりにbを用いる点で、上の (197) と類似の現象である。

(200) 現代パラン方言における語中 m と荒尾の rb55 chi rbābu (cumebu)

現代パラン方言において語末にmが現れることはない。荒尾の表記でも語末にmが現れることは

90

³¹³ または、この形式の語頭のbは語根 berig の初頭子音を重複したものかもしれない。

なかった。

5.17 現代パラン方言の n

以下 (201) に挙げたように、現代パラン方言の語頭nは、荒尾の表記においてもnを用いている。

(201) 現代パラン方言における語頭のnと荒尾のn

8 nakka (*naqah*), 324 nunoho (*nunuh*), 397 nukkaha (*nuqah*), 407 nā**kah**an (*nexan*), 428 nākan (*niqan*), 453 nānak (*nanaq*)

このほか、少数だが(202)に挙げたように、現代パラン方言の語頭nが荒尾の表記ではrを用いるものがあった。

(202) 現代パラン方言における語頭のnと荒尾のr69 rita (nita), 177 raboasi (nbuyas)

上の項目 69 に関して Asai(1953: 56)にも同一の語が dita として現れる。5.14 節で見たように r は 荒尾によって d と書かれることがある。この例もそうだろう。項目 177 については,なぜ r を用いたのかよくわからない。

現代ペラン方言における語中のnは、以下 (203) に挙げたように荒尾の表記においてもnを用いている。

(203) 現代パラン方言における語中のnと荒尾のn

13 sakenoho (sukemax), 30 minäroho (munarux), 41 paane (paane), 66 kana (kana), 82 kaneepa (kameepah), 83 sinaui (sunagi), 96 inu (inu), 101 tana (tanah), 103 rineui (negun), 124 puniak (puniq), 127 batsunuh (butunux), 181 sinaruksi (sino lukus), 218 kanawa (qunawan), 285 sānau (seno), 305 sinunoho (sumunux), 324 nunuh (munuh), 334 tsunuh (tunux), 389 baānuh (bureemax), 410 maanu (maanu), 417 sēnau (sino), 453 nānak (nanaq), 484 kinoan (kumuwan), 544 matena (muntena)

現代パラン方言における語中のnは、以下(204)に挙げたように荒尾の表記において二重表記mも散見される。

(204) 現代パラン方言における語中のnと荒尾のnn

26 tanna (tanah), 92 hinni (hini), 166 funna (hunac), 190 bahānni (qubuheni), 222 bunnaha (bunuh), 241 funni (quhuni), 278 kannho (ruqenux), 287 innä (ina), 425 punniak (puniq), 449 inni (ini)

現代パラン方言における語中のnとして、(205) に挙げたように荒尾がnとnの両方で表記された語が見られた。ふたつの表記をはっきり使い分けていたのではなかったことを示している。

(205) 現代パラン方言における語中の n と荒尾の n または m101 tana, 92 tanna (tanah)124 puniak, 425 punniak (puniq)

以下 (206) のように現代パラン方言における語末のnは荒尾の表記でもnで表記される。

206) 現代ペラン方言における語末の n と荒尾の n 16 matsairin (cehedin), 20 dakahāyan (deheran), 40 rērin (didin), 40 ängan (aŋan), 53 kufun (kufun), 70 mākan (mekan), 78 habāgan (hubaŋan), 99 panimukan (pulumukan), 116 marangan (sunburaŋan), 137 tumun (tumun), 143 pukan (puqan), 158 tsäman (caman), 162 arian (diyan), 179 basukan (busukan), 203 kaaman (keeman), 223 taukan (tokan), 237 batakan (butukan), 284 makairin (muqedin), 290 daudan (rudan), 259 masolan (qubusuran), 198 mädan (hulumadan), 310 rupun (rupun), 348 mahan (maxan), 349 maposan (mupusan), 350 mateln (muterun), 354 hamadan (kumuxalan), 364 pangawan (puluŋawan), 365 bunebun (bulebun), 380 karengun (qurenun), 401 tsōhan (cuxan), 407 nākahan (nexan)

(207) のように現代ペラン方言における語末の n は荒尾の表記では d を用いるものも一例だけあった。

(207) 現代パラン方言における語末の n と荒尾の d 351 masipad (*musupatun*) ³¹⁴

歴史的な観点から言うと、現代パラン方言の語末のnでは、本来の語末nと、早期パラン方言の語末lとrが合流している。1927年に収集された Asai(1953)では、語末にlとrとnを有していた。 荒尾の調査は Asai より早い段階に行われたので、語末子音はnとlとrとの区別を有することが期待される。

ところが荒尾の表記において語末子音がnであるもののうち,表4に挙げたようにトゥルク方言においてこの語末子音が1またはrで現れるものがある。これらは早期パラン方言も語末が1またはrであった語であり,荒尾の調査時代にも1またはrで現れることが期待されるのだが,なぜかnで現れ

³¹⁴ この語の語根は*sapat (セデック祖語) であり、Asai (1953: 53) ではこれに接頭辞と接尾辞が付き mosapat-l 「四十」となる。荒尾の表記ではこの語根末のtが抜けている。または語末の子音連続tlがdとして表記されたと考えられる。現代パラン方言の形式 mu-supat-un では接尾辞は-un (古くは-ul) である。

る。

表 4 荒尾の表記における語末nのうち語末lまたはrが予測されるもの

	荒尾	現代パラン方言	トゥルク方言
6	matsairin	chehedin	səhədil ³¹⁵
10	mangēhui	muŋihun	nihur
20	dakahāyan	deheran	dəxəgal
40	rērin	didin	dzidzil
53	kufun	kuxun	kuxul
60	matakui	mutakun	takur
103	rineui	negun	sənəgul
189	mangāfui	bugihun	bəgihur
262	pätui	qupatun	qəpatur
348	mahan	maxan	maxal
349	maposan	mupusan	pusal ³¹⁶
350	mateln	muterun	mətərul
365	bunebun	bulebun	bələbul
380	karengun	qureŋun	qərəŋul
401	tsōxan	cuxan	suxal

実際、(208) に挙げたように現代ペラン方言における語末n に対して、荒尾が1 を用いる語がひと つ見られた。この語に関して、現代ペラン方言のmaxan とトゥルク方言のmaxal 「十」からセデック 祖語*maxal が再建されうる。荒尾の形式では語末の1 が保たれている。

(208) 現代パラン方言における語末のnと荒尾の1347 mahal (*maxan*)

さらに、(209) のように荒尾の項目において、語末にrを持つと考えられる例がひとつ見られた。ただし、荒尾は直後に母音のeを添えている。この語に関して、Ochiai (2018) は、現代ペラン方言の形式 balabul、さらにこの語の重複性という構造上の特徴から、セデック祖語*bulabul が再建されうるとする。つまり、荒尾の表記において語末eの直前の子音(並びに語中)に荒尾が用いたrは、実際はlを表していることになる。この語に関して、荒尾は項目 365 にbunebun という、語末がrで現れる形式も挙げているが、ここでは語中のlまでもがrで書かれている。

³¹⁵ この形式はPecoraro (1977:284) からである。

³¹⁶ この形式はPecoraro (1977:209) からである。

(209) 現代パラン方言における語末のnと荒尾のr 187 barābare (*bulebun*)

さらに、(210)のように現代パラン方言における語末のnは荒尾の表記ではiを用いることもある。 これらの語と表4のトゥルク方言における語末子音を比べ、早期パラン方言の語末子音を類推すると ほとんどの項目 (項目10、項目60、項目189、項目262)においてrであったことがわかる³¹⁷。

(210) 現代パラン方言における語末の n と荒尾の i 10 maⁿgēhui (*muṇihun*), 60 matakui (*matakun*), 103 rineui (*negun*), 189 maⁿgāfui (*bugihun*), 262 pätui (*qupatun*), 403 barukui (*buluqun*)

これらの語末が、なぜ荒尾の表記ではrでもnでもなくiで現れるかについてだが、これはアタヤル語の影響を受けていると考えられる。項目 10、項目 60、項目 189 については、アタヤル語の同源語が見られるがこれらはそれぞれ、manjihny (Ogawa 1931: 185)、matakay (Ogawa 1931: 141)、baihny (Ogawa 1931: 81) という形式である。語末がny という二重母音になっており、後部要素のny は歴史的にはny から変化したものである (Li 1981: 264)。

5.18 現代パラン方言の ŋ

(211) にあるように、現代ペラン方言の語頭 η に対し、荒尾は n g という表記を用いている。荒尾はこの表記で[n]を表したと考えられる。

(211) 現代ペラン方言における語末の y と荒尾の g369 ngudus (mudus)

また、(212) にあるように現代パラン方言の語頭yに対し、荒尾はgという表記も用いている。これは鼻音の聞き逃しかと考えらえる。

(212) 現代パラン方言における語末のyと荒尾のg410 gäzan (yayan)

現代パラン方言における語中のηに対し、以下 (213) にあるように荒尾はng を用いている。

³¹⁷ 項目 403 については、セデック語トゥルク方言の同願語が見つからないため、早期パラン方言の語末子音が1かrか判断できない。また、項目 103 における早期パラン方言の語末子音はrではなくて1である。なぜ語末の1が荒尾にはiに聞こえたのかはわからない。

(213) 現代パラン方言における語中の y と荒尾の ng 10 ma*gēfui (*muṇihum*), 31 mare*ngu (*mudeŋu*), 40 ä*ngan (*aŋan*), 144 po*ngara (*puŋerah*), 178 mate*ngi (*muteṇi*), 225 ru*ngai (*ruŋe*), 317 ma*ngäga (*muṇaṇah*), 364 pa*ngawan (*puluṇawan*)

また、現代パラン方言における語中の η に対し、以下 (214) にあるように荒尾はgも用いている。 (212) にも挙げたような鼻音の聞き逃しと考えらえる。

(214) 現代ペラン方言における語中の y と荒尾の g 78 habāgan (hubaṇan), 317 maºgāga (muṇaṇah), 346 magari (muṇaṇ)

もしくは、(212) と (214) に見られる鼻音の抜けた表記は、調査協力者の李阿輝氏の母語であったと考えられる閩南語が影響している可能性もある。Chappell (2018) によると、閩南語において音素として/g/は立てられないが、[g] は η /の異音として現れるとある³¹⁸。つまり、g と η は相補分布の関係にある。このことが、荒尾の調査協力者のセデック語の発音に影響を与え、 η とg を混同したのではないだろうか。ここでは η であるはずの分節音が荒尾ではg で表記する例を挙げたが、逆にg であるはずの分節音が荒尾では η で表記される一例も見られた(5.9 節)。

さらに、現代ペラン方言における語中の η に対し、以下 (215) にあるように荒尾はnも用いている。これは鼻音を聞き取っているが、調音位置の聞き取りを誤っている。

(215) 現代パラン方言における語中の y と荒尾の n40 ánan (aŋan), 231 buna (buŋa)

(216) に挙げたように、現代パラン方言における語末の η に対し、荒尾は一貫して \mathbf{n} を用いている。調音位置を聞き誤ったと考えられる。

(216) 現代パラン方言における語中の η と荒尾の \mathbf{n}

18 därin (daliŋ), 19 chērun (guciluŋ), 37 tareon (tuleuŋ), 45 maseyan (museyaŋ), 58 harun (haluŋ), 61 urun (uruŋ), 67 tsurin (culiŋ), 75 bahan (qubahaŋ), 85 tsäpan (capaŋ), 98 aran (alaŋ), 104 puton (putuŋ), 108 papurin (puhuliŋ), 135 rufun (duhuŋ), 166 yayun (yayuŋ), 186 puttinzakaizak (putiŋ yuqeyaq), 193 bärun (baluŋ), 197 sēdan (siyaŋ), 228 gētsan (gicaŋ), 242 kairun (qeluŋ), 255 kuhin (kuhiŋ), 268 fyrin (huliŋ), 336 myhin (muhiŋ)

 $^{^{318}}$ 具体的に言うと,オンセットが y であり,ライムが鼻母音である場合,このオンセットは $[\mathrm{g}]$ に変わる。

5.19 現代パラン方言の子音と荒尾の表記の対応

ここまで述べてきたことを表 5 にまとめる。現代パラン方言において,該当する表記が用いられない無い箇所は--で示す。なお q、x、h の語末について,荒尾の表記は直前の母音も含めたものを挙げる。

表 5 現代パラン方言の半母音・子音と荒尾の表記の対応

現代パラン方言	荒尾(語頭)	荒尾 (語中)	荒尾(語末)
(語頭/語中/語末)			
y/y/	y, z	y, z, d, r	(4.4.1 節参照)
w/w/	w	W	(4.5.1 節参照)
p/p/	p	p, pp	
b/b/	b, m	b, m	
t/t/	t, ch, ts	t, tt, ch, ts	
c/c/c	ts, ch	ts, ch	si, shi, 無表記
d/d/	d, l, r	d, l, r	
k/k/k	k	k, kk	k, 無表記
g/g/	g	g, w, 無表記	
q/q/q	k,無表記	k, kk	直前母音がaの場合 ak
			直前の母音が u の場合 uk
			直前の母音が i の場合 iek, ek, iak, eak,
			iaka
s/s/s /x/x	s	s, ss, sh	si, shi, ssi, s
/x/x		h, f	直前の母音が a の場合 aha
			直前の母音が u の場合oho, uhu, uh, uf,
			of, uのみ
h/h/h	h, f	h, f, 無表記	直前の母音が a の場合 aha
			直前の母音が u の場合 oho, oaha, aha, oa
			直前の母音がiの場合ā
r/r/	r, l, d	r, l, d	
1/1/	l, r	l, r, rr, d	
m/m/	m	m, nm, nm	
n/n/n	n, r	n, nn	n, l, r, i

荒尾は二重表記がpp, tt, kk, ss, rr, nn など (nm, ⁿm も二重表記の一種) を用いるのが特徴的である。ただ、セデック語パラン方言において分節音の長短は弁別的ではない。Asai (1953:6-7) に述べ

られるように、強勢位置にある次末音節の母音、またはその直後の子音は音声的に長く発音される傾向がある。荒尾の表記はこのような音声的な現象を表現しようとしたものと思われる³¹⁹。これら場合は子音が二重表記で現れたが³²⁰、母音が二重表記で現れた例もあった。それが項目 390 paai 「祖母」(現代パラン方言 pai [ˈpai])である。

また、荒尾の表記において、現代パラン方言の語末c(早期パラン方言の語末tに遡る)と現代パラン方言の語末kに当たる子音が無表記として現れることがあるが、これは破裂音tとkが語末において無開放であり、その聞き取りが困難だったためと考えられる。

荒尾の表記における語末子音 s の後には支え母音として i が添えられていることもある (現代パラン方言の語末子音 s と c に相当する荒尾の表記において見られた)。また、荒尾は現代パラン方言の語末子音 g, x, h の後にも支え母音を添えていることが多い。これら子音の表記の後に添えられた母音は荒尾が子音の直前に用いている母音と同一であるという特徴を持つ。

6. 語彙的考察

荒尾の語彙集はセデック語パラン方言を収録したものだが、時にセデック語パラン方言の形式ではないものも混入していることがわかった。それらの語のいくつかは、セデック語トゥルク方言(6.1 節)、アタヤル語(6.2 節)、パゼッヘ語(6.3 節)、または閩南語(6.4 節)であることが特定できた。6.5 節節では、現代パラン方言の形式に見られる語頭や語中における分節音が、荒尾の表記では脱落していた例を挙げる。6.6 節では荒尾の語彙集には見られたが、現代パラン方言ではほぼ用いられなくなった代名詞について言及する。

6.7 節以降 (7 節の形態的考察, 8 節の意味的考察, 9 節の統語的考察) では、荒尾の調査協力者について、セデック語の非母語話者としての言語現象が垣間見える点を議論する。6.7 節で取り上げるのは、セデック語における細分化された語彙の習熟度の低さを示すもので、ある物・概念を表すために説明的な表現を用いている。

6.1 セデック語トゥルク方言の混入

表6にセデック語トゥルク方言と特定された荒尾の項目と、荒尾の語釈に対応するセデック語パラン方言の形式を挙げる。

表 6 セデック語トゥルク方言の混入

	荒尾	トゥルク方言	現代パラン方言
220	tēoho「櫛」	teiyux	sulau
233	bannnoan「梅,李」	bənuwar「李」	buruqawe「李」

³¹⁹ これらから音声的に長めに発音される子音には閉鎖音,摩擦音,流音,鼻音などが含まれることもわかっ

³²⁰ 一例だけ例外として語末の二重表記 ssi も見られた。

200	bēgaha「米」 ³²¹	buwax	beras
257	supuhu「油虫」 ³²²	supug	рисирих
300	uttashi「睾丸」	utas「陰茎」 ³²³	begax

6.2 アタヤル語の混入

表7にアタヤル語と特定された荒尾の項目と参照した文献、荒尾の語釈に対応する現代セデック語パラン方言の形式を挙げる。この中で、項目80と項目174については、現代パラン方言にも荒尾の挙げた形式は見られるものの、荒尾の挙げた注釈と一致しないものである。これらはアタヤル語の同源語から意味を借用していると考えらえる。項目174では、荒尾の語頭子音がgであるが、この子音はアタヤル語の形式には見られず、現代パラン方言には見られる。これらについて、語形はパラン方言のままで、意味はアタヤル語のものに替わっていると言うことができる。

表7 アタヤル語の混入

衣/) ダヤル語の氏人			
	荒尾	アタヤル語	現代パラン方言	現代パラン方言
			(荒尾と同形)	(荒尾と同義)
11	masitu, masikitu「硬イ」	məhəkito, məskito (小川 1931:	_	saadux
		81)		
24	rábu「白イ」	məlabu ³²⁴	_	behege
46	makaki「寄セル」	тәкәкіуа (ЛУП 1931:402) ³²⁵	_	teheyaq
64	makuri「盗厶」	тәqoreq (ЛУП 1931: 284)	_	gumeeguy
80	säpoa「掃ク」	sapuh (黄・呉 (編) 2000)	sapuh「治療する	sukesik
			す」326	
126	baruku「簸」	bəluku (ปรป 1931: 361)	_	butuku
174	goagi「太陽」 ³²⁷	wagi (ין און 1931: 215)	gagi「ガラス」	hido

³²¹ 形式のみを考えるなら、荒尾の表記に対応する現代パラン方言は begax 「睾丸」に相当する。意味と形式の両方を考えるとトゥルク方言のほうがより近い。また、トゥルク方言との同願語がアタヤル語にもboax 「米」(小川 1931: 139) として見られる。荒尾の挙げた語彙はセデック語トゥルク方言かアタヤル語かどちらかだろう。

 $^{^{32}}$ この項目に関しては、現代ペラン方言の第一音節 pu が荒尾の表記で現れないだけとすると、ペラン方言を記録したものと言えるかもしれない。ただ現代ペラン方言のc が荒尾の表記ではs であることが難点である。

²²³ アタヤル語にもトゥルク方言との同源語 *utas* 「陰茎」(Egerod 1980: 722) がある。荒尾の挙げた語彙は セデック語トゥルク方言かアタヤル語かどちらかだろう。

³²⁴ 執筆者のフィールドノートによる。南投縣仁愛郷新生村眉原集落のアタヤル語話者 Toku Sapu の挙げた形式。

³²⁵ 小川の注釈は「立寄」である。小川の形式に見られる語末の ya が荒尾の形式には見られないのが難点ではあるが、アタヤル語の形式と判断した。

^{326「(}シャマンが) 医術を施す」という意味である。

²²⁷ 荒尾の項目 441 では同一の語が「望遠鏡」として登場しており、これが「ガラス」の意味に通じる。荒尾の表記の oa がアタヤル語の a に対応する語が、なぜ母音にこのような違いが見られるかはわからない。

194	mayūmin「粥」	myumin (/]\ 2006: 368) 328		ido rumu
314	mahikan「瘠セル」	məhəikaŋ (/ʃу 1931:284)	_	kuure
326	bana「骨」	bani(鳥居 1901b: 375)	_	bииc
436	mangēlisi「泣ク」	məŋilis (ปปป 1931: 272)	_	muliŋis

アタヤル語の語彙の混入,意味の混入のほかにも、アタヤル語の音韻的影響を受けた形式が見られたことは5.7節、5.11節、5.14節、5.17節に述べた。また、セデック語トゥルク方言からの語彙の混入として挙げられた項目200と項目300についても、同源語の形式がアタヤル語でも同一であり、もしかしたらこれらもアタヤル語の語彙を混入したのかもしれない。荒尾の語彙集は、当時のセデック語パラン方言を収録したものであるが、その中に潜むアタヤル語の混入は語彙面・音韻面でも見られることが分かった²³⁹。

6.3 パゼッヘ語の混入

表8にパゼッへ語と特定された荒尾の項目と参照した文献、荒尾の語釈に対応する現代セデック語 パラン方言の形式を挙げる。荒尾の調査協力者は平埔族であったことが端書に記されている。平埔族 はいくつかの種族に分れるが、その中のパゼッへ族であったことを、これらパゼッへ語の語彙の混入 から知ることができる。

表8 パゼッへ語の混入

	荒尾	パゼッへ語	現代パラン方言
134	rutsun「杵」	<i>luzuŋ</i> 「臼」 (Li and Tsuchida 2001: 171)	duhuŋ 「臼」
235	aidan「豆」 330	xaidaŋ (Li and Tsuchida 2001: 317)	beluh
258	dägau「蠅」	rangaw (Li and Tsuchida 2001: 242)	ruŋedi
266	kuzun「蝦」	kuzun (Li and Tsuchida 2001: 161)	boluŋ

³²⁸ 小川 (2006: 368) におけるアタヤル語の資料番号 5b には、荒尾の形式と同一の形式と考えらえる「粥」が記録されている。そのため荒尾した語はアタヤル語の形式であると判断したが、これと同形式の語が他のアタヤル語の資料に見られないのが難点である。

³²⁹ 荒尾のセデック語パラン方言を記録した語彙集の中に、セデック語トゥルク方言やアタヤル語の要素が少なからず混入しているのは、アタヤル語とセデック語が系統的に同じ語群(アタヤル語群)に属する言語であることに起因するだろう。荒尾の調査協力者はセデック語パラン方言の母語話者ではなかった。そのため、セデック語パラン方言とセデック語トゥルク方言を区別すること、これらセデック語の方言とアタヤル語を区別することは難しかっただろう。さらに興味深いのは、パゼッへ語も混入していることである(6.3 節)。荒尾の調査協力者がなぜこれらのパゼッへ語の語彙をセデック語であると勘違いしていたかはわからない。ただ、この時代パゼッへ族はすでに漢民族化していたはずだが、言語は完全には失われていなかったことがわかる。

³³⁰ 同源形式と思われる語 qaerang「豆」(小川1931:358) がアタヤル語にも見られたが、語中子音が d である点においてパゼッへ語の形式のほうが荒尾の記録した語により近い。

6.4 閩南語の混入

閩南語が混入されていると考えられる項目を表9に示した。このうち項目 118, 項目 119, 項目 120 は小川 (2006) において、閩南語であると特定されている (10 節参照)。表中の閩南語の表記は曹他 (編) (2011) を参考にした。

表9 閩南語の混入

	荒尾	閩南語	現代パラン方言
57	papeä「的 (マト)」 ³³¹	pha?pe a	
118	kiyon pan 「弓」	kiong pan	beheniq
119	kiyon chē「矢」	kiong tsi ⁿ	budi
120	pinä「笛」	phin a	iyuk

閩南語の要素が見られるのは語彙面に限らない。音韻面においてもその影響が窺えることは5.4節, 5.7節、5.15節、5.16節で述べた。

6.5 語頭・語中における分節音の無表記

表 10 に挙げたように、現代ペラン方言の三音節以上の語において、荒尾の表記では語頭の音節が見られないことがある。これらの欠落部位は強勢位置である次末音節より前の音節に当たる。なぜ荒尾の表記ではこれらの音が表記されなかったかは不明だが、現代ペラン方言の語頭 qu が荒尾の表記に見られない例が多いという特徴がある。

表 10 現代パラン方言の三音節以上の語と荒尾における語頭の無表記

	荒尾	現代パラン方言
15	rauka, dauka「軽イ」 ³³²	cu lokah
19	chērun「池, 堀」	gu ciluŋ
72	läbui「紙」 ³³³	ku labuy

²²

³³¹ 項目 57 における後半部分 peā は閩南語「靶子(まと)」の可能性が高いと潘兪翔氏が指摘した(私信)。前半部分の pa は閩南語「拍(打つ)」に相当するだろうと考えられる。秋谷裕幸からも閩南語「拍靶子」を表したものだろうが、閩南語に見られる有気音・無気音の表記の使い分けは気にかかるとの指摘を受けた(私信)。「拍」は有気音だが、荒尾の表記 pa にはそのことを示す表記は見られない。これについて、項目 120 に類例が見られる。閩南語の「笛」は語頭子音が有気音であるが、荒尾の表記 pinā ではそのことを示す表記は見られない。そのため、項目 57 の前半は恐らく「拍」を表しており、全体として「まとを打つ」という動詞句を構成していることになる。また、項目 57 と項目 120 は閩南語の形式において、語末母音が下降調の声調を持つが、それが荒尾の発音区別符号で表され(4.7節)、荒尾はその音節にアクセントが置かれていると判断しているらしいことがわかる。また、「まと」に相当するセデック語パラン方言は見当たらない。

³²² この語に関しては、アタヤル語の同源語 *laukah*「健やか」(小川1931:189) の影響を受けている可能性も考えられる。この形式は、現代パラン方言の語頭 *cu* に当たる分節音を持たない。

³³³ 但しもうひとつ kalabui という、現代パラン方言に一致する形式も載っている。

75	bahan「合点スル」	qubahaŋ「聞く」
399	katina「南蕃人」	mu kutina
164	sia 「水」 ³³⁴	qusiya
190	bahānni 「鳥」	qubuheni ³³⁵
241	funni「薪」	quhuni
262	pätui「蛙」	qupatun
264	tsuruh「魚類の聡名」	qucurux
295	masolan「姉,兄,酋長」	qu busuran
396	wairoho「藤」	quwarux
116	mara ⁿ gan「槍」	sun buraŋan
298	mädan「親戚」	hulumadan「自分とは異性の兄弟姉妹」

少数ながら、現代パラン方言の三音節以上の語における語中の分節音が、荒尾の表記では見られないこともあった。現代パラン方言のpulumukan「閩南系漢民族」が荒尾の表記ではpamukan(項目 113)であり³³⁶、現代パラン方言のpulukusum「服を着る」が荒尾の表記ではpakusum(項目 438)である。さらに、現代パラン方言のbureemux「平地」が荒尾の表記ではbaānux(項目 389)であり、現代パラン方言のbulumadac(またはsulumadac)が荒尾の表記ではsimada(項目 117)である。

6.6 現代パラン方言では廃れた指示詞

荒尾の項目には現代パラン方言では用いられなくなった指示詞 hish「ソノ, アノ, アレ, アソコ」が現れた (表 11)。この語は現代パラン方言では hisu に相当し「そこ」を意味する語であることが調査の結果判明したが、自然発話で用いられるのを筆者が耳にしたことはない。この形式は恐らく二人称単数を表す isu から派生されたものと考えられる³³⁷。

表 11 現代パラン方言では廃れた指示詞 hisu

	荒尾	語釈
480	hish babuyan parengau maanu?	「アノ山ノ名ハ何ト言フ乎」
481	hish däya pare ⁿ gau maanu?	「アノ蕃社ノ名ハ何ト言フ乎」
521	hish maro	「ソレハヨイ」
516	ussa hish	「 アソコ 〜行ケ」

335 現代ペラン方言において qubeheni とも言う。語頭を脱落させ beheni と言うこともある。

336 但しpanimukan という、音節の数において現代パラン方言に一致する形式も載っている。

³³⁴ 但し項目 535 に kasia という, 現代パラン方言に一致する形式も載っている。

³³⁷ また、移動を表す動詞にgisu「やって来る」という語があるが、これもisuからの派生が疑われる。

6.7 細分化された語彙の未使用

荒尾の意図した注釈に適切な語が、現代パラン方言には存在するにも関わらず、荒尾は最適ではないが類似の語を挙げていることがある。それらを表 12 に挙げる。荒尾の語彙の直訳と現代パラン方言での適切な語を付している。

表 12 荒尾による説明的表現と現代パラン方言における適切な語

	荒尾	直訳	現代パラン方言
151	raudoho säpa「雞小屋」	鶏の家	kadu
152	bäbui säpa「豚小屋」	豚の家	tibu
153	lappa säpa「牛小屋」	牛の家	q <un>alaŋ (<uvp.pst>enclose)</uvp.pst></un>
154	säpa pädai 「穀小屋」	米の家	repun
306	okka sinunoho「ハゲ」	毛髪が無い	buyuh
318	okka daudeak「盲目」	目が無い	m-budu (STAT-blind)
315	egu hazi 「肥ヘル」	実が多い	mu-siyaŋ (STAT-fat) 「脂肪が多く太って
			いる」, <i>mu-tu-beno</i> (STAT-NONV-fat)「(健
			康的に)肥えた」
149	säpa hinni 「家の内」	ここの家?	sapah
150	säpa hish「家ノ外」	そこの家?	<i>папис</i>
164	eda habärau sia 「瀑布」	高所から水が来る?	tugelaq
169	mabuyan habärau「山頂」	高心山?	digiyaq
247	funni maina「樹皮」	樹の皮?	rehaq
381	mukarau sia 「露」	水が渡る?	duremus
127	simada batsunuh	刀のための石?	hipax-an (whet-UVL)
155	säpa habärau「屋根」	高い家?	d <un>amux (<uvp.pst>thatch)</uvp.pst></un>
172	mutakui sia mafukin 「溺死」	水場で転び死ぬ?	tu-guqeguq (NONV-drown)
544	matena dange「共二朋友ナリ」	友と同等?	musu-daŋi (RCPL-friend)
498	taeta yakko ³³⁸ 「吾二貸セ」	私に渡せ?	ita「よこせ」
510	eda hinni「コヽニ来レ」	ここに来い	aguh

荒尾の語釈を表す適切な表現が、現代パラン方言では一語で表せる語でありながら、荒尾の語彙集では二語以上の説明的な表現を用いていることが多い。例えば項目 468 の raudoho laki「雞ノ卵」(直訳 鶏の仔)であるが、「卵」には balung という語を現代パラン方言では用いる(ただし荒尾も項目 193では bärun 「卵」を挙げている)。

_

 $^{^{338}}$ 荒尾の文をあえて現代パラン方言に置き換えると*ta-i=ta yaku (see-UVP/VULIMP=1PLINCL)となる。異なるこつの代名詞,接語代名詞属格の=ta と独立形の yaku が表れているという点で非文法的な文である。

荒尾の二語目の *laqi*「子供」で「卵」を表すことはない。また、この *laqi* は「人間の子」を表し、「動物の仔」には *wawa* という別の形式がある。ところが荒尾の項目 265 tsuruh lakki「魚ノ子」と項目 272 lappa lakki「子牛」には揃って *laqi* が用いられている。

さらに、意味的に現代パラン方言とは異なる場合も見られる。現代パラン方言で「赤」は*mu-tanah*、「血」は*dara* であるが、荒尾の項目 304 では「血」に tanna という「赤」を表す形式を挙げている。現代パラン方言で「草」は *sudu*、「葉」は *waso* であるが、荒尾の項目 444 では「草」を表す sudu が「葉」の意味で用いられている。加えて、現代パラン方言で「家」は *sapah*、「巣」は *rudu* であるが、荒尾の項目 138 と項目 249 では「家」を表す säpa が「巣」の意味で用いられている。

このほか動詞の使用においても、荒尾の語彙表では語釈に最適な動詞ではなく、類似の動詞を挙げていることがある。それら荒尾による語釈に忠実ではない動詞(太字で表示)と、それに対応する現代パラン方言の語彙、さらに語釈に忠実な現代パラン方言の動詞を表 13 に挙げる。

表 13 荒尾の用いる動詞とそれに代わる現代パラン方言での最適な語

	荒尾	現代パラン方言において対	現代パラン方言で用いられ
		応する動詞	る動詞
433	niau makan ōrisi 「猫ガ鼠ヲ咬	mekan (AV-eat)「食べる」	q <um>iguc (<av>bite)「咬む,</av></um>
	ム」		(蚊が) 刺す」
469	ish mākan nunoho「汝乳ヲ飲	mekan (AV-eat)「食べる」	munuh-i (suck-UVP/UVL.IMP)
	メ」		「乳を吸え」
			mah-i (drink-UVP/UVL.IMP)「飲
			め」
435	tsurin sēdan「焼キタル肉」	culin (AV.IMP.get.burnt)「火傷	un-duh-an (PST-roast-UVL)「直
		する」	火で焼く」
426	simaro pumniak 「火ヲツクロヘ」	sumalu (AV.make/repair) 「作	putuŋ-i (litht.up-UVP/UVL.IMP)
		る,修理する」	「火を付けろ」
440	pausa puniak「アカリヲツケヨ」	posa (AV.put) 「置く」	putuŋ-i (litht.up-UVP/UVL.IMP)
			「火を付けろ」
451	maanu kaneepa ?「何ヲスルカ」	k <un>eepah</un>	mu-miyak (STAT-do)「する, 家
		(<uvp.pst>work.in.field)</uvp.pst>	事をする」
		「畑仕事をした」	
530	yakko mafulissi 「私ハ喜ヒマス」	mu-hulis(STAT-laugh)「笑う」	<i>mu-qaras</i> (STAT-happy)「楽し
			い,嬉しい」
531	ish maʰgēlisi 「彼ハ悲ミマス」	l <um>iŋis(<av>cry)「泣く」</av></um>	naqah kuxun (STAT.bad feeling)
			「気分が悪い,悲しい」

語彙集の後半になると、複合語や動詞句などの句や文を成すやや長めの項目が挙げられているが、

これらの項目において、表現の方法や、動詞の屈折・派生の形式が現代とは異なるものが多くみられ、 荒尾の調査協力者のセデック語非母語話者としての言語特徴を示すものだと考えられる。これら現代 パラン方言とは異なる点について、7節では形態的に、8節では意味的に、9節では統語的に検討する。

7. 形態的考察

荒尾の語彙集において、現代パラン方言とは形態的に異なる箇所について考察する。7.1 節では現代パラン方言では許容されない非動作主体の形態について述べる。7.2 節では命令形を用いるべきなのに用いていない例とその逆に命令形を用いるべきではないのに用いている例を挙げる。7.3 節では否定辞後の動詞の形式として、現代パラン方言では命令形が用いられるが、荒尾ではそうなっていないことを、7.4 節では、現代パラン方言では時制を表すための動詞の屈折を用いるが、荒尾ではそうなっていない例、誤った時制の動詞を用いる例を見る。7.5 節では動詞が連続する場合、後部に現れる動詞の形態について、現代パラン方言では現在形を用いるが、荒尾では未来形を用いることを紹介する。7.6 節では、代名詞の現れの違いについて、現代パラン方言では接語を使うが荒尾ではそうなっていないことと、現代パラン方言では命令文において動作主の代名詞を用いないのが一般的だが、荒尾では代名詞が用いられていることがあり、代名詞が用いるかどうかは荒尾が訳出を求めた文における代名詞の有無に依存しているらしいことを述べる。

7.1 非動作主態の形態の違い

荒尾の語彙には、現代パラン方言の文法を基準にした場合、許容されない語形成を示す形式が二例 見られた。まず一例目が項目 372 の makeyan である。現代パラン方言におけるこの語の語根は betay と言う。動作主態の屈折により語頭のb がm に置き換えられ、metay という形式に変わる。場所態では接尾辞が付き bukey-an となる(語根末のu は e に変わる)。荒尾の形式に対応すると考えられるのがこの bukeyan であるが、荒尾の表記では語頭がm である点が異なる。荒尾の表記は、動作主態 mekay に場所態の接尾辞 -an が付いたような形式を示している。このような形式は現代パラン方言では見られない。」

次に項目 515 の mesi であるが、現代パラン方言において mesa 「言う、要求する」という動詞がある。この形式を命令形にすると語頭の m が k に置き換わって kesi となる(期待される命令形は kesa-i なのだが、このような形式は存在せず、なぜか語根末母音の a が脱落する)。荒尾の形式は、この kesi の k を m で取り換えた形式を示している。このような形式は現代パラン方言では見られない。

7.2 命令形の違い

荒尾の語釈から判断して動詞の命令形を用いるべき箇所に、命令形が用いられていないことが多い。 表 14 に荒尾が用いた非命令形(太字)とそれに対応する現代パラン方言の形式を挙げる。また、荒尾 の語釈をもとに現代パラン方言で表現した場合に用いるべき命令形も併記する。

表 14 荒尾の非命令形と現代パラン方言の命令形

-	=		
	荒尾	荒尾に対応する現代	現代パラン方言で用いる命令
		パラン方言	形
439	mima sēnau 「酒ヲ飲メ」	m-imah (AV-drink)	imah (drink.AV.IMP),
			mah-i (drink-UVP/UVL.IMP)
469	ish mākan nunoho「汝乳ヲ飲メ」	m-ekan (AV-eat)	nunuh-i (suck-UVP/UVL.IMP)
527	maha sapa ish parengau kare	maha (AV.go)	ha-i (go-UVP/UVL.IMP)
	「彼ノ家ニ行テオ話シナサイ」		
455	marawa häle「早ク呼べ」	mu-lawa (AV.FUT-call)	hwan-i (call-UVP/UVL.IMP)
526	marawa eda hinni 「コヽへ呼デ来イ」	mu-lawa (AV.FUT-call)	hwan-i (call-UVP/UVL.IMP)
447	ägoa kimita 「来リ見ヨ」	q <um>ita (<av>see)</av></um>	quta-i (see-UVP/UVL.IMP)
496	kimita yakko「吾二見セヨ」	q <um>ita (<av>see)</av></um>	pu-quta-i (CAUS-see-
			UVP/UVL.IMP)
497	ish kimita 「汝見ヨ」	q <um>ita (<av>see)</av></um>	quta-i (see-UVP/UVL.IMP)

これらとは逆に、命令形が期待されない語釈でありながら、荒尾が命令形を用いていることもある。 表 15 には、荒尾の用いた命令形とそれに対応する現代パラン方言、そして語釈を現代パラン方言で表現した場合に用いられる非命令形を挙げる。

表 15 荒尾の命令形と現代パラン方言の非命令形

	荒尾	荒尾に対応する現代パラ	現代パラン方言で用いる
		ン方言	非命令形
427	paane lakki 「子供ヲ負フ」	paan-i (carry.on.back-	m-apa (AV-carry.on.back)
		UVP/UVL-IMP)	
454	egu ekkan「大食スル」	ekan (AV.IMP.eat)	m-ekan (AV-eat), puq-un
			(eat-UVP)
477	lipak siārek nakka「人ヲ殺スハ悪事	sipaq (AV.IMP.destroy)	s <um>ipaq (<av>destroy)</av></um>
	ナリ」		
508	bekki isu「汝二与ヘン」	biq-i (give-UVP/UVL.IMP)	mege (AV.give), biq-un
			(give-UVP)
513	makaha ussa däya ish 「明後日汝ノ社	usa (AV.IMP.go)	maha (AV.FUT.go)
	ニ往ク」		
58	chebu batsunuh「石ヲ投ゲル」	cebu (AV.IMP.shoot)	c <um>ebu (<av>shoot)</av></um>
418	chebu harun「発砲する」	cebu (AV.IMP.shoot)	c <um>ebu (<av>shoot)</av></um>
474	yamu däya eda hinni pira räbi 「汝等	eyah (AV.IMP.come)	m-eyah (AV-come)
	ノ蕃社カラコヽニ来ルニハ幾日		
	カヽル乎」		

512	tsäman eda hinni「明日コヽへ来ル」	eyah (AV.IMP.come)	m-eyah (AV-come)
517	eda kinoan「幾日二来ル乎」	eyah (AV.IMP.come)	m-eyah (AV-come)
488	eda kinoan tana tsunuh däya yamu?	eyah (AV.IMP.come)	m <un>-eyah (AV<pst>-</pst></un>
	「何時日本人ガ汝等ノ社ニ至リシ		come)
	ヤ」		

7.3 否定辞後の形式の違い

現代パラン方言において否定辞 ini (動詞句否定) と iya (禁止) には動詞が後続するが、それらの動詞は特定の屈折形式—否定辞後の形式—でなければならない (陳 1996)。ちなみにこの否定辞後の形式は命令形と同等である³³⁹。しかし、荒尾の語彙集においてこれら否定辞の後部に否定辞後の形式を用いている例は一例しかみられなかった。それが項目 51 の inni kela 「不知」であり、動詞 kela (現代パラン方言も同一形式) は否定辞後の形式である。これ以外、荒尾の語彙集において否定辞 ini と iya に後続する動詞は、否定辞後の形式ではない。それら動詞と現代パラン方言において対応する形式、さらに現代パラン方言で表現した場合に用いなければならない否定辞後の形式を表 16 に示す。

表 16 否定辞後の形式の違い

	荒尾	荒尾に対応する現代パラ	現代パラン方言で用いる
		ン方言	否定辞後の形式
448	kärau iya egu koa ^k 「黙レ ヤカマシク云	egu (STAT.many)	ke-egu (STAT.IMP-many)
	フナ」		
478	yamu kana iya pakkun siārek 「汝等人ヲ	paq-un (destroy-UVP)	paq-i (destroy-
	殺ス勿レ」		UVP/UVL.IMP)
449	inni mākan ēdau 「飯ヲ食ハヌ」	m-ekan (AV-eat)	ekan (AV.IMP.eat)
500	inni karaun ish「汝ハ知ラヌ」	kula-un (know-UVP)	kela (AV.IMP-know), kula-
			i (know-uvp/uvl.imp)

7.4 時制の違い

荒尾の語釈から判断して過去形を用いるべき箇所に、現在形を用いている場合がある。それらの動詞と現代パラン方言で対応する形式を表 17 に示す。荒尾の語釈を現代パラン方言で表現した場合に用いられる動詞も併記する。

表 17 荒尾の過去形と現代パラン方言の現在形

荒尾	荒尾に対応する現代	現代パラン方言で用いる
	パラン方言	過去形

³⁹ 但し他動性の低い動詞については命令形と呼ぶのは適切ではないが、ここでは便宜的にこれらも命令形としておく。

424	makan da「食シ了ル」	m-ekan (AV-eat)	m <un>-ekan (AV<pst>-</pst></un>
			eat)
546	makera mausa ish?「アナタハ往タコト	<i>m-osa</i> (AV-go) ³⁴⁰	m <un>-osa (AV<pst>-go)</pst></un>
	ガアリスカ」		

7.5 動詞連続における後部動詞の形式の違い

現代パラン方言において「~しに行く」など移動の目的を表す表現において、移動を表す動詞が先、目的を表す動詞が後に続くが、この後部動詞に用いる形式は現在形となる³⁴¹。ところが、荒尾の語彙集では未来形が用いられている。それら後部動詞の例を表 18 に挙げ、対応する現代パラン方言と、現代パラン方言で表現した場合に用いられる現在形を併記する。

表 18 動詞連続における後部動詞の違い

	荒尾	荒尾に対応する現代パ	現代パラン方言で用いる
		ラン方言	現在形
452	ussa marawa「行テ呼べ」	mu-lawa (AV.FUT-call)	l <um>awa (<av>call)</av></um>
485	ussa marawa tel soazi「往テ三人ノ蕃丁	mu-lawa (AV.FUT-call)	l <um>awa (<av>call)</av></um>
	ヲコヽヘ呼デ来イ」		

7.6 代名詞の形態の違い

表 19 に示すように現代ペラン方言において代名詞には独立形と接語形があり、接語形は主格と属格の別がある。ただしこの区別は厳密に言えば一人称単数にのみ見られ、三人称単複では主格に欠け 属格のみがある。その他は主格・属格同形である。また接語は句または節の第一語の直後に付される。

表 19 現代セデック語パラン方言の人称代名詞

代名詞独立形	接語代名詞主格	接語代名詞属格

340 荒尾の形式 mausa から現代ペラン方言の mosa に至るまでに、二重母音 aw が単母音 o に変わる変化が起きた。因みに現代パラン方言の形式には musa という自由交替形がある。荒尾の形式における語頭の maは接頭辞(恐らく静態動詞の接頭辞)と考えられる (語根は usa)。ただし、トゥルク方言では mawsa は未来形、musa が現在形である (月田尚美、私信)。

³⁴¹ ただし、中原集落の80歳を超えた高齢者の発話では、後続する動詞に荒尾が用いたのと同じ未来形を用いていた。この高齢者が早期パラン方言の文法を未だ保存しているとするならば、後続する動詞に未来形を用いるのが、あるいは早期セデック語において文法的に正しい言い方だったのかもしれない。

一人称単数	yaku	=ku	=mu
二人称単数	isu	=su	=su
三人称単数	heya		=na
一人称複数・排他	yami	=nami, =miyan	=nami, =miyan
一人称複数・包括	ita	=ta	=ta
二人称複数	yamu	=пати	=пати
三人称複数	deheya		=daha

代名詞が動作主態の主語として現れる場合、現代パラン方言では接語代名詞を用いるのが一般的であるが、 荒尾の例文では独立形を用いている。

例えば (217) に再掲した荒尾の例文では、一人称代名詞独立形が文頭に用いられている。これを現代パラン方言で表現した場合 (218) のようになり、一人称接語代名詞・主格が動詞の直後に置かれる342。

yakko mafulishi

yaku muhulis

「吾レハ喜ブ」(正確には「私は笑う」と言う意味)

(218) 現代パラン方言

mu-hulis =ku

STAT-laugh =1SG.NOM

「私は笑う」

被動作主態(対象態・場所態・状況態)において、動作主が主語ではなく動作の受け手が主語になる。これらの項に代名詞が用いられた場合、現代ペラン方言では被動作主が接語代名詞主格、動作主が属格で現れる。ところが、荒尾の語彙集ではどちらもが独立形で現れる。(219)に再掲した荒尾の例文では動作の受け手である二人称単数が独立形 isu である。これを現代ペラン方言で表現した場合(220)のようになる。受け手の二人称単数は接語代名詞主格=suで、動作主の一人称は接語代名詞属格=muで現れる。

(219) 荒尾 (項目 508)

bekki ish

-

³² ただし、人称代名詞が述語の位置である文頭に来る場合は独立形でなければならない。このような yaku ka mu-hulis (IsG.PRON NOM STAT-laugh)「笑うのは私だ」となる。この語順は現代セデック語の視点から言う独立形代名詞が述語の位置に移動されたものと見なすこともできる。

biqi isu 「汝ニ与ヘン」

(220) 現代パラン方言343

biq-un =su =mu

give-UVP =2SG.NOM=1SG.GEN

「私があなたに (何かを) あげる」

荒尾の語彙集におけるその他の被動作主態の構文には、(221a-b) に再掲したように動詞「知る」を使ったものが見られた。どちらも動作主は独立形を用いている。これらを現代パラン方言で表現した場合は (222a-b) のように接後代名詞を用いる。

a. karaun yakko

kulaun yaku

「吾ハ知ル」

b. inni karaun ish

ini kulaun isu

「汝ハ知ラヌ」

(222) 現代パラン方言

a. kula-un =**mu**

know-UVP=1SG.GEN

「私は (それを) 知っている」

b. $ini = \mathbf{s}\mathbf{u}$ kula-i

NEG =2SG.GEN know-UVP/UVL.IMP

「あなたは (それを) 知らない」

接語代名詞属格はさらに現代パラン方言において所有を表すのにも用いられる。ところが荒尾の語彙集では表20に挙げたように人称代名詞を用いた所有構文には独立形が使われている。

表 20 代名詞による所有構文の違い

荒尾 現代パラン方言

³⁴³ biq-un=misu とも言う。接語代名詞=misu は一人称属格と二人称主格の融合形(今では古形)である。

	[41.15	
412	yakko saipa「私ノ家」	sapah=mu
543	yakko masolan「私共の酋長」	qubusuran=miyan「私たち(排他)の酋長」
		qubusuran=ta「私たち(包括)の酋長」
413	isu pukan「汝ノ煙管」	puqan=su
414	ish kkakaya「汝ノ者」	quyuqeya=su
442	gäzan ish「名」(「あなたの名前」を意図した)	ŋayan=su
482	ish sāpa「汝ノ家」	sapah=su
483	ish minäroho「汝ノ病気」	munarux=su
513	däya ish 「汝ノ社」	alaŋ=su
541	säpa ish 「オマヘノ家」	sapah=namu「あなたがたの家」
527	säpa ish 「彼ノ家」	sapah=na
474	yamu däya「汝等ノ蕃社」	alaŋ=namu
488	däya yamu 「汝等ノ社」	alaŋ=namu

荒尾のデータは9.1 節の修飾関係を表す名詞句と類似し、独立形で現れる代名詞(所有者)は所有物の前に置かれることもあれば、後ろに置かれることもある。前に置かれる語順は先に述べたように日本語または閩南語の影響を受けたことを示しているのかもしれない。

また、現代パラン方言では命令文(または禁止文)において、強調する場合を除いてあえて二人称代名詞を用いることはないが、荒尾の語彙集では命令文(または禁止文)において独立形の二人称代名詞が現れることがある。しかも、代名詞が現れる項目のほとんどは、表 21 にあるように語釈に「汝」または「汝等」という語が含まれている。一方、「汝、汝等」を明記しない命令文においては表 22 にあるように代名詞が導入されていない。

表 21 荒尾が代名詞を導入する命令文

	荒尾	語釈
469	ish makan nunoho	「汝乳ヲ飲メ」
478	yamu kana iya pakkun siārek	「 汝等 人ヲ殺ス勿レ」
487	hinni erru ish taiyak yakko	「此道ヲ案内セヨ」
497	ish kimita	「汝見ヨ」
502	ish tareon	「汝坐セヨ」
532	ish kärau	「 汝等 静ニセヨ」

表22 荒尾が代名詞を導入しない命令文

	荒尾	語釈
5	agoa hále	「早ク,早ク来レ」
12	kälau	「静ニセヨ,黙レ」

43	ädasi	「持テ来イ」
89	agoa	「来イ,来ル,来タ」
426	simaro punniak	「火ヲツクロヘ」
440	pausa punniak	「アカリヲツケヨ」
446	ägoa pare ⁿ gau käle	「来り話セ」
447	ägoa kimita	「来り見ヨ」
448	kärau iya egu koa ^k	「黙レ ヤカマシク云フナ」
452	ussa marawa	「行テ呼べ」
456	egu baebu	「強ク打テ」
485	ussa marawa tel soazi	「往テ三人ノ蕃丁ヲコヽヘ呼デ来イ」
496	kimita yakko	「吾二見セヨ」
498	taeta yakko	「吾二貸七」
509	bekki yakko	「吾レニ與ヘヨ」
510	eda hinni	「コヽニ来レ」
516	ussa hish	「アソコ〜行ケ」
526	marawa eda hinni	「コヽへ呼デ来イ」
542	pagesa yakko materoho sia	「私ニ湯ヲ下サイ」

代名詞が現れる項目のほとんどは、表21にあるように語釈に「汝」または「汝等」という語が含まれている。一方、「汝、汝等」を荒尾が明記しない命令文においては表22にあるように代名詞が導入されていない。荒尾が「汝、汝等」を入れて聞いたかどうかで調査協力者が訳しわけたということだろう。

8. 意味的考察

本節は、荒尾の語彙集と現代パラン方言との間に見られた語彙的な違いを考察する。8.1 節は二人称と三人称代名詞、8.2 節では疑問詞「いつ」、8.3 節では否定辞、8.4 節では指示詞、8.5 節では*egu*「多い」の使い方、8.6 節では*kuxum*「好む」の使い方について議論する。

8.1 二人称と三人称の用法の違い

荒尾の語彙集には二人称と三人称が同等に扱われている項目が見られる。二人称代名詞は項目91 に ish「オマへ、オマへ等」が挙げられており、現代ペラン方言の二人称単数代名詞 isu に相当する。これは例えば項目 539 kufun maanu ish「アナタハ何ヲオ望ミデス」において、二人称単数として用いられている。ところが、この代名詞が三人称として用いられる例もある。それらを表 23 に挙げる。これらは現代ペラン方言では三人称単数代名詞 heya で表されるものである。

表23 荒尾が isu を三人称として用いる例

	荒尾	語釈
484	kinoan ish mahokin	「彼ハ何時死セシ乎」
504	ish gaga	「彼レハ有ル」
524	ish maseyan	「彼ハ怒テ居ル」
527	maha sapa ish parengau kare	「彼ノ家二行テオ話シナサイ」
531	ish ma ⁿ gelisi	「彼ハ悲ミマス」
536	ish minäroho	「彼ハ病気デス」
537	ish mahukin	「彼ハ死ニマシタ」
538	ish minäroho maro	「彼ハ快キ方デス」

8.2 疑問詞「いつ」の用法の違い

現代パラン方言において疑問詞「いつ」は過去を表す形式と非過去の形式とがあり、それぞれ su-kumwan「(過去の) いつ」と kumwan「(過去ではない) いつ」と言う。1920 年代のセデック語資料である小川(1939: 11, 14) にも sǔnoan「何時(過去)」、kǔnoan「何時(未来)」という形式が挙げられおり、荒尾の項目にみられる 467 sinoan と 484 kinoan に相当する。現代パラン方言では、過去の「何時」は sukumwan であり、荒尾(と小川)の表記では ku にあたる部分が見られないという違いがある。 荒尾の調査時にも「何時」の時制の使い分けがあったと考えられる。しかし、例えば(223 a – b)のように荒尾の例文では非過去の kinoan を用いていながら過去のことを聞いている。あるいは(224 a – b)のように非過去のことを聞いているのに sinoan を使っている。

- - a. **kinoan** ish mahokin kumuwan isu muhuqin 「彼人何時死セシ乎」
 - b. eda **kinoan** tana tsunuh däya yamu?
 eyah kumwan tanah tumux daya yamu
 「何時日本人ガ汝等ノ社ニ至リシヤ」
- - a. **sinoan** maro goagi sukumuwan mahu gagi 「何時好キ天気ニナラフ乎」
 - b. ish eda **sinoan**?

 isu eyah sukumwan

「汝ハ何時来ル乎」

これら荒尾の意味を現代パラン方言で表現するならば、過去の事柄を表す(223)で用いる疑問詞は kumuwan ではなくて sukumuwan であり、非過去の事柄を表す(224)で用いる疑問詞は sukumuwan ではなくて kumuwan としなければならない。

8.3 否定辞の用法の違い

現代パラン方言には、動詞の否定を表す語として *ini* (7.3 節参照), 存在の否定を表す語として *uka* がある (陳 1996)。例えば「雨が降る」を否定した場合に用いられる否定辞は *ini* である。ところが (225) に再掲したように、荒尾の語彙集では動詞の否定を表す語として *uka* を用いている例が見られる。これを現代パラン方言で表すと (226) のようになり、否定辞 *ini* を用いる。

> saya **okka** kumuzoho saya uka qumuyux 「今日ハ雨ハ降ラス」

(226) 現代パラン方言

ini quyux saya NEG AV.IMP.it.rains today 「今日は雨が降らない」

8.4 指示詞の用法の違い

同様に「この」という名詞を修飾する用法でも荒尾はhiniを用いる。「あの」を表すとして荒尾が用いたのがhisuという現代ではほぼ用いられなくなった指示詞である。これらの例を表24に示す。

表 24 荒尾が用いる名詞修飾用法の指示詞

	荒尾	現代パラン方言
479	hinni yayun 「此川」	yayuŋ ni
487	hinni erru「此道」	elu ni

489	hinni masoran「コヽノ大人達」	qubusuran ni
543	hinni äran「此蕃人」	alaŋ ni
480	hish babuyan「アノ山」	bubuyu ga
481	hish däya「アノ蕃社」	alaŋ ga

名詞を修飾するこれらの指示詞は現代ペラン方言では名詞の後に置かれるのだが、荒尾の例では全て前に置かれている点も異なる。この語順は、調査協力者の母語である閩南語の影響を感じさせる。

次に現代パラン方言では遠称の指示詞として用いられる gaga であるが、(227a-b) に挙げたようにこの語は直後に場所を表す語、例えば hini「ここ」などを置くことで、存在を表す用法がある。以下 (227c) のように場所を表す語が無い場合は非文となる。

(227) 現代パラン方言において存在を表す gaga

- a. gaga hini hulin EXIST here dog 「犬はここにいる」
- b. gaga daya hulin EXIST up dog 「犬は上の方にいる」
- c. *gaga huliŋ EXIST dog 「犬がいる」

ところが、荒尾は gäga に「有る」(項目 88)という語釈を与え、物の存在を表す動詞と見なしている。そして表 25 にあるように gäga の後に場所表現を伴わずに現れる。語順について言えば、ほとんど名詞句の前に gäga を置いているが項目 504 では後に置いている点で、語順の一貫性に欠ける。

表 25 荒尾が gaga を存在動詞として用いる例

	荒尾	語釈
211	gäga ush chinemu	「有袖衣」
416	gaiga bāgaha	「米ガアル」
428	gäga tsuruh nākan sia	「魚ハ水ヲ泳グ」
468	raudoho laki gaga linma	「雞ノ卵ガ五ツアル」
504	ish gaga	「彼レハ有ル」

さらに gaga に関して、荒尾の語彙集において経験を表す用法が一例見られた。このような用法は現代パラン方言の gaga には見られない。それが項目 406 の gága magaeda himi?「コハへ来タコトガアルカ」であり、gäga を除いた部分 magaeda himi は動詞句を成す。現代パラン方言に置き換えると mugeela himi 「ここまで先導して来る」となる。注目すべき点は、荒尾が gága の上方に「有」という注釈を付けていることであり、このような構文を持つ閩南語に影響を受けたことを示唆している。

8.5 equ の用法の違い

現代パラン方言において egu は「物が多い」ことを表す語である。 荒尾の語彙集にも項目 22 に egu 「澤山」が見られるが、それ以外の用法でも使われており、表 26 にあるように程度の大きさを表していると考えられる項目が三つ見られた。 これらは現代パラン方言ではそれぞれ別の語で表現される。

表26 荒尾がeguで程度の大きさを表す例

	荒尾	現代パラン方言
7	egu paru「ヨリ大」	rumabaŋ paru (more STAT.big)
456	egu baebu「強ク打テ」	hunek-i beebu (do.strongly-UVP/UVL.IMPAV.hit)
457	egu mafullisi「大二笑フ」	mu-hulis paru (STAT-laugh STAT.big)

8.6 kuxun の用法の違い

現代パラン方言において kucum (like.UVP) は「物や人を好む」という意味の語である。これが荒尾の語彙集においては、表 27 にあるように願望や要求を表す語として用いられている。これら荒尾のkufum は現代パラン方言では muku で表現される。この語は単独で現れることはなく、動詞を必要とする (統語的振る舞いとしては接頭辞のようでもあるし、接語のようでもある)。

表 27 荒尾が kuxun で願望を表す例

	荒尾	現代パラン方言
495	yakko kufun kumite「吾レハ見タシ」	muku=ku q <um>ita (DES=1sG.NOM <av>see)</av></um>
507	kakko kufun eda 「吾レハ来ラン」	muku=ku m-eyah (DES=1SG.NOM AV-come)
503	kufun matake yakko 「吾ハ子ムイ」	muku=ku mu-taqi (DES=1SG.NOM AV-sleep)
534	yakko kufun matake「私ハ眠クナリマシタ」	muku=ku mu-taqi (DES=1SG.NOM AV-sleep)
535	yakko kufun kasia 「私ハ水ガ欲シイ」	muku=ku m-imah qusiya (DES=1SG.NOM AV-drink
		water)

これら kuxum の使い方を見ると、閩南語において動詞に先行し、願望を表す語である be? 「~したい」または ai 「~することを願う」(Chappell 2018: 23) の意味するところに相当する語の代用として、kuxum が用いられている印象を受ける。

9. 統語的考察

本節では、荒尾の語彙集と現代パラン方言の間に見られる統語的違いについて考察する。9.1 節は修飾語と被修飾語との語順、9.2 節は主語の語順、9.3 節は疑問詞の語順、9.4 節は時を表す表現の語順、9.5 節は数詞・数量詞の語順について議論する。

9.1 修飾関係の語順の違い

荒尾の語彙集に顕著に見られた現代パラン方言との文法の違いのひとつは、修飾関係にある二つの要素の語順である。現代パラン方言では被修飾語(名詞)が先、修飾語(名詞・名詞句,動詞・動詞句など)が後に来る。この二つの語順を入れ替えることはできない。荒尾の語彙集にはこの語順も見られるのだが、修飾語が前・被修飾語が後という逆の語順も多く見られた。まず、荒尾の語彙集に見られる被修飾語が先の語順を表 28 に示す。さらに本稿筆者が荒尾の語に対する注釈を括弧内に加える。

表28 荒尾の語彙集で被修飾語が先に来る例

	荒尾	語釈
154	säpa pädai (house rice.plant)	「穀小屋」
188	säpa walu (house bee)	「蜂ノ巣」
249	säpa bahānni (house bird)	「鳥ノ巣」
166	yayun funna (river downhill)	ווח
250	papak raudoho (foot chicken)	「雞足」
251	tama raudoho (father chicken)	「雄雞」
282	maina dakaidisi (skin leopard)	「豹皮」
308	minäroho daudeak (sickness eye)	「目病」
378	hakauduf (ladder god)	虹」
155	säpa habärau (house high)	「屋根」
169	mabuyan habärau (mountain high)	「山頂」
275	lappa tana (cow red)	「赤牛」
459	tsuruf chēkoaha (fish small)	「小キ魚」

次に修飾語が先の語順の例を表29に示す。

表 29 荒尾の語彙集で被修飾語が後に来る例

	荒尾	語釈
142	tamako rubui (tobacco pocket)	「煙草入レ」
151	raudoho säpa (chicken house)	「雞小屋」
152	bäbui säpa (pig house)	「豚小屋」

153	lappa säpa (cow house)	「牛小屋」
193	raudoho bärun (chicken egg)	「雞卵」
468	raudoho laki (chicken child)	「雞ノ卵」
201	barebu ēdau (morning rice)	「朝飯」
202	arian ēdau (day rice)	「晝飯」
203	kaaman ēdau (night rice)	「晚飯」
216	bukui para (back cloth)	「蕃衣」
247	funni maina (wood skin)	「樹皮」
252	bahānni koak (bird mouth)	「嘴」
265	tsuruh lakki (fish child)	「魚ノ子」
272	lappa lakki (cow child)	「子牛」
273	lappa tama (cow father)	「牡牛」
274	lappa bubu (cow mother)	「牝牛」
337	muhin bailin (nose hole)	「鼻孔」
361	putun rubui (match pocket)	「燧石ナドノ入レ物」
391	kakannoho bāgaha (deer testicles)	「鹿ノ睾丸」
444	batakan sudu (bamboo grass)	「竹ノ葉」
445	batakan banni (bamboo bone)	「竹ノ枝」
171	paru sia (big water)	「洪水」
226	paru batsunuh (big stone)	「大石」
460	paru bahenni (big bird)	「大ナル鳥」
461	tanna paheppa (red flower)	「赤キ花」
462	labu kanchia (white sugarcane) 344	「白キ砂糖」
470	matēroho sia (hot water)	「湯」
307	matēroho mināroho (hot sickness)	「熱病」
466	labu bāgaha (white rice) 345	「白キ米」
302	mahukishi siārek (dead person)	「死人」
435	tsurin sēdan (burn meat)	「焼キタル肉」
465	sinaui bāgaha (wash rice)	「洗ヒタル米」
211	gäga ush chinemu (have sleeve clothes)	「有袖衣」
212	okka ush chinemu (no sleeve clothes)	「筒袖衣」

これらの表を見ると、荒尾の調査時代には修飾部が被修飾部の後に来る語順(表28)と前に来る語順

-

³⁴ アタヤル語の形式 (6.2 節参照)。

³⁴⁵ トゥルク方言の形式 (6.1 節参照)。

(表 29) の両方が用いられていたような印象を受ける。例えば修飾部としての「家」は表 28 では前に来ているのに対し(項目 154, 188, 249),表 29 では後に来ている(項目 151, 152, 153)。ただし現代パラン方言において修飾部が被修飾部の後ろに来る語順がゆるぎないことを鑑みれば、修飾関係の語順が自由だったとは考えにくい。修飾部が前に来る語順は、もしかしたら調査協力者の母語である閩南語の影響を受けたためかもしれない。また、修飾部が前にも後ろにもくる語順が許されるアタヤル語の文法(黃・呉 2018: 50-51)の影響を受けたためかもしれない。

9.2 主語の語順の違い

現代パラン方言では述語が文頭、主語が文末に来る語順が基本であるが、荒尾の語彙集ではこの語順もみられるが、多くの場合逆の語順で現れ、主語が文頭、述語が文末の置かれる(ただし荒尾の例文はほとんどが動作主態である)。表30に現代パラン方言と同様、主語(太字)が述語の後に来る語順の例を示す。

表30 荒尾が主語を後に置く例

	荒尾	語釈
191	wada bahanni	「鳥ガ飛ブ」
415	wada kannoho	「鹿ガ走ル」
488	eda kinoan tana tsunuh däya yamu	「何時日本人ガ汝等ノ社ニ至リシヤ」
313	okka päpak	「足ナシ」
318	okka daudeak	「盲目」
417	okka sēnau	「酒無シ」
416	gäga bāgaha	「米ガ有ル」
301	minäroho raboashi	「腹痛」
303	minäroho bukui	「胸痛」
312	minäroho tsunuh	「頭痛」
315	egu hazi	「肥ヘル」
501	ma ⁿ gēlisi yakko	「吾ハ泣ク」
503	kufun matake yakko	「吾ハ子ムイ」
518	maha inu ish	「汝ハ何處へ行ク乎」
527	maha säpah ish pare ⁿ gau kare	「彼ノ家ニ行テオ話シナサイ」
539	kufun maanu ish	「アナタハ何ヲオ望ミデス」
540	äran ima ish	「汝ハ何社ノ者乎」
546	makera mausa ish ?	「アナタハ往タコトガアリスカ」

次に、荒尾の語彙集において主語が述語の前に来る語順を表31に示す。

表 31 荒尾が主語を前に置く例

表 31	荒尾か王語を削に直く例	
	荒尾	語釈
311	ripun minäroho	「歯痛」
429	sānau kaneepa	「男ガ耕ス」
430	makairin maro	「女ガ縫フ」
432	minaroho maro	「病癒ユ」
432	niau mākan ōrisi	「猫が鼠ヲ咬ム」
434	siarek lēpak fulin	「人ガ犬ヲ殺ス」
464	mabuan habärau	「山高シ」
468	raudoho laki gäga linma	「雞ノ卵ガ五ツアル」
489	hinni masoran kana kufun yamu	「コヽノ大人等ハ皆汝等ヲ愛ス」
515	hinni messi sari	「コレハ芋デス」
521	hish maro	「ソレハヨイ」
522	hinni nakka	「コレハ悪ルイ」
543	hinni äran yakko masolan	「此蕃人ハ私共ノ酋長デス」
544	tana tsunuh äran yamu matena dange	「日本人モ生蕃人モ共ニ朋友ナリ」
476	ken ⁿ gan läbi matake hinni maro ³⁴⁶	「今晩一晩コヽニ泊ルガヨロシイ」
477	lipak siārek nakka	「人ヲ殺スハ悪事ナリ」
453	yakko nänak kaneepa	「自分ニスル」
470	yakko mima matēroho sia	「吾ハ湯ヲ飲ム」
495	yakko kufun kumita	「吾レハ見タシ」
506	yakko mafulishi	「吾レハ喜ブ」
507	yakko kufun eda	「吾レハ来ラン」
533	yakko maolai	「私ハ腹ガヘリマシタ」
534	yakko kufun matake	「私ハ眠クナリマシタ」
535	yakko kufun kasia	「私ハ水ガ欲シイ」
483	ish minäroho maro?	「汝ノ病気ハ快キ乎」
511	ish eda sinoan?	「汝ハ何時来ル乎」
484	kinoan ish mahokin	「彼ハ何時死セシ乎」
504	ish gäga	「彼レハ有ル」
524	ish maseyan	「彼ハ怒テ居ル」
531	ish ma ⁿ gēlisi	「彼ハ悲シミマス」
537	ish mahukin	「彼ハ死ニマシタ」

_

³⁴⁶ 項目 476 と項目 477 については、それぞれ「ここに泊まること」、「ここで寝ること」という動名詞句が 主語となっている。

536	ish minaröho	「彼ハ病気デス」
538	ish minäroho maro	「彼ハ快キ方デス」

例えば表30ではmangērisi yakko「吾ハ泣く」であるのに対し、表31ではish mangēlisi「彼ハ悲ミマス」となっている。同一の動詞を用いているが前者では一人称単数主語が動詞の後、後者では三人称単数主語が動詞の前に用いられている。現代パラン方言とは逆の語順である、表31にみられるような主語が文頭に来る語順は、荒尾の調査協力者が母語の閩南語の語順の影響を受けたものではないだろうか。

9.3 疑問詞の語順の違い

現代パラン方言において疑問詞 ima「誰」,maanulmanu「何」,piya「いくつ」などは述語の位置である文頭に置かれる傾向が強い。例えば,imaheya(who 3SG.PRON)「あれば誰か」,maanuni(what this)「これは何か」,piya babuy(how.many pig)「豚何匹」という表現をする。ところが荒尾の語彙集では,表 32 に示すように maanu やpiya が文頭ではない位置に現れる。これらも媒介言語である閩南語の語順に影響を受けた可能性が否定できない。

表 32 荒尾が疑問詞を文頭以外に置く例

	荒尾	語釈
479	hinni yayun parengau maanu ?	「此川ノ名ハ何ト言フ乎」
480	hish babuyan parengau maanu ?	「アノ山ノ名ハ何ト言フ乎」
481	hish däya pare ⁿ gau maanu ?	「アノ蕃社ノ名ハ何ト言フ乎」
514	hinni maanu ?	「コレハ何カ」
539	kufun maanu ish	「アナタハ何ヲオ望ミデス」
474	yamu däya eda hinni pira räbi	「汝等ノ蕃社カラコヽニ来ルニハ幾日カヽル
		乎」

9.4 時を表す表現の語順の違い

現代パラン方言において時を表す表現は文末に置かれるのが一般的な語順である。例えば、q < um > uyux saya (< av > it.rains today)「今日は雨が降る。」などと言う。ところが荒尾の例文では、表 33 に示すように時を表す表現 (太字で表示) が文頭に置かれている。これらも閩南語の影響を窺わせる。

表 33 荒尾が時を表す表現を文頭に置く例

	荒尾	
471	säda okka kumuzoho	「今日ハ雨ハ降ラス」
475	ken ⁿ gān läbi eda hnni	「一晩寝テ来ル」
482	kaaman matake ish säpa	

512	tsäman eda hinni	「明日コヽへ来ル」
513	makaha ussa däya ish	「明後日汝ノ社ニ往ク」
519	säda matēroho	「今日ハ暑イ」
520	säda masekui	「今日ハ寒イ」
528	säda maro goagi	「今日ハ好天気デス」
529	säda nakka goagi	「今日ハ悪ヒ天気デス」

9.5 数詞・数量詞の語順の違い

現代パラン方言において数詞が名詞とともに用いられ、名詞の数量を表示する場合、この数詞は名詞の前に置かれる。名詞を修飾する要素は名詞主要部の後ろに置かれるのが基本であるが、数詞はこの例外である。例えば「卵五つ」という名詞句は rima baluŋ と言う。

ところが (228) に挙げたように荒尾が類似の意味を現そうとした例文では数詞が名詞主要部から分離して現れる。荒尾の表記は一行目に示し、それぞれの語ごとに現代パラン方言に置き換えたものを二行目に示す (この二行目の表現全体としては、現代パラン方言では非文である)。この例文において「鶏卵」を表す部分である raudoho laki が誤りであることは 6.7 節で述べた。

raudoho laki gäga limma rodux laqi gaga rima 「雞ノ卵ガ五ツアル」

「鶏卵が五つある」を現代パラン方言に置き換えるならば、(229) のようになる。まず存在を表す語として nigan 「ある」という動詞を用いている点が違う (荒尾は giga を用いているがこれについては8.4 節参照)。そして、現代パラン方言では数詞は修飾される名詞の前に置かれる。

(229) 現代パラン方言

niq-an rima balun stay-UVL five egg 「鶏卵が玉つある」

数量詞 kana「両方、全て」も数詞同様、現代ペラン方言では名詞主要部の前に現れる。たとえば「全ての長老」は kana qubusuran (all elder) と言う。これに、指示詞を加え「これら全ての長老」という場合は kana qubusuran nii (all elder this) となる。ところが (230) に挙げたように、荒尾の例文において、kana が名詞句主要部の前に現れていない。ここでは hinni masoran kana 「コヽノ大人等」を主語としたかったと考えられる。しかし、二行目に示したようにこの表現をそのまま現代ペラン方言に置き換えると非文である。

(230) 荒尾 (項目 489)

hinni masoran kana kufun yamu hini qubusuran kana kuxun yamu 「コンノ大人等ハ皆汝等ヲ愛ス」

現代パラン方言において、「これらの長老たちは皆君たちを好いている」を表すには、(231) に挙げたように指示詞 hini を名詞主要部の後、数量詞 kana を名詞主要部の前に置かなければならない。

(231) 現代パラン方言

s<um>ukuvaun yamu kana qubusuran ni <av>like 2PL.PRON all elder this

(231) において文末のni「これ,この」を、荒尾が用いている指示詞hini「ここ」に置き換えることも可能だが、次節に述べるようにniを用いた表現の方が一般的である。

ここまで6節から9節まで、荒尾の語彙集と現代セデック語パラン方言の間に見られる違いについて、語彙的、形態的、意味的、統語的に考察した。何れの文法的側面においても、荒尾の調査協力者がセデック語の母語話者ではなかったことが窺えた。セデック語の習得が不完全であったことは、荒尾の端書に、調査協力者は9歳の時に三か月程度セデック集落に住んでいたときにセデック語を習得したと説明があるように、セデック語との接触は一時的なものであったことにも裏付けられている。調査協力者は平埔族であったと、荒尾が説明しているが、語彙集には少数のパゼッへ語が混じっていたことから、彼が平埔族の中でもパゼッへ族に属していたこともわかった。

荒尾の調査協力者が第二言語として習得したセデック語は、彼の母語であった閩南語の影響と考えられる特徴が多々見られる。この特徴は、語彙から統語へと文法的が複雑さが増していくに従って顕著になる。さらに、浅井(1954:15)が日本時代に主に警察官などによって収集された台湾先住民族の語彙集について述べた意見も参考になる。浅井によると『警察官に蕃通なる一群があって、本務の外講習会の講師をしたり、「語集」類の編輯を命ぜられたりした... 優秀な語学者もあったが、中には蕃人よりも出来ると自負する蕃通も現れて来た。警察で講習する蕃語は Basic 蕃語、悪く言えば Pigeon 蕃語であった。警察官に云うときはこう云うが、我々同志ではこう云うのだと説明する informants がある位である。』ということである。

荒尾の記録したセデック語は、セデック語を第二言語とする調査協力者の文法の習得の不完全さを示すものかもしれない。その一方で、調査協力者が荒尾と意思疎通を行う過程で、文法的な簡易化が図られたビジン的セデック語だったのかもしれない。

10. 『臺灣蕃語蒐録』の「23a (荒井)」と『埔里社撫墾署管轄北番語集』

本節は『臺灣蕃語蒐録』(小川 2006) に引用されている文献のうち、セデック語の資料として挙げられている「23a (荒井)」の語彙が、荒尾 (1898) と一致することを示す。また、小川はこの資料を収録する際に、修正を加えている箇所もある。小川が「23a (荒井)」、すなわち荒尾 (1898) を引用する際に加えた修正についても議論する。

まずは小川 (2006) について簡潔に説明する。小川は台湾オーストロネシア諸語研究の第一人者であり、1928 年から 1936 年まで台北帝国大学を拠点に研究に従事した。小川 (2006) は、台湾オーストロネシア諸語に関する先行研究や小川自身の調査に基づき、21 言語 (アタヤル語、セデック語、サオ語、ブヌン語、ツォウ語、サアロア語、カナカナブ語、ルカイ語、パイワン語、プユマ語、アミ語、カバラン語、バサイ語/ケタガラン語、サイシヤット語、タオカス語、パポラ語、バブザ語、パゼッへ語、ホアニア語、シラヤ語、ヤミ語)のそれぞれを方言・調査地ごとにまとめた語彙対照表である。小川によってまとめられたこの資料 (手稿) は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所に資料番号 OA101 として所蔵されている (三尾・豊島 2005) 347。その後李壬葵らが編集し、『臺灣蕃語蒐録』(小川 2006) として出版に至った。本書においてセデック語のデータは26 件の文献から収集されている。小川は出典の詳細を記していなかったようだが「19 伊能」、「246 森」などと番号の後に氏名が併記されているらしい。表34 の左に、小川 (2006) に挙げられた、セデック語資料のメタデータを示した。表右に示すのは筆者による方言分類と出典の補足である。ただ、落合 (2016b) によるとこれら文献中、アタヤル語のものがふたつ紛れ込んでいる。資料 19 (眉蕃) と 26 (Shabogala) はセデック語ではなくアタヤル語のデータである。

表 34 『臺灣蕃語蒐録』におけるセデック語の出典補足並びに修正

	リリリ (2006)		補足・修正	
19	眉蕃	伊能	Squliq Atayal	伊能(1998) ³⁴⁸
20	卓卡	伊能	Tawda Seediq	伊能(1998)
21	Buhwan	Bullock	Paran Seediq	Bullock (1874)
22	霧社	伊能	Paran Seediq	伊能(1998)
23a	霧社	荒井	Paran Seediq	荒尾(1898)
23b	頂パーラン	杉山	Paran Seediq	杉山文悟 ?
23c	頂パーラン	1/11	Paran Seediq	OA237, OA236
23d	霧社	調査会	Paran Seediq	佐山(1917)
23e	霧社(北蕃語)	飯島	Paran Seediq	飯島幹太郎?
24a	太魯閣	原	Truku Seediq	原世外 ?
24b	太魯閣	石田	Truku Seediq	石田貢 ?

 $^{^{34}}$ 表 34 において OA から始まる資料は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所耐酸のものである。

_

³⁴⁸ 伊能嘉矩の実際の調査は1897年に行われた。

24c.1	太魯閣	森(丑之助)	Truku Seediq	森(1910a)
24c.2	太魯閣	小川	Truku Seediq	OA219, OA220
24c.3	太魯閣	丸井 1914	Truku Seediq	丸井(1914)
24d.1	トルコ	森(丑之助)	Truku Seediq	森(1910b)
24d.2	トロク	丸井 1914	Truku Seediq	丸井(1914)
24d.3	トロツク(北蕃語)	飯島	Truku Seediq	飯島幹太郎?
24e	タウダー	調査会	Tawda Seediq	佐山(1917)
24f	トロツク	調査会	Truku Seediq	佐山(1917)
24g	内タロコ	調査会	Truku Seediq	佐山(1917)
24h	外タロコ	調査会	Truku Seediq	佐山(1917)
24i	タウサイ	調査会	Tawda Seediq	佐山(1917)
24j	バトラン	調査会	Truku Seediq	佐山(1917)
25a	木瓜	田代	Paran Seediq	田代安定 ?
25b	木瓜	調査会	Paran Seediq	佐山(1917)
26	Shabogala	Guérin 1868	C'uli'Atayal	Guérin (1868)

本稿が注目するのは「荒井」によって霧社で記録された資料 23a である。筆者の所見ではこの資料 からのデータは「荒尾」による『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』のデータと一致する。どういう経緯か わからないが「荒尾」を誤って「荒井」と記してしまったのだろう。以下、この『臺灣蕃語蒐録』の 資料「23a (荒井)」と荒尾 (1898) の二つが同一であることを示す。

10.1 小川と荒尾の対照表

『臺灣蕃語蒐録』の項目数は 294 語であるが、小川が資料「23a (荒尾): から引用した語彙は 214 語あった。表 35 に示すのは 23a の項目とそれに対応する荒尾 (1898) の項目である。表右は 23a のデータである。これらに付された通し番号は小川 (2006) による。表左は荒尾 (1898) からのデータを本稿中の通し番号とともに示す。

表 35 『臺灣蕃語蒐録』の「23a (荒井)」と『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』の対照表

『臺灣蕃語蒐録』から	「23a (荒井)」	『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』	
2. 髪 'hair'	sinunox	305. 頭髮	sinunoho
3. 頭 'head'	tunux	334. 頭	tsunuh
4. 額 'forehead'	kaduruk	336. 額	kaduruk
5. 顔 'face'	dehean	335. 顔	dahean
6. 眉 'eyebrow'	medin	332. 眉	mēdin
7. 目 'eye'	daodeak	318. 目	daudeak
8. 耳 'ear'	berashi	330. 耳	bērasi

9. 頬 'cheek'	dakairashi	368. 頬	dakairashi
10. 髯 'beard'	ⁿ gudus	369. 髯	ⁿ gudus
12. ☐ 'mouth'	koak	333. □	koak
13. 唇 'lips'	pudahan	371. 唇	pudahau
14. 舌 'tongue'	haenma	367. 舌	haenma
15. 歯 'teeth'	ripun, howa (ハグキ)	331. 歯	ripun
		309. 歯グキ	howä
23. 胸 'chest'	bukui	329. 胸	bukui
24. 乳房'breast'	nunox	324. 乳汁, 乳房	nunoho
26. 腹 'belly'	raboasi	328. 腹	raboashi
27. 背 'back'	bukui ムネ	329. 胸	bukui
30. 足 'foot'	papak	325. 足	päpak
31. ff. 'blood'	tanna	26. 赤イ, 血	tanna
32. 人 'man'	siarek (別人)	288. 他人	siārek
33. 祖 'ancestor'	bakki	370. 祖孝, 祖父	bakki
35. 祖母 'grandmother'	paai	390. 祖母	paai
36. 男 'male'	senau, lesau 男児蕃人	285. 夫, 男	sānau
		292. 男児,蕃丁	lēsau
37. 女 'female'	makairin	284. 妻,婦人	makairin
38. 夫 'husband'	senau, ama (ムコ)	285. 夫, 男	sānau
		286. 婿	ama
39. 妻 'wife'	makairin, inna (新婦)	284. 妻, 婦人	makairin
		287. 花嫁	innä
41. 父'father'	tama, masolai (叔)	297. 父	tama
		283. 叔父	masolai
42. 母 'mother'	bubu	296. 母	bubu
43. 子供 (男子) 'boy'	lakki, lesau (男子, 蕃丁)	293. 少児	lakki
		292. 男児,蕃丁	lēsau
45. 女子(女児)'girl'	waewa	291. 女児	waewa
46. 名 'name'	gazan	410. 名	gäzan
48. 兄(姉) 'elder brother	masolan	295. 姉, 兄, 酋長	masolan
(sister) '			
49. 弟(妹)'younger	soazi	294. 妹, 弟	soazi
brother (sister) '			
51. 老人 'old man'	daudan	290. 老人	daudan

52. 頭人, 頭目 'chief'	masolan	295. 姉, 兄, 酋長	masolan
53. 朋友 'friend'	dange	105. 朋友	dan ⁿ gā
54. 番社(庄)'village'	daya	167. 蕃社	daya
55. (言) 語(話) 'word,	parengau-kale	47. 話ス	parengau, parengau käle
speech, language'			
56. 虚言'lie (tellalie),	babariak	62. 嘘	babāriak
deceive'			
57. 入墨 'tattoo'	patassi	54. 写ス, 書ク, イレズ	pattashi
		₹	
58. 病 'sick'	minarox	30. 痛イ, 病気	minäroho
59. 痛 'pain'	minarox	30. 痛イ, 病気	minäroho
60. 屎 (尿, 屁), 大便,	kamuchi, barebu (尿)	156. 大便,放屁	kumuchi
小'excrement, urine,		320. 小便	barebu
breake wind'			
61. 死 'die'	mafukin	174. 死	mafukin
65. 目 'sun'	goagi, babi (1 目)	174. 太陽	goagi
66. 月 'moon'	edasi	173. 月	ēdasi
68. 雲 'cloud'	rurun	379. 霧, モヤ, 雲	rulun
69. 雨 'rain'	kumuzox	3. 雨, 雨降ル	kumuzoho
70. 風 'wind'	mangahui	189. 風,風吹ク	ma ⁿ gāfui
73. 昼 'day time'	arian	162. 晝	arian
75. 朝 'morning'	barebu, barebuhale	161. 朝	barebu, barebu häle
76. 午時(昼)'noon'	arian	162. 晝	arian
77. 夕(夜)'evening'	kaaman	163. 夜	kaaman
78. 一昨日 'day before	tshohan(前日)	401. 前日	tshōhan
yesterday'			
79. 昨日 'yesterday'	chega	160. 昨日	chēga
80. 今日 'today'	sada	157. 今日, 今	säda
81. 明日 'tomorrow'	tsaman	158. 明日	tsäman
82. 明後日 'day after	makax	159. 明後日	makaha
tomorrow'			
87. 火 'fire'	punnyak, pausa-punnyak	124. 火, 電	puniak
	(モヤス)	440. アカリヲツケョ	pausa puniak
		425. 火ヲ燃ヤス	pausa puniak
88. 水 'water'	sia	164. 水	sia

89. 山 'mountain'	mabuyan, babuyan	168. 山	mabuyan, babuyan
90. JII 'river'	yayun, sepau (川原),	479. JII	yayun
	yayun funna (川口)	165. 川原	sēpau
		166. 川口	yayun hunna
91. 海 'sea'	cherung (池)	19. 池,堀	chērun
93. 道 'road, way'	erru	170. 道	erru
95. 蟻 'ant'	da ⁿ gagi	253. 蟻	dangāgi
96. 蟹 'crab'	kuzun (蝦)	266. 蝦	kuzun
97. 蛙 'frog'	patui	262. 蛙	pätui
98. 蠅 'fly'	dan ⁿ gau	258. 蠅	dägau
99. 蚤 'flea'	tamakui	254. 蚤	tamakui
100. 虱 'louse'	kuhin, tsumiyake (南京	255. 虱	kuhin
	虫)	256. 南京虫	tsumiyaka
101. 蚊 'mosquito'	kui	260. 蚊	kui
102. 蛇 'snake'	iru	263. 蛇	iru
104. 师 'egg'	barun	193. 卵	bärun
106. 熊 'bear'	sumai	280. 熊	sumai
107. 牛 'bull, buffalo'	lappa, lappa-tana (赤牛),	271. 牛, 水牛	lappa
	lappa-tama (牡牛), lappa-	275. 赤牛	lappa tana
	bubu (牝牛)	273. 牡牛	lappa tama
		274. 牝牛	lappa bubu
108. 猫 'cat'	niao	368 猫	niau
109. 犬 'dog'	hurin	269. 犬	furin
110. 鹿 'deer'	kannox, kakannox	278. 鹿	kannoho, kakannoho
111. 羊 (山羊) 'goat'	medishi	270. 羊,山羊	mēdishi
113. 豹(虎)'leopard'	dakaidshi, maina-dakai-	281. 豹	dakaidisi
	dishi(豹皮)	282. 豹皮	maina dakaidisi
114. 猿 'monkey'	lunai	277. 猿	lunai
115. 山猪 'wild pig'	bauzak	279. 豚	bauzak
116. 猪,豚 'pig'	babui	267. 豚	bäbui
117. 肉(猪肉)'pork,	sedan	197. 肉	sēdan
flesh of pig'			
118. 鼠 'rat'	olishi	276. 鼠	ōlishi
119. 魚 'fish'	tsurux	264. 魚類ノ総名, 蟹	tsuruh
120. 灰 'ashes'	kafurishi	111. 灰	kafurisi
		~ *	

121. 炭 'charcoal'	baga	112. 木炭	bäga
122. 金 'gold'	rabrappu(砂金) ³⁴⁹		
123. 銀 'silver'	pira	77. 銀貨, 幾何	pira
126. 石 'stone'	batunuf	128. 石	batsunuh
128. 砂 'sand'	raburappu (砂金)		
129. 塩 'salt'	chimo, timo (?)	196. 塩	chimo
131. 豆 'beans'	aidan, bairox(緑豆,赤	235. 豆	aidan
	豆),gesan(烏豆,肉豆,	227. 小豆	bairoaha
	フマメ) , tarabush (土豆)	228. 黒豆	gētsan
		236. 落花生	tarabush
132. 芎蕉 'banana'	bunebun	365. 芭蕉ノ実	bunebun
133. 稲 (栗) 'rice	padai	240. 稲, 穂, モミ	pädai
(middle) in the stalk'			
134. 米 'rice'	bagax, btsubura (糯)	200. 米	bāgaha
		230. 餅米	tsubura
135. 飯 'cooked rice'	edau, papurai (炊)	199. 飯	ēdau
136. 食飯 'eat rice'	makan-edau	421. 飯ヲ食フ	mākan ēdau
137. 柑 'orange, etc.'	Madu, tarahai (柚), kutti	234. 蜜柑	mudu
	(?仔)	400. 柚仔	tarahai
		395. 青キ「い久り」ノ	kutti
		実ノ如キ者	
138. 甘薯 'sweet	buna, sari (芋)	231. 蕃薯	buna
potato'		515. 芋	säri
139. 砂糖 (甘蔗) 'sugar	kanchia	462. 砂トオ	kanchia
(cane) '			
140. 酒 'spirit, wine'	senau	417. 酒	sēnau
141. 煙草 'tabacco'	tamako, tamako-rubui	141. 煙草	tamako
		142. 煙草入レ	tamako rubui
143. 煙管 'tobacco	pukan	143. 煙管	pukan
pipe'			
145. 苧麻 'hemp'	nukkax, vairox (麻)	397. 苧	nukkaha
		396. 藤	wairoho
146. 菜 'vegetables'	rama, sama (白菜),	198. 菜	räma
	papurai-dama (煮菜)	229. 白菜	säma

.

³⁴⁹ 小川 (2006) に記されたこの語は荒尾 (1898) には見当たらない。

		472. 菜ヲ煮ル	papurai däma
148. 木(材) 'tree, wood'	funni (木, 薪)	241. 薪	funni
149. 竹'bamboo'	batakan	237. 竹	batakan
150. 樹枝 'branch'	banni	248. 枝	banni
151. 葉 'leaf'	sudu	239. 稲, 藁, 葉	sudu
153. 花 'flower'	paheppa	461. 花	paheppa
155. 弓 'bow'	kiyon pan (土語?)	118. 弓	kiyon pan
156. 矢 'arrow'	kinongche (土語)	119. 矢	kiyon chē
157. 銃 'gun, rifle,	chebuharung	58. 発砲スル	chebu harun
musket'			
159 鎗 'spear'	mara ⁿ gan	116. 鎗	mara ⁿ gan
160. 刀 'sword'	simada	117. 刀	simada
161. 小刀 'pocket knife	yayu	125. 剃頭刀,小刀	yayū
(農具) ,			
162. 銭 'money'	habagan	78. 台湾銭	habägan
163. 笛 'flute'	pina (土語), tubu 嘴琴	120. 笛	pinä
		144. 嘴琴	tubu
164. 鍋 'pot'	shufa (銅ナベ), ribau (鉄	138. 銅鍋, 洗面器	shūpā
-	ナベ), kau (土ナベ)	140. 鉄鍋	ribau
		139. 土鍋	kaū
165. 瓶カメ 'jug, jar,	tsuki, sarau (カメ),	213. 酒瓶	tsuki
pot'	tumun(水カメ), shupan	136. 甕, 酒甕	särau
	(土瓶)	137. 水甕	tumun
167. 家 'house'	sapa	149. 家	säpa
169. 屋根 'roof'	sapa-habarau	155. 屋根	säpa-habärau
170. 蕃布 'cloth'	tsapan (蕃布), habu (褌),	85. 蕃布	tsäpan
	bukuy-para (胸布), tawak	113. 帯, 褌	habu
	(頭布), serun (ペキ),	216. 方布の蕃衣	para, bukuy para
	labui (白布), larisi (赤	219. 頭ニ捲ク布	tawak
	布), lawa barai (褐布),	383. 赤キキレ	serun
	lawa-ukin (黒布), karabui	490. 白布	läbui
	(模様布)	491. 赤布	lärisi
		492. 褐布	lawa bärai
		493. 黒布	lawa ukin
		494. 模様付布	karabui
171. 衣 'clothes'	chinemu (霧社), rukusi	206. 着物	chinemu (霧社ノ語)

	(万社), habu (褌),	207. 着物	rukushi(万社ノ語)
	baratan (卓卡), sara (タ	113. 帯, 褌	habu
	ロク), pakusan-lukusi	208. 着物	baratan(タウッア社)
	(着衣)	209. 着物	語)
		438. 着物ヲ着ル	sara (トロック社ノ語)
			pakusun luksi
172. 帽, 頭飾 'cap,	bunnax	222. 帽子	bunnaha
hat'			
173. 頚輪, 頚飾 'ring	otsubin	224. 頚輪	ōtsubiu
(neck) '			
174. 手輪, 腕輪 'ring	kanawa lemuk(指輪)	218. 腕輪	kanawa
(arm), bracelet'		217. 指輪	lēmuk
175. 耳輪 (耳竹), 耳飾	tarau (総称), maliku (直	215. 耳飾の総称	tarau
'ring (ear) '	角)	221. 女ノ耳ニ垂レタ	maliku
		ル者	
176. 履物, 鞋'shoes	yami (万社), sapish (襪)	214. 下駄, 草履	yami (Speech o
(straw) '		338. 襪	Banhowan)
			sapishi
177. 網袋(網)'bag'	taukan, karai	223. 網袋	taukan
		358. 網袋	karai
178. 皆 'all'	kana	66. 皆の, 凡テ	kana
180. 少 'few'	chekoax	21. 些少, 小サキ	chēkoaha
181. 好 'good'	maro	9. 善,美,all right	maro
182. 歹, 悪 'bad'	nakka	8. 悪, 醜	nakka
183. 大 'large'	paru, egu-paru	23. 大ナル	paru
		7. ヨリ大	egu paru
184. 小 'small'	chekoax	21. 些少, 小サキ	chēkoaha
185. 苦 'bitter'	mangehui	10. 酸イ, 苦イ, 辛イ,	manēhui, manēhuiwa
		渋イ、鹹イ	
186. 甘 'sweet'	sasebush, maro-pukun (好	244. 甘イ	sasēbush
	食)	180. 御馳走	maro pukun
187. 酸 'sour'	mangehui	10. 酸イ, 苦イ, 辛イ,	manēhui, manēhuiwa
		渋イ, 鹹イ	
188. 鹹'salty, taste like	mangehui	10. 酸イ, 苦イ, 辛イ,	manēhui, manēhuiwa
salt'	-	渋イ, 鹹イ	
189. 寒 'cold'	masekui	27. 寒イ	masekui
		• •	

191. 熱, 暑 'hot'	materox, macherox	28. 熱イ, 暑イ	machēroho
194. 遅 'slow'	matara häle	4. 徐々二	matara häle
195. 速 'quick'	hale	5. 早く, 早く来レ	ägoa häle
196. 長 'long'	taeya	17. 遠イ, 長イ	taeya
197. 短 'short'	rarin	18. 近イ, 短イ	därin, rärin
201. 赤 'red'	tanna, chepo (褐)	26. 赤イ, 血	tanna
		25. 褐色	chēpo
202. 白 'white'	rabu	24. 白イ	räbu
205. 軽 'light (not	rauka, dauka	15. 軽イ	rauka, dauka
heavy) '			
206. 重 'heavy'	matsairin	16. 重イ	matsairin
207. 高 'high'	habalau	155. 高イ	habärau
208. 低 'low'	dakahayan (低地)	20. 低イ,地	dakahāyan
209. 遠 'far, distant'	taeya	17. 遠イ, 長イ	taeya
210. 近 'near'	rarin, darin	18. 近イ, 短イ	därin, rärin
213. 有 'to be, exist'	gaga	88. 有ル	gäga
214. 無 'not to be, is not'	okka	87. 無イ	okka
215. 来 'come'	agoa, eda	89. 来イ, 来ル, 来タ	ägoa
		164. 来ル	eda
216. 去 'to go'	maussa, ussa, maha	29. 行ク	ussa, mausa, maha
218. 走 'run'	wada	86. 走ル	wada
219. 飲 'drink'	mima	204. 飲厶	mima
220. 食 'eat'	makan, ekkan, pukun	70. 食フ, 咬ム	mākan
		423. 食	pukun
		454. 食フ	ekkan
221. 坐 'sit'	tareon	37. 坐ル, 屈ム	tareon
222. 謡 'to sing'	maowashi	107. 唱歌, 歌フ	maowashi
223. 躍 'to dance'	kimeki	106. 躍リ, 踊ル	kimeki
224. 眠 'sleep'	matake, take	39. 眠ル	matake, take
171. 見 'see'	kimita	90. 見ル	kimita
228. 泣 'weep'	mangelisi	436. 泣ク	mangēlisi
229. 笑 'laugh'	mafulissi	49. 喜ブ, 笑フ	mafulissi
230. 射 (銃) 'to shoot a	chebu-harun (発砲)	58. 発砲スル	chebu harun
gun'			
231. 狩 (捕) 'to hunt'	papurin, sikari (猟)	108. 猟	papurin

		109. 漁	sikari
232. 打 'strike'	maebu, baebu, chinbabu	33. 打ツ	maebu, baebu
		55. 打ツ	chi ⁿ bābu
233. 殺 (斬) 'to kill'	pakkun(斬), lipak (殺), lippak(殺)	74. 斬ル	lipak, pakkun
234. 好 (コノム), 愛	kufun	53. 愛スル, 好ム	kufun
(欲),喜 'like to do,			
joyful'			
235. 怒 'angry'	maseyan	45. 怒ル	maseyan
236. 與 'to give'	bekki, pagesa (與ヘ),	81. 與ヘル	bekki
	taeta (貸)	542. 与エヨ	pagesa
		498. 貸ス	taeta
237. 知 'to know'	karaun, kera, makera	50. 知ル	karaun, makera, kera
238. 我 'I'	yakko	412. 吾	yakko
240. 你 'you'	ishu	91. オマヘ, オマヘ等	ish
241. 你等 'you'	yamu	410. 汝ラ	yamu
242. 彼 'he' 彼処	ish, hish (ソコ)	93. 其處,ソレ,ソレ	hish
		等,其方	
244. 此 'this, here'	hinni (ココ)	92. 此処, コレ, コレ	hinni
		等,此方	
245. 誰 'who'	ima	94. 何(性名ヲ問フ)	ima
246. 何 'how much,	maanu	95. 何, 何故	maanu
what, why'			
247. 何時 'when'	kinoan, sinoan	484. イツ	kinoan
		467. イツ	sinoan
248. 何处 'where'	inu	96. 何處	inu
250. 否, 不 'no'	iya, ini	68. 不可	iya
		51. 不	inni
251. 臺灣人, 漢人	pamukan, panimukan,	99. 台湾人	pamukan, panimukan
'Formosan, Chinese'	baanux (臺灣), tarro (清	389. 台湾	baānuh
	國人), tana-tounux (紅	100. 清国人	tarrō
	毛,西洋人)	101. 日本人	tanna tsunuh
252. 生番 'aborigines'	aran, tebu (霧社),	98. 生蕃人	aran
	pa ⁿ gawan (万社), katina	363. 霧社蕃	tēbu
	(南蕃)	364. 万社蕃	pangawan
		399. 南蕃人	katina

253. 熟番 'half-	kavu	97. 熟蕃人	kabu
cilivized aborigines'			
254. — 'one'	win, kengan-labi (─∃)	338. 1	win
		475. —	kenngan
		475. 一睌	ken ⁿ gan läbi
255.	daha	339. 2	daha
256. 三 'three'	tel	340. 3	tel
257. 四 'four'	seppa	341. 4	seppa
258. 五 'five'	rima	342. 5	rinma
259. 六 'six'	matel	343. 6	matel
260. 七 'seven'	mapit	344. 7	mapit
261. 八 'eight'	maseppa	345. 8	maseppa
262. 九 'nine'	magari	346. 9	magari
263. + 'ten'	mahol	347. 1 0	mahal
205. + 'eleven'	mahol-ke	347. 1 1	mahan ke
268. <u>-</u> + 'twenty'	maposan	349. 2 0	maposan
270. 三十 'thirty'	mateln	350. 3 0	mateln
272. 四十 'forty'	masipad	351. 4 0	masipad
274. 五十 'fifty'	marimma	352. 5 0	marinma
276. 六十 'sixty'	matel-makaten/mahadan	353. 6 0	matel makaten
278. 七十 'seventy'	mapit-mahadan	354. 7 0	mapit mahadan
280. 八十 'eighty'	maseppa-mahadan	355. 8 0	maseppa mahadan
282. 九十 'ninety'	magari-mahadan	356. 9 0	magari mahadan
284. 百 'hundred'	kekka-bakui	357. 1 0 0	kekka bakkui

上の表に見られるように、小川の引用した資料「23a 荒井」のデータは荒尾 (1898) のデータにほぼ 一致する。これら二つの資料は、誤ってパラン方言以外の語彙を挙げた箇所まで一致する。

10.2 セデック語パラン方言以外の語彙を挙げた項目の一致

荒尾 (1898) のセデック語パラン方言語彙集には少数ではあるが閩南語, アタヤル語, パゼッヘ語が混入している。荒尾が記した, これらセデック語パラン方言以外の語彙と同一の語彙が小川の「23a 荒井」にも挙げられている。これらの語彙を対照したものを表 36 に示した。語彙の後の括弧は項目番号を示す。「弓, 矢, 笛」の項目において, 小川はそれらが閩南語の形式であることを認識しており, 語彙の後に十語 (閩南語を指す) と注釈を書き入れている。

表 36 荒尾 (1898) と「23a 荒井」(小川 2006) におけるパラン方言以外の語彙

荒尾	小川「23a 荒井」	注釈	言語の特定
kiyon pan (155)	kiyon pan (土語 ?) (118)	「弓」	閩南語
kiyon chē (156)	kiyonhche (土語) (119)	「矢」	閩南語
pinä (163)	pina (土語) (120)	「笛」	閩南語
räbu (24)	rabu (202)	「白」	アタヤル語
mangēlisi (436)	mangelisi (172)	「泣」	アタヤル語
bāgaha (200)	bagax (134)	「米」	セデック語トゥルク方言
goagi (174)	goagi (64)	「目」	アタヤル語
kuzun (266)	kuzun (96)	「蝦」	パゼッヘ語
dägau (258)	dan ⁿ gau (98)	「蠅」	パゼッヘ語
aidan (235)	aidan (131)	「豆」	パゼッへ語

10.3 小川が加えた「23a 荒井」への変更

小川が加えた修正のひとつは \bar{a} , \bar{a} , \bar{a} などに付された発音区別符号を取り除いたことである。取り除いても影響を与えない、余分な情報と判断したのだろう。しかし、荒尾の符号には強勢の位置を表す、[a] と[e] の区別、[e] と[i] の区別を表すなどの機能が見られた。そのため小川(2006)の「23a 荒井」を参照する際は、原典である荒尾(1898)をも併せて参照することが必要となる。

もうひとつの修正は、荒尾の語彙集において、語末が VhV であり、さらに V が同一母音である場合に見られる。小川は「23a 荒井」のデータから最終母音を取り除いて示している。このような語彙は 10 語見られた。また、小川はこのような語において、荒尾の h をx に置き換えている。現代パラン方言では、語末にはx とhの二種類の音が現れる。表 37 ではx で現れるか、h で現れるかで分類して示す。

表 37 荒尾の語末表記 VhV から Vx への修正

現代パラン方言	荒尾	小川「23a 荒井」	注釈
sununux	sinünoho (305)	sinunox (2)	「髪」
munarux	minäroho (30)	minarox (58)	「痛い」
qитиуих	kumuzoho (3)	kumuzox (69)	「雨が降る」
ruqenux	kannoho, kakannoho (278)	kannox, kakannox (110)	「鹿」
quwarux	wairoho (396)	vairox (145)	「藤」
mutilux	machēroho (28)	macherox (191)	「熱,暑」
nunuh	nunoho (324)	nunox (24)	「乳」
nuqah	nukkaha (397)	nukkax (145)	「麻」
bunuh	bunnaha (222)	bunnax (172)	「帽」
tikuh	chēkoaha (21)	chekoax (184)	[7]\]

これら以外に、小川が荒尾のデータ中の分節音に対し変更を加えた項目を表38に示す。

表 38 分節音の変更

	現代パラン方言	荒尾	小川「23a 荒井」	注釈
i	tunux	tsunuh (334)	tunux (3)	「頭」
ii	qucurux	tsuruh (264)	tsurux (119)	「魚」
iii	butunux	batsunuh (128)	batuhuf (126)	「石」
iv	daŋi	dangā (105)	dange (53)	「朋友」
v	guciluŋ	chērun (19)	cherung (91)	「海」
vi	pudahuŋ	pudahau (371)	pudahan (13)	「唇」
vii		bukui para (216)	bukuy-para (170)	「一種の布」

表中(i-ii)において、荒尾の語末 h を小川は x に変更した。項目(iii)では荒尾の語末 h を f に変更しているが、現代パラン方言では語末 x に相当する。また(i-iii)において荒尾の ts を小川は t に変更している。現代パラン方言でもこれらはすべて t である。項目(iv)では荒尾の語末 ā を e に変更している。現代パラン方言では i であり、小川の表記の方が音声的に近い。項目(v)では荒尾の語末 n を小川は ng に変更している。現代パラン方言では g である。項目(vi)では荒尾の語末 u を n に変更している。現代パラン方言では g であり、小川の変更した音に近い。項目(vii)の荒尾の bukui について、小川は語末の二重母音の後部要素を i から g に書き換えている。しかしこの語は、表 35 中の小川による項目番号 23 と 27 においても見られるが、ここでは荒尾の表記を変更せずに i を用い、bukui としている。総じてこれら小川の変更は、より正確な音声表記へ修正を加えたものである。

その他にみられた表記上の差異を表 39 に示す。これらは、小川がより正確な音声を表すための変更とは考えにくいものである。また小川 (2006) における誤植が疑われる項目も併せて表に示す。

表 39 荒尾 (1898) と「23a 荒尾」の表記上の差異と「23a 荒尾」の誤植

荒尾	「23a 荒尾」	注釈	補足
bērasi (330)	berashi (8)	「耳」	si と shi
pattashi (54)	patassi (57)	「入墨」	shi とssi, tt とt
rulun (379)	rurun (68)	「雲」	1 と r
niau (368)	niao (108)	「猫」	u と o
gētsan (228)	gesan (131)	「豆の一種」	ts と s
mudu (234)	madu (137)	「柑」	y と a
wairoho (396)	vairox (145)	「藤」	$w \succeq v$
rukushi (207)	rukusi (171)	「衣」	shi と si
	bērasi (330) pattashi (54) rulun (379) niau (368) gētsan (228) mudu (234) wairoho (396)	bērasi (330) berashi (8) pattashi (54) patassi (57) rulun (379) rurun (68) niau (368) niao (108) gētsan (228) gesan (131) mydu (234) madu (137) wairoho (396) vairox (145)	bērasi (330) berashi (8) 「耳」 pattashi (54) patassi (57) 「入墨」 rulun (379) rurun (68) 「雲」 niau (368) niao (108) 「猫」 gētsan (228) gesan (131) 「豆の一種」 mudu (234) madu (137) 「柑」 wairoho (396) vairox (145) 「藤」

³⁵⁰ 早期パラン方言には rulun が見られたが、現代では失われている。

.

sapic	sapishi (338)	sapish (176)	「履物」	shi と sh
hubaro	habärau (115)	habalau (207)	「高」	r と l
muriman	marinma (352)	marimma (274)	「五十」	n と m
cumiq	tsumiyaka (256)	tsumiyake (100)	「虱」	a と e
rabi	räbi (474), läbi (476)	babi (65)	「夜」	語頭 r/l を b と記入
mukaxa	makaha (159)	makax (251)	「明後日」	語末aを記入していない
tubula	tsubura (230)	btsubura (134)	「米の一種」	語頭 b を余分に記入
biyu	ōtsubiu (224)	otsubin (173)	「頚輪」	語末uをnと記入

ここまで小川 (2006) の『臺灣蕃語蒐録』における「23a 荒井」と、荒尾 (1898) が同一資料であることを見た。小川は荒尾のデータに対し自身の解釈により修正などを加えている。ただしこの修正によって一部の母音の区別が失われることになった。また、多少の誤植も見受けられる。小川の「23a 荒井」を参照する際は、原典の荒尾 (1898) も併せて参照することが肝要である。

11. おわりに

およそ 120 年前に荒尾 (1898) が著わしたセデック語パラン方言の語彙集に対し、注釈を加え、現代パラン方言との比較を試みた。荒尾の調査協力者の李阿輝はセデック語の通訳ではあったものの、セデック語の母語話者ではなかった。李のセデック語は幼少期に数か月間、パラン集落で過ごした時の記憶に基づくものだと考えられる。李がセデック語を完全に把握するには至らなかったことが今回の分析を通して見えてくる。

形態的に言って本来許容されない語形成の語が見られた。本来なら一語で言い表せる語を説明的な表現で補っている箇所も見られた。語彙集には閩南語の他、セデック語トゥルク方言、アタヤル語の混入が見られた。さらにパゼッへ語が混入している例もあることから調査協力者の李阿輝の父親はパゼッへ族だったことが推察される 551 。また、音韻面では母語である閩南語の影響を受けていることも多く、ほかにも多少のアタヤル語の影響が見られた。また荒尾自身が、rと1を混同する、kとqを区別しないなど、日本語母語話者としての音韻的影響を受けた表記を用いていた。6.7 節から9 節まで議論した、語彙的・形態的・意味的・統語的な文法面においては、文法性がより複雑になるにつれて精度が低くなることもわかった。さらに、閩南語に影響を窺わせる特徴が多々見られた。

しかし、個々の語のレベルにおいては、ある程度の正確性で当時のセデック語パラン方言を伝えており、セデック語の資料の中でも最も早期の、しかも豊富なデータを提供している。そのため荒尾の語彙集の価値が損なわれるわけではない。荒尾の調査協力者の特性のため、多少の非母語話者的デー

_

³⁵¹ このように調査協力者自身の母語である平埔族の言語がセデック語のデータに混じる例は Bullock (1874) にも見られた。Bullock 一行を霧社まで案内したのは埔里在住の Atun という平埔族の老人だった そうだが (Steere 2009: 73), 彼がセデック語に長けている状況が描かれており, Bullock 一行はこの老人からセデック語の単語を調査したのではないかと思われる。というのもセデック語のデータの中にタオカス語と思われる単語が二語 (ramut 「全て」と sasainad 「稲妻」) 含まれていたからであり (Ochiai 2016: 316—317), Atun はタオカス族だったと推察される。

タが混じっているとしても、荒尾の端書にあるように『全然誤謬なき者とは断言するを憚れども亦 Great Mistakes なし』と言うことができる。

本稿は荒尾の言葉『後の北蕃語集に對する者願わくは阿輝の末路を想い軽々に看過するなくんば幸なり』を受け、筆者が現時点でできる限りの分析を尽したつもりである。本稿が今後、セデック語並びに台湾オーストロネシア諸語研究の発展に資するところとなれば幸いである。

参考文献

赤間富三郎 (1932) 『セーダッカ蕃語集』臺中市: 臺中州警務部.

荒尾英馬 (1898) 『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』 [臺灣大學深化臺灣研究核心典藏數位計畫・(dtrap.lib.ntu.edu.tw) において公開 (最終閲覧日 2018/12/28/).

Asai, Erin (1953) The Sedik Language of Formosa. Kanazawa: Cercle Linguistique de Kanazawa.

浅井恵倫 (1954) 「台湾言語学はどこまで進んだか?」 『民族学研究』 18:12-19.

Blust, Robert (1999) Subgrouping, Circularity and Extinction: Some Issues in Austronesian Comparative Linguistics. In: Elizabeth Zeitoun and Paul Jen-kuei Li (eds.) Selected Papers from the Eighth International Conference on Austronesian Linguistics, 31–94. Taipei: Institute of Linguistics (Preparatory Office), Academia Sinica.

Blust, Robert (2013) The Austronesian languages. Canberra: Australian National University, Research School of Pacific and Asian Studies.

Bullock, Thomas L. (1874) Formosan dialects and their connection with the Malay. *China Review: Or Notes and Queries on the Far East* 3: 38–46.

Chappell, Hilary (2018) A sketch of Southern Min grammar. In: Alice Vittrant and Justin Watkins (eds.) The Mainland Southeast Asia linguistic area, 176–233. Berlin: Mouton de Gruyter.

陳傑惠 (1996)「賽德克語中原地區方言否定詞初探」國立清華大學碩士論文.

Egerod, Søren (1980) Atayal-English dictionary. London: Curzon.

淵脇英雄(1938)「伊能文庫に就いて」『愛書』10:187-196.

Guérin, M. (1868) Du dialecte Tayal ou aborigène de l'île Formose. Bulletin de la Société de Géographie 16: 166–495.

伊能嘉矩 (1908) 「臺灣十蕃の十地命名に就き」 『東京人類學雑誌』 12:360-366.

伊能嘉矩(1996)『台灣踏査日記<上>』楊南郡譯. 台北: 遠流.

伊能嘉矩 (1998) 『伊能嘉矩: 蕃語調査ノート』 森口恒一編. 東京: 日本順益台湾原住民研究会.

黄美金・吳新生 (2018) 『泰雅語語法概論』 第二版. 新北市: 原住民族委員會.

黄美金・吳新生(編)(2018)『原住民族語言詞典泰雅語詞典』臺北: 原住民族委員會. https://e-dictionary.apc.gov.tw(最終閲覧日 2020/5/9/).

李恒全 (2007) 「台北帝国大学設立計画案に関する一考察: 幣原坦の設立構想を中心に」 『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』 1: 45-64.

Li, Paul Jen-kuei (1981) Reconstruction of Proto-Atayalic phonology. Bulletin of the Institute of History and

Philology, Academia Sinica 52 (2): 235–301.

Li, Paul Jen-kuei and Shigeru Tsuchida (2001) Pazih dictionary. Taipei: Institute of Linguistics (Preparatory Office), Academia Sinica.

丸井圭次郎(1914)『太魯閣蕃語集』臺北:臺灣總督府民政部蕃務本署.

三尾裕子 (2009)「『蕃語編纂方針』から見た日本初期における台湾原住民調査」『日本台湾学会報』 11: 155-175.

三尾裕子・豊島正之(編)(2005)『小川尚義浅井恵倫台湾資料研究』府中:東京外国語大学アジア・ア フリカ言語文化研究所

森丑之助(1917)『臺灣蕃族志』1 巻. 台北: 臨時臺灣舊慣調査會.

森丑之助 (1910a) 『太魯閣蕃語集』 臺北: 臺灣總督府蕃務本署.

森丑之助 (1910b) 『埔里社方面トルコ蕃語集』 臺北: 臺灣總督府蕃務本署.

落合いずみ (2015) 「セデック語パラン方言の二重母音について」 『日本言語学会 150 回大会予稿集』 392-397. 京都: 日本言語学会.

Ochiai, Izumi (2016) Bu-hwan vocabulary recorded in 1874: Comparison with Seediq dialects. *Asian and African Languages and Linguistics* 10: 287–324.

Ochiai, Izumi (2018) Ryuzo Torii's Paran Seediq glossary (1900) : Annotation and observation, *UST Working Papers in Linguistics* 10: 113–143. Hsinchu: Gratuate Institute of Linguistics, National Tsing Hua University.

Ochiai, Izumi (2018) Historical reduplication in Seediq. Kyoto University Linguistic Research 37:23-40.

Ochiai, Izumi (2019) "Morrow" in Seediq. The Kobe Gaidai ronso 70 (1): 131–144.

落合いずみ (2016a)「セデック語パラン方言の文法記述と非意志性接頭辞の比較言語学的研究」京都 大学博士論文

落合いずみ (2016b) 「『臺灣蕃語蒐録』のシャボガラと眉蕃ーセデック語ではなくアタヤル語としての 分類-」 『東京大学言語学論集』 37: 171-190.

小川尚義 (1931) 『アタヤル語集』 台北: 台湾総督府.

小川尚義 (1939) 「時に関する高砂族の語」 『民族学研究』 5 (1):1-15.

小川尚義 (2006) 『臺灣蕃語蒐錄』 [李壬癸・豊島正之(編)]. 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

小川尚義(年代不明)Se'ediq 1. 手稿.

小川尚義(年代不明)Se'ediq 2. 手稿.

小川尚義 (年代不明) タロコ語彙. 手稿.

小川尚義・淺井恵倫(1935) 『原語による台湾高砂族伝説集』 台北: 台北帝国大学言語学研究室

Pecoraro, Ferdinando (1977) Essai de Dictionnaire Taroko-Français. Paris: Société pour l'Etude et la Connaissance du Monde Insulindien.

佐山融吉(1983 [1917])『蕃族調査報告書: 紗績族調査報告書前篇(霧社蕃・韜佗蕃・卓犖蕃)・後篇 (太魯閣蕃・韜賽蕃・木瓜蕃)』台北: 南天書局.

Steere, Joseph B. (2009) 『福爾摩沙及其住民: 19 世紀美國博物學家的台灣調查筆記』 Formosa and Its

Inhabitants. 林弘宣譯. 臺北: 前衛.

- 曹逢甫・姚榮松・張屏生(編)(2011)『臺灣閩南語常用詞辭典』臺北:中華民國教育部.
- 鳥居龍蔵(1900)「台湾埔里社霧社蕃の言語(東部有黥面蕃語)」『東京人類学会雑誌』176:71-74, 177: 100-104.
- 鳥居龍蔵(1901a)「台湾埔里社霧社蕃の言語(東部有黥面蕃語)」『東京人類学会雑誌』178: 133-137.
- 鳥居龍蔵(1901b)「埔里社山上万大社の番人は東部黥面蕃にあらず」『東京人類学会雑誌』183:373-377.
- Rakaw, Lowsi, Jiru Haruq, Yudaw Dangaw, Yuki Lowsing, Tudaw Pisaw, and Iyuq Ciyang(編) (2006) 『太魯閣族語簡易字典』 秀林郷: 秀林郷公所.
- Wolff, John (2010) Proto-Austronesian Phonology with Glossary. Ithaka: Southeast Asia Program Publications, Cornell University.

アイヌ・先住民族言語アーカイヴプロジェクト報告書

十九世紀末のセデック語資料『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』 一百余年後の言語学的考察—

2020年11月30日発行

著 者 落合いずみ

発 行 〒060-0808 札幌市北区北8条西6丁目 北海道大学アイヌ・先住民研究センター

印刷·製本 柏楊印刷(株)